

ノ例ナリシ處將來傳染病者ノ看病人其他該病毒ニ汚染シタル病家ノ家人交通遮断シタル場合ヲ除ク又ハ該病死屍並汚穢物等ノ運搬人等ハ病者治癒死亡又死屍ハ汚穢物ヲ取扱ヒタル後傳染病豫防心得書消毒之方法第三項第六項ニ依リ充分ノ消毒法ヲ施行スレハ交通ヲ許シ隔離ヲ要セス
醫師傳染病者ニ直接シタル場合モ其時々消毒之方法第三項ニ依リ消毒セシムヘシ
消毒用生石灰ハ貯藏ナク又ハ容易ニ得難キ地方ニ在ツテハ普通ノ石灰又ハ燐灰ヲ使用スルモ差支ナシ但分量ハ生石灰ニ比シ多量ナルヲ要ス

○勅令第十四號 二十七年二月七日

第一條 府縣知事ハ傳染病豫防上必要ト認ムルハ市町村ヲシテ左ノ費用ヲ負擔セシムルヲ得
一 種痘ニ關スル諸費
一 豫防消毒ニ要スル諸費

一 避病院隔離病室又ハ隔離所ニ關スル諸費
一 豫防並ニ救療ノ爲メ備入タル醫師ニ關スル諸費

第二條 府縣知事ニ於テ傳染病流行ノ勢盛ニシテ前條ニ記載シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ市町村ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ其ノ負擔ニ堪ヘサル費額ノ支出ハ府縣稅府縣制ヲ實施セサル府縣ニ於テハ地方稅ノ負擔トス

第三條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則第十三條第十四條第一項及第十五條第二項ノ費用ハ府縣稅府縣制ヲ實施セサル府縣ニ於テハ地方稅ノ負擔トス

○縣訓令第四十一號 廿七年六月十二日 郡役所 町村役場

傳染病ノ豫防ハ初期ニ於テ其處置ヲ迅速ニスルニアリ然ルニ往々費用ノ支出ヲ躊躇シ稍々流行ノ兆アルニ當リ俄ニ費途ノ計畫ヲ爲スモ既ニ豫防ノ時機ヲ失シ唯ニ多額ノ費用ヲ要スルノミナラス遂ニ病毒ノ蔓延ヲ防遏スル能ハザルニ至ル依テ各町村ニ於テ左ニ掲クル費用ノ支出ニ差支ヘサル様豫メ準備シ自然本年二月勅令第十四號ニ依リ特ニ命令ヲ發スルノ已ヲ得サルニ至ラシメサル様取計置クヘシ

一 牛痘苗買入並ニ種痘ニ關スル諸費
一 患者死者及汚穢物等運搬夫雇入費
一 避病院又ハ隔離室ニ要スル諸費
一 巡診其他豫防上ニ付醫師雇入費

○縣訓令甲第五十一號 二十六年九月九日

明治廿五年三月訓令甲第十二號傳染病ニ罹ル赤貧者ニ屬スル諸費給與手續左ノ通改正ス

第一條 赤貧者トシ罹病諸費ヲ給與スヘキ者ハ左項ニ該當スル者ニ限ル

一 恤救規則ニ依リ救助米ノ給與ヲ受ケ居ルモノ並其家族
一 縣稅賦課徵收方法ニ依リ戶數割ヲ賦課セサルモノ並其家族

一 土地家屋ヲ所有セス勞力工作非主或ハヲ以テ僅ニ其日ノ生計ヲ營ムモノ並其家族
但土地家屋ヲ所有スルモ土地ハ其地價金三圓未滿居家ハ建坪十二坪未滿ノモノ

第二條 罹病諸費ハ左ノ金額以內ヲ給與スルモノトス

一 治療藥價
一日分金五錢以內救急頓服藥及皮下注射並灌腸ハ一回金二錢以內但年齡十年未滿ハ半額以內トス

一 醫師診察料
初診金十錢以內再診以上一回金五錢以內一日二回以上診察スルコトアルモ一回分ノ外給セス又一家ニ於テ同時ニ二名以上ノ患者ヲ診察スルモ各別ニ給セス

往復一里以上ノ場所ニ往診スル場合ハ一里ニ付一里未滿ハ割捨金五錢以內ノ車馬賃ヲ給スルコトアルヘシ

一 患者病中食餌費(滋養物代トモ)
一日金四錢五厘以內年齡十年未滿ハ半額以內トス尤獨身者等ニテ實際止ムヲ得サルモノニ給

- 一 但恤救規則ニ依リ救助米ヲ受ケ居ルモノ其他公救ヲ受ケ居ルモノニハ給セス
- 一 看病人給料
 - 虎列刺病ハ食費トモ一晝夜金四十錢以内他ノ五病ハ同金二十錢以内但家族又ハ親族等ノ看病人ニ充ツヘキモノナク雇入ヲ爲ス場合ニ限リ一患者ニ付一人トス尤一人ニテ二患者ヲ看護スルモノハ給料ノ半額以内ヲ増給スルコトアルヘシ
- 一 患者運搬人夫賃
 - 虎列刺病ハ一人ニ付金三十錢以内他ノ五病ハ同金十五錢以内但家族又ハ親族等ノ運搬ヲ爲スヘキ者ナク雇入ヲ爲ス場合ニ限リ一患者ニ付二人以内トス
- 一 排泄物等運搬人夫賃
 - 虎列刺病ハ一人ニ付金二十錢以内他ノ五病ハ同金十錢以内但家族又ハ親族等ノ運搬ヲ爲スヘキモノナク雇入ヲ爲ス場合ニ限リ一荷一人トス
- 一 排泄物等焼却費
 - 一 患者ニ付金五十錢以内
- 一 火埋葬費
 - 火葬費(人夫賃薪石油等燃料トモ)虎列刺病ハ一屍ニ付金一圓七十錢以内他ノ五病ハ同金一圓以内埋葬費(人夫賃等)虎列刺病ハ一屍ニ付金一圓以内他ノ五病ハ金五十錢以内
- 一 棺桶棒繩類
 - 一 屍ニ付金三十錢以内但年齢十年未滿ハ金二十錢以内トス
- 一 消毒藥
 - 實費ヲ給ス
- 第三條 前條ノ外甚シク病毒ニ汚染シ消毒スルモ再用シ難キ爲メ焼却シタル衣服寢具疊ハ實際差支アルモノニ限リ左ノ金額以内ノ代金ヲ下付スルコトアルヘシ
 - 一 綿入拾單衣ニ限リ 金三十錢以内
 - 一 寢具 金四十錢以内
 - 一 蒲團座蒲團 金二十錢以内

- 一 衣服
 - 綿入拾單衣ニ限リ 金三十錢以内
- 一 寢具
 - 金四十錢以内
- 一 蒲團座蒲團
 - 金二十錢以内
- 第四條 前條ノ物品ヲ燒却セントスルトキハ町村長ハ警察官吏ノ立會ヲ乞ヒ燒却物品取調書ニ認印ヲ受ケ置キ稟請書ニ添付スヘシ
- 第五條 赤貧行旅人罹病ノ費用ハ本令ノ規定額ニ依リ支給スルノ外尙行旅死亡人及行旅病人取扱順序第一條ニ依リ小屋掛料墓標掲示札新聞紙廣告料ヲ給ス
- 第六條 赤貧者ニ屬スル費用ハ町村長ニ於テ別紙書式ニ依リ入費明細書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添付患者轉歸後五十日以内郡役所ヲ經由シテ縣廳ニ給與方ヲ稟請スヘシ
 - 一 但寄留人又行旅人ハ發病地町村長ニ於テ身元取調ヲ本籍町村長ニ照會シ赤貧ニテ費用ヲ辨償スル能ハサル回答ヲ得テ其答書類ヲ添ヘ稟請スヘシ
- 一 財産調書
 - 一 罹病當時ノ戶籍寫
 - 一 第一條一項ニ該當スルモノハ其氏名及救助ヲ受ケタル年月日ヲ記シタル書面
 - 一 第一條二項ニ該當スルモノハ其氏名及救助ヲ受ケタル年月日金員ヲ記シタル書面並町村會議決書寫
- 第七條 郡役所ニ於テ前條稟請書ヲ受ケタルトキハ精査ヲ遂ケ郡長ノ意見書ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ
- 何病ニ罹ル赤貧者ニ屬スル諸費明細書

何郡何村大字何身分

某(父)(母)(兄)(弟)(姉)(妹)
(妻)(長)(男)(長)(女)ノ類

氏

名

給與手續第一條何項ニ該當
 何月何日發病
 何月何日診斷
 何月何日全治(死亡)
 一金何程
 內譯

名稱	數	量	單價	價	全價
藥	何	日	一日ニ付	何程	何程
皮下注射(頓服藥) (灌腸)	何	回	一回ニ付	何程	何程
醫師診察料	何	回	初診 再診以上一回ニ付	何程	何程
醫師車馬賃	何	里	一里ニ付	何程	何程
患者病中食餌費	何	日	一日ニ付	何程	何程
看病人給料	何	日	一日ニ付	何程	何程
患者運搬人夫賃	何	人	一人ニ付	何程	何程
排泄物等運搬人夫賃	何	人	一人ニ付	何程	何程
排泄物焼却費					何程

右之通相違無之候也

火(埋)葬費	棺桶棒繩類	消毒藥費 石灰 石炭酸	衣服(綿入)(衾) (單衣)	蒲團	疊
何	何	何	何	何	何
何程	何程	何程	何程	何程	何程

何郡何町長 氏 名印

○布告第二十九號
 明治十二年七月二十一日
 此旨布告候事
 (別冊)
 檢疫停船規則

醫師車馬賃患者病中食餌費看病人給料患者運搬人夫賃排泄物運搬人夫賃ヲ要シ又ハ衣服蒲團疊代ヲ請求スル場合ハ其事由ヲ明細書ノ末尾ニ詳細付記スヘシ

第九款 檢疫停船規則

備考

年月日

何郡何町長 氏

名印

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンタメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルコトヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ命スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クモ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ艙ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルモ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルモ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスコトヲ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其慮アルモノト直ニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルモハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ

軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣キ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サズルモハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルトモ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルモハ消毒法ヲ行ヒ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルトキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ

第八條 第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以內艦内ノ有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシム無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシム無キ旨ヲ明告スルモハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サズルモハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ縮短シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルモハ地方檢疫局ハ必要ト考斷ス

ル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限
 猶三日以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ
 患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ
 第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ瘞エサレハ其容體ニ依リ之
 ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ済マサルハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬
 スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬ス可シ
 患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感
 染ノ恐アルモノハ地方検査局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘ而シテ消毒法ヲ施ス爲
 メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設ケタル所ノ家屋ニ移
 シ消毒法ヲ行フ可シ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル
 適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ
 第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ検査處置ヲ受ケサ
 ル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ
 第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得ヘシ而シテ政府ハ
 右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ
 第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ
 病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方検査局ニ於テ定メタル方法ニ從フ
 ヘシ
 避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ
 患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス
 第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人ヲ船中ニ
 停メ置テ得ヘシ又ハ地方検査局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ

移サルコトアルベシ
 第十四條 検査停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ検査官吏之ヲ虎列刺ノ原因ナラント思考
 スル疑似ノ病徴ヲ發スル者アルハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷ス
 ルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシム可シ但其時間ハ四十八時ニ過ク可カラズ而シテ地方検査局
 ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施ス可シ
 第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中検査所ノ設ケアル無
 病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ検査官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或
 ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方検査局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ
 又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ
 第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ
 同一ノ處置ヲ爲スヘシ
 第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲナ
 サル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ
 船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐僞ニ出ツルカノハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其
 遲延シタルノ事故終リタルハ検査ヲ爲スヘシ
 第十七條 地方検査局ヨリ指圖シタル消毒法ハ検査官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助
 スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其
 責アル者ヨリ辨償スヘシ
 第十八條 検査停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶
 ハ直チニ第八條第九條ノ規則ニ從フ可シ
 然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ検査官ハ地方検査局ニテ必要ト考斷スル
 丈ケノミノ消毒及検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方検査局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルトキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施ストテ得ヘシ其場合ニ方リテ地方検査局ハ直チニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方検査局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與ス可シ

第二十一條 検査中又ハ停留ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方検査局ノ許可ナクシテ往クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償ス可シ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ムキハ毎犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ船又ハ罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

第十款 種痘規則

○布告第三十四號 十八年十一月九日

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期限内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ検査ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ検査シ種痘證ヲ付與スヘシ但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度內務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ届出ヘシ

右奉 勅旨布告候事

第十一款 種痘細則

○本縣甲第十六號 十九年三月廿七日
種痘細則別冊ノ通定ム但明治十三年七月甲第三十四號同年八月甲第五十五號甲第六十一號同年十月甲第九十九號明治十七年三月甲第十三號布達ハ廢止ス
右布達候事

(別冊)

種痘細則

- 第一條 種痘期ヲ定メ毎年三月ヨリ五月ニ至リ九月ヨリ十一月ニ至ルモノトス
但天然痘流行ノ兆アル時ハ別ニ期日ヲ指定スヘシ
- 第二條 戶長ハ醫師ヲ撰ヒ所轄内ノ種痘ヲ擔當セシムヘシ但戶長ハ擔當醫師ノ族籍氏名ヲ郡長ニ届出ヘシ
- 第三條 戶長ハ毎年八月廿日迄ニ種痘ヲ受クヘキ人員ヲ調査シ豫メ種痘期日及ヒ其場所ヲ定メ醫師及ヒ種痘ヲ受クヘキ者ニ通知スヘシ
- 第四條 種痘場ハ便宜ノ地ニ設ケ戶長臨席監督スヘシ但戶長ハ時宜ニ依リ巡查ノ臨視ヲ請フコトヲ得
- 第五條 種痘ヲ受クヘキ者及ヒ種痘ノ檢診ヲ受クヘキ者其期日ニ至リ病氣或ハ事故アリテ出頭スル能ハサルハ其旨戶長ヘ届出ヘシ但第一條ノ期限内ニ於テ若シ種痘シ能ハサルハ種痘規則第四條ノ手續ヲナスヘシ
- 第六條 醫師ハ種痘ヲ檢診セシ時第一號書式ニ倣ヒ證書ヲ附與スヘシ但天然痘ヲ治療シタルハ全癒ノ日第二號書式ニ倣ヒ證書ヲ附與スヘシ
- 第七條 種痘ヲ受ケシ者醫師ヨリ證書ヲ受領シタルハ七日以内ニ戶長ニ差出シ證印ヲ受クヘシ但天然痘濟ノ證書モ本條ニ準スヘシ
- 第八條 種痘又ハ天然痘濟ノ證書ヲ遺失毀損シタルハ其旨戶長ヘ届出證明書ヲ受クヘシ

- 第九條 戶長ハ第三號書式ニ倣ヒ種痘人名簿ヲ製シ生死送入籍等ノ者アルハ之ヲ加除スヘシ
- 第十條 戶長ハ第四號表式ニ倣ヒ明細表ヲ製シ毎年七月十五日迄ニ郡役所ニ差出スヘシ郡役所ハ之ヲ取纏メ直ニ常廳ニ差出スヘシ
- 第十一條 種痘ニ屬スル諸費收支ノ方法ハ土地ノ情況ニ依リ豫メ之ヲ定メ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
- 第十二條 種痘ヲ擔當セサル醫師ニシテ接種スルハ妨ケナシト雖モ必ス第六條ノ手續ヲナスヘシ
- 第十三條 種痘ヲ受クヘキ者便宜ニヨリ種痘ヲ擔當セサル醫師ニ就キ接種ヲ乞フハ妨ケナシト雖モ必ス第七條ノ手續ヲナスヘシ

(第一號書式)

(第二號書式)

町村役 所印	
何郡何町村	證
何某何女男又ハ何々	氏名
何郡何町村醫師	氏名印
年月日	氏名印
割 印	
(初種)(再種)(三種)	
左何顯種痘濟	
右何顯種痘濟	
何郡何町村醫師	
年月日	
氏名印	

町村役 所印	
何郡何町村	證
何某何女男又ハ何々	氏名
何郡何町村醫師	氏名印
年月日	氏名印
割 印	
天然痘濟	
何郡何町村醫師	
年月日	
氏名印	

(備考)

- 一 種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記ス可シ
- 一 一年以上滿二年マテノ欄ヘハ一年一月以上滿二年マテ一年以上滿五年マテノ欄ヘハ二年一月以上滿五年マテノ者ヲ記入ス可シ以下諸欄皆同シ
- 一 初種ノ欄内ヘハ小兒出生後滿一年以内ニ種痘セシモノ、善感若クハ疾病事故ニテ種痘セサルモノ、數ヲ記入スベシ其不善感ナルモノハ種痘規則第一條後段ニ依リテ再三種ヲ行ヘル後善感ナレハ善感不善感ナレハ不善感トシテ本欄内ヘ記入ス可シ又疾病事故ノ止ミ種痘セシモノ、數ハ例ヘハ年齢六年ニ至リ疾病事故止ミタリトスルトキハ年齢ノ滿一年以内ニアラサルモ種痘規則第一條ノ手續ヲ履ミ初種ノ五年以上滿十年迄ノ欄内ヘ記入スヘシ再種三種ノ欄モ疾病事件ハ此例ニ同シ

第二章 獸類及獸類傳染病

第一款 獸類傳染病豫防規則

○農商令第十一號

十九年九月十五日

獸類傳染病豫防規則左ノ通制定シ明治二十一年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年(二月)内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性驚口瘡
- 六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツ可シ

第四條 獸醫牛疫ト診断シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金貳拾五圓マテ 手當金評價十分ノ四 評價金五拾圓マテ 同十分ノ三

評價金百圓マテ 同十分ノ二 評價金貳百五拾圓マテ 同十分ノ一

評價金五百圓マテ 同十五分ノ一 評價金千圓マテ 同二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示ス可シ

第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

- 第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ但埋没シタル場所ハ拾二箇年ノ後ニアラザレハ發掘スルヲ得ス
- 第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フ可シ
- 第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラザレハ轉移スルヲ許サス
- 第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツ可シ
- 第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳^{警視}府^北ニ届出ツヘシ
- 第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内及ビ近接ノ地方廳ニ報告スヘシ但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ報告スヘシ
- 第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ
- 第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得
- 第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタル牛ハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ撲殺セシムルヲ得但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金

- ノ全額ヲ下付スヘシ
- 第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ
- 第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

第二款 獸類傳染病豫防心得

○農商 告示第拾八號 十九年九月十五日 當省令第拾一號獸類傳染病豫防規ニ關スル心得ノ事項左ノ如シ

獸類傳染病豫防心得

- 第一項 獸類ノ状態、管理、飼養ニ注意スルコト
- 第二項 獸類ノ身體、畜舎、器具等ヲ清潔ニスルコト
- 第三項 畜舎内ニ新鮮ノ大氣ヲ流通セシムルコト
- 第四項 畜舎内ノ温度ヲ調和スルコト
- 第五項 飲水ノ清淨ヲ要スルコト
- 第六項 適度ノ運動ヲ爲サシムルコト
- 第七項 健畜ト傳染病畜トヲ隔離スルコト
- 第八項 傳染病流行地方ニ於テハ病性ニ從ヒテ獸類ヲ區別シ成ル可ク獸類ノ出入往來ヲ爲サシメサルコト
- 第九項 傳染病畜所在ノ人口ニハ其病名ヲ標示スルコト

- 第十項 傳染病流行地近傍ノ牧場ニ放牧セサルコト
- 第十一項 牧場ニ於テ傳染病發生シタルトキハ直ニ其患畜ヲ適當ノ場所ニ圍ヒ置キ他ノ健畜ヲシテ之ヲ接近セシメヌ又ハ放牧セサルコト
- 第十二項 傳染病流行ノ地方ニ於テハ獸類ノ市場、屠場等ニ消毒法ヲ施スコト
- 第十三項 所有者又ハ管理者ヲ問ハス創傷、潰瘍等アルモノハ患畜ニ觸接セサルコト
- 第十四項 傳染病流行ニ際シテ獸類發病シタルトキハ其何病タルヲ問ハス獸醫ヲシテ速ニ之ヲ診察セシムルコト
- 第十五項 傳染病流行ノ際ハ一層排水法ヲ怠ラサルコト
- 第十六項 牛疫若クハ傳染性胸膜炎ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、蓐草、糞尿及其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルニハ牛馬ヲ用フ可カラサルコト
- 第十七項 獸類炭疽熱ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、蓐草、糞尿其他ノ廢棄物等ヲ運搬スルニハ牛馬ヲ用フ可カラサルコト
- 第十八項 鼻疽及皮疽流行ノ際ハ馬匹ヲ交尾セシメント欲セハ必ス獸醫ノ診察ヲ受ク可キコト
- 第十九項 鼻疽及皮疽ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル死體、蓐草、糞尿及其他ノ廢棄物ヲ運搬スルニハ馬ヲ用フ可カラサルコト
- 第二十項 傳染病畜アル舍内及牧場ニ於テハ獸醫又ハ看護者ノ外ハ濫ニ患畜ニ接近セシメサルコト
- 第二十一項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體、排泄物ハ勿論之ニ使用シタル飼料、蓐草等ハ悉ク燒棄ツルコト
- 第二十二項 患畜ヲ撲殺場又ハ埋瘞場ニ移スノ途中他畜ノ近接ヲ避ケ且ツ血液其他ノ排泄物ヲ遺脱セサルコト
- 第二十三項 糞尿ハ勿論其他汚穢物ハ總テ傳染病ノ媒介トナルモノナレハ務メテ之ヲ除去スルコト

- 第二十四項 傳染病流行地方ノ犬、猫、鶏、鴿等ハ飼主ニ於テ放飼セサルコト
- 第二十五項 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ撲殺シタル獸類ノ死體、排泄物ハ勿論其他該畜ノ爲メニ使用シタル畜舍、欄庭、貨車、糞窖、塵溜、器具等ニハ消毒法ヲ施スコト
- 第二十六項 傳染病畜ノ看護者ハ勿論其患畜ニ觸レタルモノニハ消毒法ヲ施スコト
- 第二十七項 患畜舍ハ熱湯或ハ灰汁ヲ以テ洗ヒ石灰水或ハ粗製石炭酸水ヲ灌キ窓戶ヲ密閉シテ亞硫酸瓦斯ノ薰蒸法ヲ施シ窓戶ヲ開放シ大氣ヲ通シ日光ニ曝スコト
- 第二十八項 患畜ノ糞ハ燒棄テ或ハ消毒藥ヲ灌キテ深ク地中ニ埋メ尿窖ニハ石灰ヲ撒布スルコト
- 第二十九項 患畜ニ觸レタル飼槽、芻架、被覆物、獸類ニ用ヒ及其他ノ器具ハ燒棄ツルコト良トス但鐵製ノ器具ハ火熱ヲ加ヘタル後用フルモ妨ナキコト
- 第三十項 患畜若クハ死體ヲ取扱ヒ又ハ消毒法施行ニ從事セシ者ニシテ止ムコトヲ得ス他行スヘキ場合ニ於テハ其身ニ消毒法ヲ施シタル後ニアラサレハ他行セサルコト
- 第三十一項 患畜若クハ死體ヲ取扱ヒ又ハ消毒法施行ニ從事セシ者ノ衣服ハ成ルヘク燒棄ツルコト良トス否ラサレハ其衣服ヲ石鹼水ニテ洗ヒ亞硫酸瓦斯ノ薰蒸法ヲ施シ十二時乃至二十時間消毒シテ充分大氣ニ曝スコト
- 第三十二項 患畜或ハ其排泄物等ニ觸レタル者ノ草鞋、木履等ハ燒棄テ靴ハ石灰水ニテ洗ヒ之ニ獸脂ヲ塗リテ大氣ニ曝スコト
- 第三十三項 消毒藥ハ其類多シト雖モ左ニ普通ノモノヲ擧ク
 - 第一 濃厚石炭酸水 二十五倍乃至五十倍 畜舍、器具、死體、排泄物、糞窖、塵溜等ニ施用ス
 - 第二 稀薄石炭酸水 六十倍乃至五百倍 畜舍、欄庭、貨車、看護者ノ衣服又ハ洗手等ニ施用ス
 - 第三 石灰水 畜舍ノ壁床、飼槽、芻架、其他木製ノ器具等ニ施用ス
 - 第四 石灰 畜舍、糞窖、死體等ニ施用ス
 - 第五 亞硫酸瓦斯 硫黃ヲ燒キ數分ヲ得テ畜舍内器具等ヲ薰蒸スルニ施用ス

第三拾四項 獸類ノ傳染病名及其症候ハ左ノ如シ

第一 牛疫

牛疫ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ體中各部ノ粘膜ヲ侵シ就中消化器粘膜ニ特異ノ炎症ヲ呈シ牛族ヨリ他ノ反芻獸ニ傳染スルモノナリ此病ハ害毒ノ慘劇ナル傳播ノ迅速ナル斃死ノ夥多ナル獸類傳染病中最モ危險ノ症ナリトス牛ノ此病ニ罹ルトキハ熱ヲ催スヲ以テ初起ノ症候トス即體温少ク増昇シ泌乳食慾共ニ減少シ倦怠シテ頭ヲ垂レ一二日ヲ經レハ加答兒ノ症候ヲ呈シ各部ノ粘膜特ニ紅ヲ潮シ反嚼休止シ眼鼻口ヨリ液ヲ漏泄シ濕咳ヲ發シ漸々呼吸ノ數ヲ増シ三日乃至四日ヲ經過スレハ赤痢様ノ下利ヲ起ス口腔及陰腔ノ粘膜腫起シテ其面ニ粟粒大乃至豌豆大ノ黯白色ノ小點ヲ發シ乾酪様ノ滲出物之ヲ覆フ此乾酪様ノ質ハ容易ニ剝脫シテ瀾斑ヲ現シ其他粘膜ニ赤色ノ線狀若クハ斑點ヲ見ルコトアリ以上ノ症候漸次亢進スルニ從ヒ眼鼻口ノ分泌泄愈増加シ呼吸益困難ヲ加ヘ下利甚シク終ニ虛脱シテ斃ル

第二 炭疽熱

炭疽熱ハ急性傳染病ニシテ瘴氣毒ヨリ起リ草食獸ニ發シ又他ノ畜類及人ニ傳染ス此病ハ俄然發スルモノ多ク其急性ナルハ動物頓ニ卒倒シテ掣搐シ五分乃至十分時間ニシテ斃ル又途中若クハ夜間ニ發病シ鼻、口、及肛門ヨリ血液ヲ漏泄シテ斃ル、モノアリ或ハ初起食慾、泌乳共ニ減少シ體温増昇シ外部ノ温度定マラス戰慄ヲ發シ各部ノ粘膜甚シク紅ヲ潮シ若クハ帶黃色ヲ呈シ糞ニ血液及粘液ヲ混シ呼吸疾促、脈搏増進、大ニ狂斷苦悶シ往々痲痛ヲ併發シ或ハ痲鈍トナリ或ハ感覺ヲ失フ斯ノ如キ場合ニ於テハ一般ニ熱勢亢進シテ衰弱ヲ加ヘ鼻、口及肛門ヨリ血液ヲ漏泄シテ終ニ斃ル稀ニハ快復スルモノモアリ或ハ熱度増進シ皮膚ニ一箇若クハ

學語 Anthrax 英國語 Anthrax 佛國語 Charbon 獨國語 Mizbrand

數箇ノ腫瘍ヲ發ス其狀圓クシテ凸隆シ熱痛ヲ帶ルモ忽チ減退ス試ミニ之ヲ壓フレハ氣音ヲ發シ之ヲ截開スレハ帶黃色液ヲ漏ス或ハ舌、咽喉若クハ肛門ニモ亦之ヲ發スルコトアリ

第三 鼻疽及皮疽

鼻疽及皮疽ハ馬族特異ノ傳染病ニシテ二者同性ノ症ナレトモ又其患部ハ異ニシテ互ニ誘發スルモノナリ即鼻疽ハ專ラ鼻粘、膜肺及水脈系ヲ侵シ皮疽ハ皮膚及下結締織及水脈系ヲ襲フモノニシテ此病ハ人、羊、山羊、兔及其ノ他畜類ニ傳染ス

學語 Malleus Humidus et Farcinosis 英國語 Gladders and Farcy 獨國語 ROTZ und Wurm

鼻疽ノ主徵ニ三アリ〔其一〕鼻ノ一孔若クハ兩孔ヨリ少量ノ粘稠液ヲ漏泄ス其液ハ一種特異ノ膿様液ニシテ其狀宛モ菜種油ニ蛋白ヲ混シタルカ如シ〔其二〕頸下水脈腺腫脹ヲ發シ概ネ下顎骨ノ内側ニ固着シテ膿腫セス〔其三〕鼻粘膜ニ惡性潰瘍ヲ生ス當初ニ在テハ帶黃色ノ小膿疹若クハ小結節ナルモ増大破爛シテ潰瘍ニ變ス其瘍底ハ凹陷シテ脂肪狀ヲ呈シ少量ノ惡性膿ヲ漏ス病勢亢進スルニ從ヒ畜ニ鼻粘膜ヲ侵スノミナラス咽喉、肺、氣管支、喉嚨及ヒ頭ノ諸骨ニ波及シテ各其症候ヲ呈ス末期ニ至レハ呼吸困難ヲ加ヘ咳嗽頻發皮膚粗剛、毛色光澤ヲ失ヒ全身漸ク羸弱ス

皮疽ハ皮膚ニ局發シテ多ク四肢、頭、頸、胸、腹或ハ其他ノ部位ノ皮下ニ豌豆大乃至胡桃大ノ結節ヲ發生シ初ハ硬固ニシテ且疼痛アリ然レハ漸次其結節ノ中心ヨリ破潰シ黃色ノ液ヲ漏泄シ皮上ニ凝着シテ痂ヲ結ヒ而シテ其瘍面ヨリ絶ヘス膿汁ヲ漏泄ス病勢亢進スレハ腫瘍累發シテ體ノ諸部ヲ浸シ終ニ潰爛シテ血液ヲ漏スコトアリ其他各潰瘍ニ連絡セル水脈管ハ腫起シテ索狀ヲ呈シ水脈線亦腫脹ス而シテ久キヲ經レハ大ニ羸弱シテ遂ニ斃ル

第四 傳性胸膜肺炎

學語 Peripneumonia Contagiosa 英國語 Contagious Pleuro-Pneumonia
 佛國語 Peripneumonie Contagieuse 獨國語 Lungen Seuche
 傳染性胸膜炎ハ牛族特異ノ熱性傳染病ニシテ概テ左肺ノ一葉ヲ浸シ其小葉間質ノ滲出炎ヲ發シ尋イテ胸膜炎ヲ續發ス

此病ノ徵候ヲ大別シテ二期トス即第一期ハ短渴ノ咳嗽ヲ發シ漸々其數ヲ増シ濕聲ノ痛咳頻發シテ體温亢進シ呼吸疾促、食慾、泌乳共ニ減少シテ病勢増進ス第二期ニ至レハ熱勢大ニ亢進シテ胸膜肺炎ノ諸徵尤明瞭トナリ鼻端乾燥シ耳角ノ冷熱定マラス食慾反嚙泌乳共ニ休止シ通便秘澁前肢ヲ開張シテ起立シ臥スコトヲ欲セス鼻孔開豁シ腺部ノ波動甚シク呼吸スル毎ニ呻吟ス試ミニ背腰、及肋間部ヲ壓スレハ苦悶ヲ訴ヘ病久キヲ經レハ呼吸益困難ヲ加ヘ倦怠羸瘦甚シク下利ヲ發シ呼吸臭ヲ帶ヒ漸次虚脱シテ斃ル

第五 傳染性鵝口瘡

學語 Aphthae Contagiosa 英國語 Foot and Mouth disease
 佛國語 Stomatite Aphtheuse 獨國語 Maul und Klauenseuche

傳染性鵝口瘡ハ瘴氣性發疹傳染病ニシテ雙蹄獸ニ發シ熱ヲ帶ヒテ口内趾端或ハ乳房等ニ水泡ヲ局發ス

此病ニ罹ルトキハ初メ發熱シ食慾反嚙共ニ減少或ハ休止シ口内、趾端乳房或ハ鼻端等ニ忽チ大小許多ノ水泡ヲ發ス該疱破潰スレハ初メ澄液ヲ漏シ後ニ至レハ濁濁シ膿様ノ液ニ變ス或ハ口内ニ水泡ヲ發スルトキハ其粘膜剝脫シテ紅色ノ爛斑ヲ呈シ類ニ唾液ヲ漏ス而シテ蹄間或ハ蹄冠部ヲ侵シ甚シキニ至テハ跛越トナル此病ノ經過ハ概テ二週間許トス

第六 羊痘

學語 Variola Ovis 英國語 Sheep pox 佛國語 Olavelle 獨國語 Schaf Pocken

羊痘ハ熱性發疹傳染病ニシテ皮膚ニ痘ヲ發生シ羊族ニ蔓延シテ大ニ猖獗ヲ極メ獸類痘瘡中最危險ナルモノナリ
 此病ハ初メ發熱シテ不安ノ狀ヲ呈シ食慾、反嚙共ニ減少シ體毛ノ稀疏ナル局部即顔面或ハ肢脚ノ内面ニ紅斑ヲ呈シ豆大ノ痘ヲ發生シ二三日ヲ經レハ痘中ニ淋巴液ヲ釀成シ後膿化シ終ニ破爛シテ乾涸結痂シ二三週間許ニシテ脱落ス

第二款 獸類傳染病豫防ニ關スル雜件

○農商訓令第十五號

十九年十月四日

府 縣 廳

今般當省令第十一號獸類傳染病豫防規則發布ニ付臨時獸醫ヲ備入ル、并ハ一人一ヶ月金拾五圓以

内ヲ目途トシ其勤務日數ニ應シ手當ヲ與フヘシ

○農商訓令第二號

二十年二月五日

廳 府 縣

明治十九年九月省令第十一號獸類傳染病豫防規則第十五條ノ届出ニハ左ノ表式ニ據リ每週ノ調査表ヲ添フ可シ

表式 (用紙美濃紙二通) ▲印ハ朱書

獸類傳染病每週調査表 自何年何月何日至何年何月何日 廳 府 縣

獸類	內國種外國種雜種			年齡	發病月日	病名	斃死月日	撲殺月日	快復月日	評價	手當金額	郡村	所有主姓名
	牡	牝	牝										

備考																				
▲發病地、病原、病勢其他云々																				

○農商務省令第十四號 二十六年八月二十八日
左ノ諸病ニ罹リタル牛馬羊豕ノ死體ハ埋没後十二箇年ヲ經過セサレハ發掘スルコトヲ得ス違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス但獸類傳染病豫防規則ニ正條アルモノハ此限ニ在ラス

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鵝口瘡
- 六 羊痘

○本縣令第五十一號 廿五年八月三十日
明治十九年九月農商務省令第十一號獸類傳染病豫防規則第三條ニ據リ届出ヘキ書類ハ左ノ區分ニ據リ其種類ヲ記載スヘシ

- 一 內國種
- 一 外國種
- 一 雜種

○本縣令第三十六號 廿七年五月廿七日
牛疫豫防取締ニ關シ左ノ通相定ム

但本令ハ發布ノ日ヨリ施行シ明治二十五年十一月縣令甲第六十七號及明治二十六年一月縣令甲第三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一 牛疫流行ノ府縣等ヲ發シ又ハ經過シタル牛、羊、豚及其生肉若クハ粗生産物(皮骨等)ハ本縣管内ニ輸入スルコトヲ得ス

一 朝鮮國ヨリ牛及其粗生産物ヲ本縣管内ニ輸入スルキ牛ニ對シテハ獸醫ノ診斷書、粗生産物ニ對シテハ同鑑定書ヲ添ヘ最寄警察官署ニ届出承認ヲ受クヘシ但警察官ニ於テ必要ト認メタル牛ハ牛ニ限リ相當ノ期間指定ノ場所ニ避ケシム

前二項ニ違フ者ハ二圓以上十圓以下ニ罰金ニ處ス

○本縣令第五十三號 廿五年十一月十七日 郡役所 町村役場
獸類傳染病豫防規則ニヨリ獸類ヲ撲殺スルニ當リ警察官等ヨリ評價人差出ノ要求アル場合左ノ項目ニ依リ直ニ派遣セシムル豫備ヲナスヘシ

- 一 評價人差出ノ要求アルトキハ相當評價人三名ヲ選定シ直ニ指定地ヘ差出スヘシ
- 二 前項評價人差出ノ場合ハ評價人タルコトヲ證明スヘキ書面ヲ携帶セシムヘシ

○牛屬間歇熱及豫防法 (十月五日) (官報抜萃)

症候及經過

患牛鬱憂トシテ食慾ヲ失ヒ反芻失序鼻端乾燥歩行緩慢起立スルヲ好マス惡寒戰慄シ體温増進攝氏四十度以上ヲ示ス便秘尿閉シ口中ヨリ泡沫ヲ流シ腹部膨脹ス又齡草眩ニ瓦斯ヲ蓄積シ鼓張病ヲ併發スルコトアリ熱ノ發作時ニ在リテハ眼球少シク突出呼吸促迫ス糞ハ黒色ヲ帶ヒ甚シキ臭氣アリ乳牛ハ乳汁ノ分泌減少シ或ハ全止スルモノアリ

豫防法注意

夫レ間歇熱ハ一種ノ特異因タル泥消毒(一名瘴氣毒)ニ依リテ發スル地方流行病ノ一ニシテ其病原頗ル多シト雖モ左ニ其大畧ヲ記シ以テ參考ニ供ス 一 河川沼池及沮洳ノ多キ地方ハ常ニ地中ヨ

リ瘴氣毒ト稱スル一種ノ瓦斯放散シ之レカタメ人畜ノ間歇熱、赤痢、炭疽熱、窒扶私熱及便麻私等ノ諸病流行スルモノトス 二 從來縣下ニテ牛馬ニ與フル飲料水ニハ方言「ニゴリミヅ」ト稱スル有機質ノ汚物ヲ含有スル腐敗水ヲ與フルヲ常トス是レ該症ヲ發起スル一大原因ナリトス 三 品質不良且ツ不消化ノ食品ヲ過食セシメ或ハ又一時ニ水分多キ綠草ニ貪饑セシムル等モ該症ノ一因ナリトス 四 換氣不良ノ厩舎及舎内濕潤不潔等ニ因ス 五 過度ノ使役ノタメ體力衰弱疲倦營養其平衡ヲ失スル牛馬ハ該症ニ罹リ易シトス

豫防

一 地方ノ疏水ニ注意シ又洪水等ノタメ沈着シタル汚泥塵芥ノ類ハ務テ掃除スヘシ 二 健牛病牛ノ別ナク飲料水ニハ清水ヲ與ヘ方言「ニゴリミヅ」等ハ嚴禁スヘシ 三 食品ハ消化シ易ク滋養多キ物ヲ撰ヒ少量ツ、時間ヲ定メ與フヘシ 四 厩舎ハ空氣ノ流通ヲ能クシ日々舎内ヲ清潔ニ掃除シ石灰ヲ撒布スヘシ 五 該病流行ノ際ハ常ニ強壯ノ牛ト雖モ勞役ノ度ヲ失セサル様注意スヘシ 六 該病ニ罹リ斃死シタル牛體ハ必ス埋没スヘシ

○牛疫ニ關スル諭告文中抜萃 廿五年十一月十五日

牛疫流行地畜主心得并牛畜衛生法要領

一 流行地ノ人民ハ已ムヲ得サルノ外相互ニ交通往來スヘカラス流行ノ際多人數群集スルハ特ニ病毒ヲ傳播スルノ虞アリ患牛ナキ部落ノ人ハ特ニ注意シテ流行部落ニ出入往來スルヲ避ケ不得止トキハ牛ニ接近管理セサル人ヲ撰テ用ヲ辨スヘシ

一 流行ノ際ハ馬喰、伯樂其他他郷ノ人ハ濫リニ牛舎ニ近ク可カラス又牛馬ノ賣買、賃借、交換等ヲ爲スヘカラス

一 持主ナキ野犬ハ徘徊セシムヘカラス發見次第撲殺スヘシ飼犬ハ鏈又ハ繩ヲ付シ繫置クヲ良トス 鶏モ亦病牛舎ノ近傍ニ放ツヘカラス

一 一家内ノモノト雖トモ牛ヲ取扱フモノハ人ヲ定置キ其人ノ衣服、草履、草鞋等モ一定シ置クヘシ

シ不得止他ニ出ルトキハ別ノ衣服、草履、草鞋ヲ用フヘシ

一 大人ハ勿論小兒タリトモ牛疫アル家ニ至ルヘカラス病牛見舞杯ト稱シ病家ニ立至ルハ危險特ニ多シ消毒、屍体運搬等ヲ手傳フモノハ獸醫警察官吏等ノ指揮ニ從ヒ十分消毒セサレハ其場所ヲ去リ自家ニ歸ルヘカラス假令消毒濟ノ上ト雖モ當分ノ内本人ハ健牛ニ接近セス他人ヲシテ取扱ヲ爲サシムヘシ

一 牛舎ハ日々掃除清潔ニシテ寢蓐等ハ舎外ニ輸致シ可成牛舎ニ遠キ場所ニ散亂セサル様積置毎朝新シキ寢蓐ヲ入ルヘシ牛舎ノ壁柱隔木等ヲ沸湯ニテ洗ヒ濃厚ノ生石灰水ヲ撒布シ床土ヲ掘出シテ砂ヲ入レ石灰ヲ撒布シ飼槽、水飼等ハ總テ清潔ヲ專一トス

一 窓戸ヲ開キ空氣ヲ流通セシムヘシ筵ヲ垂レテ密閉シタル舎内ニ牛ヲ置ハ健康上宜シカラス又傳染ノ豫防トナラス夥多ノ實驗ニヨルニ空氣ノ媒介ニヨリ病毒ノ傳ハルハ大約一丈五尺乃至三丈ノ距離内ナリ風強キトキハ稍之ヨリ遠方ニ傳ハリ得ルモ百歩ヲ超ルコトナシ病毒絶エス空氣ニ觸レ乾燥スレハ病毒勢大ニ衰ヘ或ハ滅ス然ルニ密閉舎内ニ在テ流通空氣ニ觸レサレハ久シク發芽力ヲ失セス

一 至近ノ地ニ患牛ナキトキハ日々自家構内ニテ運動セシメテ宜シ比隣ニ疫牛アレハ舎外ニ出スヘカラス離隔セル牛ハ流行ノ際自宅ニ牽歸ルヘカラス一定ノ人常ニ之ヲ取扱ヒ異狀アルヤ否十分注意スヘシ

一 厩房内ハ勿論厩ノ天井ノ上厩ニ隣レル物置厩前等ニハ藁、乾藁、穀類、器具其他不用物品ヲ貯置クヘカラス病ナキ際ニ空虚トナシ清潔ニ掃除シ置ケハ病毒浸染ノ虞少ク不幸ニシテ發病スルモ多量ノ物品ヲ燒棄消毒スルニ及ハサレハ大ニ手數ト失費トヲ省キ得ヘク一舉兩得ノ策ナリ

一 食物ハ滋養ニ富メル柔軟ノモノヲ良トス煮麥、穀粥、米糠汁、味噌汁ハ好適ナリ甘藷軟カナル青草亦宜シ甘藷ノ蔓少量ハ妨ケナキモ多ケレハ害アリ粟ノ莖、笹、菝等ハ宜シカラス米飯亦好適品ニアラス

(六一二)

- 一 飲水ハ清潔新鮮ノモノヲ與ヘ之ニ食鹽少許ヲ混スヘシ
- 一 牛ノ皮膚ハ日々藁束ニテ摩擦シ清潔ニスヘシ
- 一 豫防法トシテ針ヲ刺シ放血スルハ有害無効ニシテ危險ナリ又芥子湯ヲ全体ニ塗り又ハベンカラヲ角其他ノ部ニ塗ルハ勞シテ効ナシ内服藥亦一トシテ有効ノモノナシ故ニ寧ロ與ヘサルヲ宜シトス
- 一 流行ノ際牛畜食慾減少心神不活潑ナルカ其他聊ニテモ異狀病徵アリト認ムレハ直ニ届出ヘシ届出ヲ怠ル時ハ他病ノ救ヒ得ヘキモノモ治療ノ機ヲ失スル虞アリ又不幸ニシテ牛疫ナルトキハ相當ノ手續ヲ爲サ、ル間ニ病毒ヲ他ニ傳播シ近傍ハ勿論万民ニ非常ノ迷惑ヲ掛ル義ト心得吳々モ此義務ヲ怠ルヘカラス
- 一 不幸ニシテ牛疫ニ罹ラハ檢疫獸醫及警察官吏等ノ指揮ニ從ヒ必ス抗抵違背スヘカラス
- 一 牛疫ニ罹ラハ厩舎内並厩舎直接ノ物品ハ一物タリトモ取出スヘカラス一片ノ藁芻一塊ノ糞ト雖モ消毒ヲ怠レハ他人ニ非常ノ迷惑ヲ及スヘシ一々係員ノ指揮ニ從ヒ十分注意スヘシ

第四款 種牡牛馬取締規則

○本縣令第四十三號

二十七年七月二十日

種牡牛馬取締規則左ノ通相定ム

但明治二十三年一月縣令甲第三號種牡牛馬取締規則ヲ廢ス

種牡牛馬取締規則

- 第一條 種牡牛馬ハ此規則ニ依リ當廳ニ願出免許狀ヲ受ケタルモノニ限ル
- 第二條 種牡牛馬免許狀下付願書ニハ左ノ事項ヲ記シ毎年十月三十一日マテ當廳ニ差出スヘシ
 - 一 種 類 (牛、馬、内國種又ハ洋種、雜種、農用、乘用、貨車用等)
 - 一 年 齡

(七一二)

- 一 寸 尺
- 一 毛 色
- 一 血 系 (父何母何)
- 一 產 地 (國、郡、區、市、町、村又ハ何牧場)
- 一 飼 養 地 (產地ト同一ナルモノハ畧スルモ妨ケナシ)
- 第三條 種牡牛馬ハ毎年一回検査スルモノトス
其検査期日及場所ハ毎年十一月又ハ十二月中告示スヘシ
- 第四條 種牡馬ヲ分ツテ甲乙二種、種牡牛ヲ一種トシ検査ニ合格シタル種牡牛馬ニハ前左蹄ニ「大」ノ烙印ヲ烙記スルモノトス
- 第五條 種牡牛馬ハ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル
 - 一 遺傳病及惡癖ナク強壯ニシテ骨格善良ナルモノ
 - 二 牛ハ滿三歲以上滿十歲以下ニシテ丈四尺二寸以上ノモノ
 - 三 馬ハ滿三歲以上滿十六歲以下ニシテ甲種ハ丈四尺九寸以上乙種ハ丈四尺六寸以上ノモノ但洋種ハ牛馬共其年齡ヲ超ユルモ特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第六條 種牡牛馬免許狀賣買、讓與、讓受、貸借スルヲ許サス
- 第七條 種牡牛馬免許狀受有者ハ左ノ制限ヲ遵守スヘシ
 - 一 八月一日ヨリ十二月十四日マテハ種牡牛馬ヲ交尾セシムヘカラス
 - 二 一種牡牛馬ニ交尾セシムル牝牛馬ハ一ヶ年五十頭ヲ超ユヘカラス
 - 三 遺傳病傳染性諸病アルモノ及牛馬共滿三歲未滿ノ牝ニ交尾セシムヘカラス
 - 四 市街、公道、公園、社寺境内、埋葬地及衆人群集ノ地ニ於テ交尾セシムヘカラス
 - 五 種牡牛馬ハ常ニ飼養管理ニ注意シ應分運動ノ外猥ニ使役ニ供スヘカラス
- 第八條 種牡牛馬ヲ交尾セシムルトキハ必ス免許狀ヲ携帯スヘシ

(八一二)

當該官吏等免許狀ノ閱覽ヲ求ムルモノアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 種牡牛馬第五條ニ定ムル資格ノ一ヲ欠キタルトキ又ハ第三條ニ定ムル検査ニ應セザルトキハ速ニ免許狀ヲ當廳ニ返納スヘシ

第十條 免許狀面ニ異動ヲ生シ又ハ毀損、紛失等セシトキハ其事由ヲ記シ書換又ハ再渡ヲ當廳ニ願出ヘシ

第十一條 種牡牛馬斃死(撲殺、屠殺ヲ含有ス)又ハ種用ヲ廢シタルトキハ速ニ免許狀ヲ當廳ニ返納スヘシ

第十二條 不正ノ方法ヲ以テ得タル免許狀ハ無効トス

第十三條 第一條第六條第七條ノ第一項第八條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條 本令ハ本年八月一日ヨリ施行シ第四條ハ次回ノ検査期ヨリ施行ス
免許狀雛形表面(堅五寸横七寸) 全裏面

第何號
種牡 免許狀
國郡町村大字番地
畜主 氏 名
種類
年齢

○種牡牛馬取締規則
(明治何年何月何日大分縣令
第何號)

.....

検査年月日印

(九一二)

第三章 清潔法

第一款 町村衛生組合準則

○本縣訓令甲第四號 廿二年一月廿一日 郡役所、町村役場
町村衛生組合準則左ノ通り相定メ候條本年四月ヨリ施行スベシ

町村衛生組合準則

第一條 衛生組合ハ町村内各自ノ健康ヲ保持増進セン爲メニ設クルモノトス

第二條 衛生組合ハ大約十戸乃至三十戸トシ戸長ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ其戸數ヲ増減スルコトヲ得

第三條 衛生組合ハ戸長之ヲ監督スルモノトス

第四條 毎組合組長一人ヲ置キ組合ノ取締ヲ爲サシムヘシ其任期ハ組合ノ協議ニ任ス但組長タル

寸尺
毛色
血系
產地
飼養地
右種用適當ナルヲ認メ之ヲ付與ス
年月日 大分 縣印

.....

ヲ得ヘキ者ハ滿二十年以上ノ男子ニシテ其組合内ニ居住ヲ定ルモノトス
第五條 組長ハ組合内ニ於テ公選シ當撰者ニハ戶長ヨリ之ヲ通知スヘシ但シ組長ノ氏名ハ戶長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

第六條 組長ハ無給トス但シ組合内ノ協議ヲ以テ相當ノ報酬ヲナスハ適宜タルベシ

第七條 組長缺員アルキハ十日以内ニ後任者ヲ撰定スヘシ

第八條 組合ニ於テ施行スル事項ニ就キ規約ヲ設ケ郡長ノ認可ヲ受クヘシ其改正ヲ要スルキモ亦同シ

第九條 組合ニ於テ規約ニ掲クヘキ事項ハ概ネ左ノ如シ

- 一 一家宅ノ内外ヲ掃除スル事
- 一 屋敷内汚水ノ排除法ヲ設クル事
- 一 屋敷内ニアル汚水溜ハ時々汲取ル事
- 一 屋敷内ノ塵芥ヲ時々取除ク事
- 一 溝ヲ疏通シ土泥塵芥ヲ留滞セシメサル事
- 一 井戸ノ周圍並便所ニ損所アルキハ速ニ修理シ且ツ常ニ其近傍ヲ清潔ニ爲ス事
- 一 井戸ハ毎年一回以上必浚渫スル事
- 一 屋敷内ニアル肥料溜ハ或ルベク住家ヲ遠サクル事
- 一 一種痘ニ怠ラザル事
- 一 未熟ノ菓物ハ一切之ヲ販賣シ又ハ購求セザル事
- 一 惡疫流行中ハ殊ニ飲食物ニ注意シ且多人數集合シテ飲食スル等ノ事ナク相互ニ豫防衛生法ヲ怠ラザル事
- 一 惡疫ト疑フベキ病者アリタルキハ速ニ醫師ノ診断ヲ受ケ且組長ニ通知スル事
- 一 家内ニ惡疫ニ罹ル者アリタルキハ消毒施行ヲ怠ラサル事

一 組合ノ貧困者疾病ニ罹リ藥餌ノ供給ニ差支アル者ハ成ルヘク救護ヲ謀ル事
一 組長ノ指圖ヲ守ル事
但指圖不當ト見認ルキハ戶長ニ申告スルヲ得

第十條 組長ニ於テ取扱フヘキ事項概テ左ノ如シ

- 一 時々組合内ヲ巡視シ規約ノ事項ヲ監督施行セシムル事
 - 一 惡疫ト疑フヘキ病者アルキハ速ニ醫師ノ診断ヲ受ケシムヘキ事
 - 一 惡疫流行中ハ豫防消毒及攝生法ノ普及ヲ謀リ且患者隱蔽ノ弊ナキ様注意スル事
 - 一 現ニ惡疫ニ罹ル者アル家若クハ惡疫アル地方ヨリ來客又ハ歸宅シタル者アル家ハ殊ニ注意スル事
 - 一 衛生上ニ關スル令達ハ勿論組合規約ヲ守ラサル者アルキハ懇ニ説諭シ若シ從ハサルトキハ戶長ニ申告スル事
 - 一 衛生上ニ關シ掛官吏ノ指揮アルキハ之ニ從フヘキ事
 - 一 衛生上ニ付意見アルキハ縣廳郡役所警察署分署ニ申報スルヲ得ヘキ事
- 第十一條 戶長ハ一年二回以上其町村内ノ組長ヲ召集シ衛生法施行上ノ申合ヲナサシムヘシ

第四章 藥品

第一款 虫類及鼠等驅除藥又ハ飲食物防腐藥等販賣取締

〇内務乙第三十六號 十年三月廿二日
從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候義聞届鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用ノ虞ナキヲ免レス殊ニ本年太政官第廿號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事
但請賣業ノ者モ同様賣藥規則ニ照シ禁止ノ處分可相達事

第二款 黃燐摺付木製造取締條項

○內務省訓令第五一八號 廿四年八月九日
 今般當省令第廿八號ヲ以テ明治十八年八月當省甲第壹號達ヲ廢止シタルニ付テハ自今黃燐製摺付木ノ製造者ハ左ノ條項ニ準據シ適宜取締セララルヘシ
 右訓令ス

黃燐製摺付木製造取締條項

- 第一條 黃燐製摺付木製造所ハ石又ハ煉瓦ヲ以テ之ヲ築造スヘシ但周圍ノ家屋六十間以上ノ距離アル場所ニ於テハ木造建築ヲ用フルモ妨ナシ
- 第二條 調製室製品貯藏室及原料室ハ各之ヲ區劃シ又乾燥室ハ之ヲ別棟トシ瓦斯ヲシテ他室ニ飛散セシメサル様戸外ニ導クノ裝置ヲ爲スヘシ
- 第三條 工場内ハ常ニ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ良クスヘシ
- 第四條 製造所ノ主管ハ齒牙及齒齦ニ疫患アル者ヲシテ黃燐若クハ其合劑ノ取扱ヲ爲サシムルヲ得ス
- 第五條 製造所ノ主管ハ何人ヲ問ハス工場内ニ於テ飲食ヲ爲サシムルヲ得ス
- 第六條 合劑中ニハ合劑ノ量百分ニ付黃燐十分以上ヲ含マシムヘカラス

第二款 阿片煙草制禁

○太政官達 元年閏四月
 阿片煙草ハ人ノ精氣ヲ耗シ命數ヲ縮メ候品ニ付兼テ御條約面ニ有之候通リ外國人持渡候事嚴禁之處近頃竊ニ舶載ノ聞有之萬一世上ニ流布致シ候テハ生民ノ大害ニ候間賣買之義ハ勿論一己ニ吞用ヒ候義決而不成候若シ御制禁相犯シ他ヨリ顯ル、ニ於テハ可被處嚴科候間心得違無之様末々ニ

至ル迄堅ク相守ヘキ者也
 右御達シ諸府藩縣一同高札ニ揭示可致様被仰出候事

第四款 藥用阿片賣買并製造規則

○布告第二十一號 十一年八月九日
 明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事
 但施行ノ時日ハ追テ內務省ヨリ可相達候事

藥用阿片賣買并製造規則

- 第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス
- 第二條 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ
- 第三條 地方廳ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目壹匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス
- 第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ
- 第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ
- 第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ
- 第七條 許可ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得
- 第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スル片ハ其量目并ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テ

ハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四拾玖ヲ超ユカラス但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八玖ヲ超ユカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ壹匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サズ但內務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒネ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下ケル「モルヒネ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○內務省訓令第六號 廿二年三月八日
地方廳ヨリ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續左ノ通相定ム

藥用阿片受拂手續

一 地方廳ヨリ阿片ヲ拂下クルハ明治十一年ハ第二十一號布告第四條ニ據リ特許ヲ得タル藥舖ニ限ルモノトス但外國人藥舖ニハ開港開市場アル地方廳ニ於テ之ヲ拂下ク可シ

一 地方廳ハ每半年分阿片拂下ノ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ內務省衛生局ヘ請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨ナシ

一 北海道廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルハ保管ノ轉管トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル

一 地方廳ニ於テ阿片ヲ拂下クルトキハ其都度藥舖ノ住所氏名外國人ナレハ其國名瓶數代價月日等詳細簿記シ置キ每一箇年會計年度分攤形ノ報告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ差出シタル明細表並外國人藥舖ヨリ差出シタル書面ヲ添ヘ會計年度經過ハ二箇月以内ニ進達ス可シ但阿片受拂報告ハ明治二十一年度ヨリ差出ス可キモノトス

一 地方廳ニ於テ内外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下クルトキハ代價引換ニ現品ヲ拂渡ス可シ

一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ內務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スルモノトス

(報告用紙美濃野紙)

明治何年度阿片受拂報告 廳 名

受入		受入年月日		何		何	
前年度ヨリ越高	十乃至十一	モルヒネ含量	瓶	瓶數	一瓶ノ價	代價	何程
何	何	何	何	何	何	何	何

(六二二)

何年何月何日	同	何	瓶	金	何	程	金	何	程
計		何	瓶				金	何	程
拂下年月日	同	何	瓶	代	價	藥舖住所	姓	名	
何年何月何日	十乃至十一	何	瓶	金	何	何	何	何	
同	同	何	瓶	金	何	同	何	何	
計		何	瓶	金	何	程	何	何	人

內
受拂殘
阿片何瓶

何年何月何日付ヲ以送納濟

明治何年三月三十一日現在高

第五款 鑛泉分析試驗ニ關スル件

○内務省丙第四十四號(長野縣外卅一縣)

九年八月廿五日

鑛泉

司藥場設置以來鑛泉分析試驗ノ義追々申出候向有之候處其採酌法不得宜ヨリ往々其成分變性シ就中遊離氣類有之モノニ至リテハ多少蒸散ヲ不免其力爲精密ナル試驗難及候條同場事務ノ緩劇ヲ圖リ試驗主任ノ者ヲ派遣シ實地ニ就テ試驗セシメ候上運搬ヲ要スル分ハ採酌法等詳細示談可及候

條其節マデ差出見合セ可申此旨相達候事

第六款 藥品營業并ニ藥品取扱規則

○法律第十號

廿二年三月十五日

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得
第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ

藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

(七二二)

- 第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ
- 第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルドキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス
- 第十五條 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ
- 第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十七條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス
- 第十八條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付、リ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第十九條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス
- 第二十條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ
- 第二十一條 第二章 藥種商
- 第二十二條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ
- 第二十三條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十四條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス
- 第二十五條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ販賣スルコトヲ得ス
- 第二十六條 第三章 製藥者
- 第二十七條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ
- 第二十八條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十九條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス
- 第三十條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第三十一條 何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第三十二條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ
- 第三十三條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ
- 第三十四條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第三十五條 前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第三十六條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス
- 第三十七條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ
- 第三十八條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス
- 第三十九條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス
- 第四十條 其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

- 第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス
- 第二十六條 第四章 藥品取扱
- 第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第二十八條 何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第二十九條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ
- 第三十條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ
- 第三十一條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第三十二條 前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第三十三條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス
- 第三十四條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ
- 第三十五條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス
- 第三十六條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス
- 第三十七條 其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ
 但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ
 第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造醫ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人
 ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ
 第三十八條 内務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアル
 ルヘシ監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五
 條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十條 第十一條第十四條第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三
 十二條ニ違背シタル者ハ二十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十一條 第六條第八條第十條第十一條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四
 條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種
 商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅
 ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ
 醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコ
 トヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル
 第四十六條 醫科大學藥學科及高等中學校醫學部藥學部ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者
 ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大
 臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
 第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
 第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第七款 毒藥劇藥品目

○内務省令第二號

廿五年三月十一日

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ明治二十二年三月内務省令第
 五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

- | | | |
|---|--|------------------------------------|
| 亞砒酸 <small>〔白砒石、礬石、
アルセニツク〕</small> | 鹽酸亞刺莫兒比涅 | 硫酸亞篤羅必涅 |
| 加刺拔兒豆越幾斯 | 昇汞 <small>〔過格魯兒汞、
猛汞、生々乳〕</small> | 赤色沃度汞 <small>〔過沃
度汞〕</small> |
| 黃色酸化汞 <small>〔黃降
汞〕</small> | 赤色酸化汞 <small>〔赤降
汞〕</small> | 亞砒酸加留謨液 <small>〔法列
兒水〕</small> |
| 鹽酸莫兒比涅 | 硫酸莫兒比涅 | 巴豆油 |
| 磷 | 撒里矢爾酸比 <small>〔撒里矢爾酸
蘇斯知爾密涅〕</small> | 鹽酸必魯加兒必涅 |
| 硝酸斯篤利幾尼涅 | 撒里矢爾酸比 <small>〔撒里矢爾酸
蘇斯知爾密涅〕</small> | |
| 以上日本藥局方第二表ニ掲載セルモノ | 物拉篤利涅 | |
| 砒素、亞砒酸鹽類、砒酸及其鹽類 | 青酸、稀青酸 | アコニチチ及其鹽類 |
| 沃度砒素硫化砒素 <small>〔雄黃、雌雄石、
雌黃、石黃〕</small> | 亞篤羅必涅鹽類 | ブルシネ及其鹽類 |
| 錒答利陳及錒答利陳酸鹽類 | コニ一ネ及其鹽酸 | クラール <small>〔失毒、
ラ、〕</small> |

實麥答林
 撒里矢爾酸汞
 藏化加留謨〔青酸〕
〔加里〕
 ニコチネ
 斯篤利幾尼涅鹽類
 劇藥
 石炭酸
 鹽酸
 發煙硝酸
 亞硝酸亞密爾
 杏仁水、苦扁桃水、老利兒結兒斯水、バクナ水
 硝酸銀加硝石
 貌羅謨樟腦
 抱水格魯拉爾
 古埤乙涅
 硫酸銅〔丹礬〕
 古魯聖篤越幾斯
 莫若越幾斯、別刺敦耶越幾斯
 實麥答里斯葉
 非沃斯草
 黃色沃度汞〔亞沃〕
 沃度

ホムアトロピネ及其鹽類
 非沃斯矢涅及其鹽類
 沃度砒汞液〔度納〕
〔般液〕
 比蘇斯知偈密涅〔越攝〕鹽類
〔利涅〕

粗製石炭酸
 粗製鹽酸
 硫酸
 安知歇貌林〔亞設篤亞〕
〔尼里度〕
 熔製硝酸銀
 錫答利斯〔錫〕、芫菁
 嚼囉仿謨
 珈琲涅
 銅礬〔神效〕
 非沃斯越幾斯
 麥角越幾斯
 古魯聖篤實
 莫若草、別刺敦那草
 白降汞
 苛性加里〔腐蝕劑〕
〔篤亞斯〕

硝酸亞酸化汞
 非沃斯矢亞密涅及其鹽類
 莫兒比涅鹽類
 必魯加兒必涅鹽類

格羅謨酸
 硝酸
 粗製硫酸
 安知必林
 結品硝酸銀
 貌羅謨〔臭素〕
 慘酸攝留謨
 鹽酸古加乙涅
 發泡古魯胃謨
 印度大麻越幾斯
 阿片越幾斯
 番木髓越幾斯
 印度大麻草
 甘汞、輕粉〔亞格魯〕
〔兒汞〕
 沃度仿謨
 格魯兒酸加留謨〔鹽素酸〕
〔加留謨〕

沃度加留謨
 莫若擦劑、別刺敦那擦劑
 苛性那篤倫〔腐蝕〕
〔曹達〕
 古魯聖篤非沃斯丸
 吐根
 藥刺巴脂
 麥角
 番木髓子
 知母爾
 古魯聖篤丁幾
 吐根丁幾
 阿片安息香丁幾〔阿片〕
〔腦丁幾〕
 古爾矢屈謨酒
 吐酒石酒
 以上日本藥局方第三表ニ掲載セルモノ

結麗阿曹篤
 偈答百兒加液
 揮發芥子油
 醋酸鉛〔鉛糖〕
 藥刺巴根
 剝度比爾謨脂〔剝度比〕
〔爾林〕
 古爾矢屈謨子
 吐酒石
 錫答利斯丁幾、芫菁丁幾
 實麥答里斯丁幾
 魯別里亞丁幾
 莫若丁幾、別刺敦那丁幾
 吐根酒
 格魯兒亞鉛

格兒謨酸鹽類
 ビクソン酸及其鹽類
 格魯兒拔留謨、硝酸拔留謨其他拔留謨鹽類
 コロ、ダイソ
 醋酸銅、次炭酸銅〔扁青〕
 硫酸銅〔綠青、山綠、〕次炭酸銅〔細青〕
 曼陀羅華葉、子及其製劑
 藤黃〔藤黃〕
〔藤黃〕

粗製硝酸
 發煙硫酸
 粗製硫酸
 咖啡涅鹽類
 硝酸銅
 梘實〔日本產〕
〔大茴香〕
 古紐謨草及其製劑

刺苦丟葛謨
 鉛汞〔次酸〕
〔鉛液〕
 阿片
 挖沕兒散〔阿片吐〕
〔根散〕
 莫若根、別刺敦那根
 珊篤寧
 加刺拔兒豆
 金硫黃〔五硫化安〕
〔知母細謨〕
 古爾矢屈謨丁幾
 沃度丁幾
 阿片丁幾
 番木髓丁幾
 芳香阿片酒〔舍田華謨〕
〔阿美答液〕
 硫酸亞鉛〔皓礬〕

- 汞灰散〔銀灰〕
- 揮發苦扁桃油
- 藜蘆根及其製劑
- ストロエアシツスチ及其製劑
- 醋酸亞鉛、炭酸亞鉛、緋草酸亞鉛
- 硫酸汞〔硫酸〕
- サビナ油
- 巴豆
- フエロース次亞磷酸鹽舍利別
- 沃度爾
- アコニット根〔雙糖菊、烏頭、附子ノ類〕及其製劑
- サバデルラネ
- 酸化安知母紐謀

第八款 藥品巡視規則

○内務省令第四號 廿二年三月廿七日

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

- 第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ
- 第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品
 - 二 藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項
 - 三 調劑錄
- 第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品
 - 二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項
- 第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ
- 第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

- 第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セシ其時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス
- 第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ
- 第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第九款 藥品營業并藥品取扱ニ關スル雜件

- 内務省令第一號 廿四年四月七日

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條屆書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者、相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スルモノ之ヲ爲スヘシ
- 内務省令第五號 廿四年五月廿日

明治十九年六月當省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ
- 内務省令第十號 廿四年七月廿四日

衛生試驗所ニ於テ検査シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ検査ニ對シ不服アル者ハ再検査ヲ請フコトヲ得再検査ノ手数料ハ初回検査手数料ノ三倍ヲ前納スヘシ
- 内務省令第一號 二十六年一月十九日

衛生試驗所ノ印紙ヲ貼付シタル藥品ノ外凡ソ物品ノ廣告揭示印刷物又ハ其容器包紙ニ衛生局又ハ衛生試驗所ノ保證又ハ試驗濟其他之ニ類スル文字ヲ記入スルコトヲ得ス若シ衛生試驗所ノ試驗成績ヲ表示セントスル者ハ其成績書ノ全文ヲ記載スヘシ之ヲ増減變更スルコトヲ得ス此省令ニ違背シタル者又ハ衛生試驗所ノ検査ヲ詐稱シタル者ハ拾圓以内ノ罰金ニ處ス

本令ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス

廿六年十月十一日

○内務省令第十二號 衛生試驗所ニ於テ交付シタル報告書ノ寫ヲ請求スル者ハ一枚ニ付手数料金拾錢其翻譯文ヲ請求スル者ハ一通ニ付手数料金貳拾錢乃至金參圓ヲ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

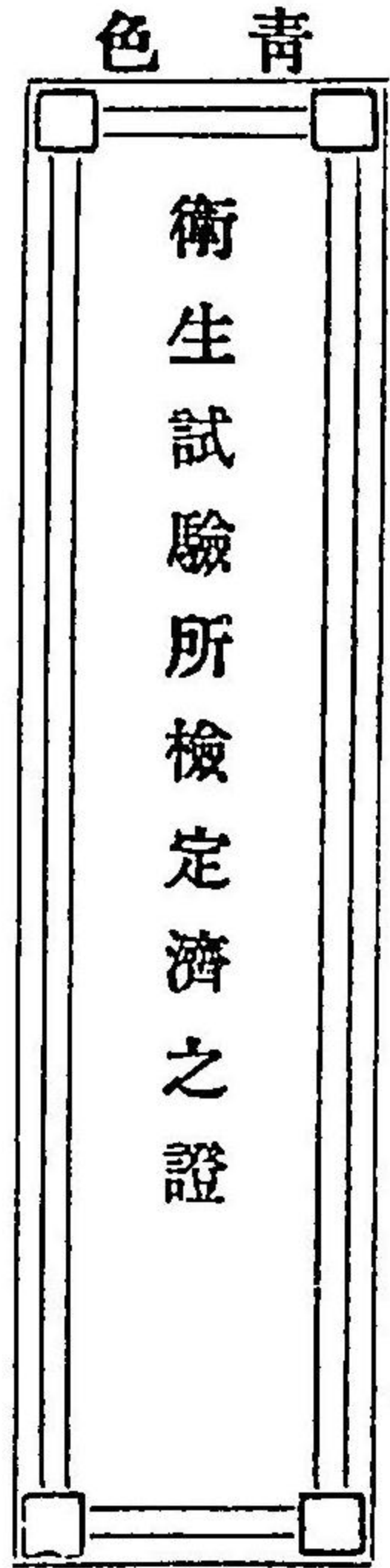
○内務省告示第九號 廿三年三月十四日

自今衛生試驗所ニ於テ検査印紙ヲ貼付スルモノハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條ノ藥品トス但第二十七條第二項ノ藥品ハ検査ノ上良品ト認メタルモノニ限ル

○大藏省訓令第二十八號 二十六年七月二十日 北海道廳 府 縣

明治二十六年七月當省訓令第二十二號内務省衛生試驗所ニ於テ木精(メチールアルコール)ノ容器ニ貼用スル印紙雛形ハ左ノ通但見本ハ別ニ之ヲ送付スヘシ

中形印紙雛形 花形 彩紋



右印紙大中小ノ三種トス

第十款 賣藥規則

○布告第七號 十年一月二十日

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事 (別冊)

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ十一月廿七號布告ヲ以テ其管轄廳ニ願出免許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ検査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥簡藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サハルヘシ十一月廿七號布告ヲ以テ内務省管轄廳ニ改メ毒藥ノ下ニ劇藥ノ二字ヲ加フ

第四條 藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ十一月廿九號布告ヲ以テ改正十一月廿七號布告ヲ以テ鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共ニ免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又賣子ヲ派出シ行商ヲ爲サシメント欲スルハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 第九條 削除

第十條 免許内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ十一月廿七號布告ヲ以テ有害ヲ有害ト改ム

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セララル、時ハ其請買者及ヒ買子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請買者免許中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルハ營業者ハ勿論其請買者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付 一ケ年 金貳圓
 右鑑札料 藥劑一方ニ付 一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納ム

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科ス

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請買スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請買セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科ス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請買者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請買者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

第十一款 賣藥ニ關スル雜件

○大省令第三十一號 十九年十月廿一日

(〇四二)

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

〇布告第四百十二號

五年五月

鼠取或ハ蠅取藥ト唱へ響石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致シ來候處自今令禁止候事

第十二款 調藥販賣取締規則

〇本甲第二十五號

十六年六月廿八日

調藥販賣取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

調藥販賣取締規則

- 第一條 調藥トハ賣藥規則外ニ屬スル防臭藥及ヒ飲食物ノ防腐鼠蠅虱蚤蚊蝗等驅除ノ目的ヲ以テ調製シタルモノヲ云フ
- 第二條 調藥ヲ販賣セント欲スル者ハ方名藥味分量用法用量功能ヲ記シタル書面ニ該藥相添願出免許證ヲ受クヘシ
- 第三條 調藥ヲ請賣セント欲スル者ハ調藥人連署願出請賣免許證ヲ受クヘシ但他管下ノ者ヨリ請賣セント欲スル者ハ免許證ノ寫ヲ添願出ヘシ若シ其證ナキトキハ第二條ノ手續ニ依ルヘシ
- 第四條 調藥人請賣人ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商ヲ爲サシメント欲スル者ハ其旨願出行商免許證ヲ受クヘシ但行商スル時ハ必ス之ヲ携帶スヘシ
- 第五條 免許證ハ賣買貸借讓與ヲ許サス
- 第六條 廢業死亡或ハ他管へ轉居スル時ハ免許證ヲ返納スヘシ但相續人ニ於テ營業ヲ繼續セシムル者ハ其旨願出書換ヲ請フヘシ
- 第七條 轉居或ハ水火盜難其他事故ニ依リ免許證書替ヲ要スル時ハ其旨願出ヘシ
- 第八條 此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタル者及ヒ第四條但書ニ違背シ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ刑法第四百二十六條四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ廿三年四月縣令三十五號ヲ以テ第八條改正

第十三款 藥種商製藥者取締規則

〇縣令甲第五號

廿三年二月十二日

藥種商製藥者取締規則左ノ通相定メ明治廿三年三月一日ヨリ施行ス

但明治十六年六月甲第二十二號布達藥舖藥種商取締規則ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

藥種商製藥者取締規則

- 第一條 藥種商製藥者取締規則
- 第二條 藥種商製藥者免許鑑札ヲ得ントスル者ハ開業ノ場所及族籍住所氏名生年月ヲ記シ當廳へ願出ヘシ
- 第三條 藥種商製藥者廢業又ハ死亡シ若クハ他府縣ニ轉住セントスル者ハ其旨當廳へ届出免許鑑札ヲ返納スヘシ
- 第四條 藥種商製藥者本縣内甲郡内ヨリ乙郡内ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ甲郡役所へ其旨届置乙郡役所ヲ經テ鑑札書換ヲ請フヘシ
- 第五條 藥種商製藥者ハ其店頭ニ看板ヲ掲クヘシ
- 第六條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ
- 第七條 但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルヲ得ス
- 第七條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲

(一四二)

スヘシ

但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限ニアラス
第八條 藥種商製藥者ニ於テ使用セル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキモノト認ムル
トキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第十條 製藥者ハ一ケ年間製造セシ各藥品ノ數量ヲ統計シ翌年一月三十一日限リ當廳ヘ届出ヘシ
第十一條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營ントスル者ハ第一條ノ免許
鑑札ヲ受クルニ及ハス且毒藥劇藥ヲ零賣スルコトヲ得ルト雖モ其他ハ總テ藥種商製藥者同様タ
ルヘシ

但開廢業及轉居等ノ時ハ其旨當廳ヘ届出ヘシ

第十二條 此細則第六條第七條第九條ニ違背シタル者又ハ第八條ノ命令ニ遵ハサル者ハ五拾錢以
上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十三條 從來内務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受ケタル者モ此細則ニ依リ別ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ
第十四條 此細則施行以前ニ於テ當廳ヨリ付與シタル藥種商免許鑑札ハ有効ノモノトス

第五章 墓地

第一欸 墓地及埋葬取締規則

○布達第二十五號 十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但別段ノ規則
アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス但改葬ヲナサン
トスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ
ナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タルニ非サレハ改葬ヲナサシムルヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ認許ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シ
タルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘ
右布達候事

第二欸 墓地及埋葬取締細則

○本縣甲第拾五號 十八年四月廿七日

墓地及埋葬取締細則左之通相定候條此旨布達候事
但傳染病ニ係ルモノハ別段ノ布達ニ依ルヘシ

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル場所ニ限ル但已ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ若クハ新
設セントスル時ハ第壹號書式ニ準ヒ願出當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道大川ニ沿ハス人家ヲ距ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥

飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタル者ハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スヘシ

第四條 墓地ノ周圍^{墓地ト非サルニハ樹木ヲ栽ヘ其區域ヲ詳ニスヘシ但墓地ノ内ニハ高サ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス其從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス}

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀牆ヲ設ク可シ但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナル時ハ格別ナリトス

第七條 火葬場ヲ新設セントスル時ハ前條ノ旨趣ニ基キ第一號書式ニ準ヒ願出許可ヲ受クヘシ

第八條 火葬ハ成ル可ク日没後之ヲ行フ可シ

第九條 壙穴ノ深サハ六尺以上タル可シ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルモノハ格別ナリトス

第十條 墓地又ハ火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ^{便宜ニヨリ一ケ所又ハ數ケ所ヲ管理スルモ妨ケナシ}其姓名ヲ町村役所ヘ届ケ置ク可シ但管理者ハ姓名ヲ所管警察署又ハ分署ヘ届出スヘシ

第十一條 管理者ハ墓地又ハ火葬場ノ地名及ヒ反別等取調所管警察署又ハ分署ニ差出ス可シ但新設又ハ場所取廣メノ許可ヲ受タル時ハ其時々本文ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 管理者ハ墓地ノ繪圖及ヒ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十三條 管理者ハ分署ヨリ領收シタル戸長ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月分ヲ翌月十日迄ニ所管警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ケ(町村)役所ヘ差出スヘシ但改葬主ヨリ領收シタル警察官ノ許可證モ本文ノ例ニ依ルヘシ

第十四條 管理者ハ葬主ニ於テ戸長ノ認許證ヲ所持セサルカ又ハ死後二十四時間ヲ經過セサルモノアルハ其埋火葬等ヲ差止警察官吏ニ申告スヘシ但改葬主警察官ノ許可證ヲ所持セサルハ亦全シ

第十五條 死屍ヲ埋葬シ又ハ火葬セントスルモノハ左ノ區別ニ依リ第二號書式ニ準ヒ書面二通ヲ作リ戸長ノ認許證ヲ受ケ之ヲ管理者ニ渡スヘシ

- 一 病死シタル者ハ主治醫ノ死亡證ヲ添ユヘシ
- 一 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案書ヲ添ユヘシ
- 一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ル時ハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ添ユヘシ
- 一 變死ニ係ル時ハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ添ユヘシ
- 一 囚徒ノ死屍ヲ引取タル者ニ係ル時ハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ受ケ之ヲ添ユヘシ
- 一 死刑ノ死屍ヲ引取タル者ニ係ルハ監獄署ノ指令書ヲ添ユヘシ

第十六條 戸長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十七條 改葬セントスル者ハ第三號書式ニ準ヒ所管警察署又ハ分署ニ願出許可ノ證ヲ受ケ墓地ノ管理者ニ渡スヘシ

第十八條 碑表及ヒ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻スル墓標ヲ建設セントスル者ハ其地名事由等ヲ詳記シ圖面並碑文案ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ニ願出ヘシ但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止ル墓標ハ此限ニアラス

第十九條 墓地及埋葬取締規則第一條及本則第一條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十五條第十三項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

墓地及埋葬取締規則第三條第五條第六條第七條及本則第三條第四條第六條第七條第九條第十條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條ニ違背シ又ハ第五條第十一條第十二條ニ背キ官署ノ督促ヲ受ケ之ニ應セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ由リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ

五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ
墓地及埋葬取締規則第四條及本則第十五條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第十項ニ依
リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ
第廿四號ニテ更正
第壹號書式

理〔火〕葬場願

何那何町何番地字何々ノ内ト記スヘシ 何那何町持主

一山林反別何程

何々〔町村又ハ某町村ノ某外何〕
〔山林原野ノ内ニテ適當ノ場所無之不得止耕地ノ内ヘ設置スル時ハ其事由チ詳
記スヘシ若シ官地拂下チ願フ時ハ其事由チ詳ニシ拂下ノ相當代價チ記スヘシ〕

此地價金何程

此地租金何程

右場所ノ實況

一東ハ山ニ接シ西ハ畑ニ隣リ南ハ林アリ北ハ海ニ臨ムノ類

一最近人家ヲ距ル直經地全線以下全シ 何町何十間 (墓地ハ人家ヲ距ル六十間以上火葬)

一最近飲料水ヲ距ル全上

一最近道路ヲ距ル全上

一最近河海或ハ溪水ヲ距ル全上

一地質ノ大略等ノ類

一土地乾燥ナルヤ卑濕ナルヤ大略

右ハ從前御許可ノ理〔火〕葬場何々ノ義ニ付 新設又ハ取廢ヲ要ス 前願ノ地所ヲ以テ何 何町村 公共ノ理

〔火〕葬場ニ相定メ申度候間御許可 宜有ナレハ該地所御 被成下度繪圖相添 此段奉願候也 〔圖面ニハ 〔家
飲料水道路等ノ方位〕〔火葬場願ニハ構造ノ圖面ヲモ〕添ユヘシ〕

右(町村)總代

年月日

衛生委員 氏 名 印

氏 名 印

管理者 氏 名 印

大分縣令宛

右(町村)戸長 氏 名 印

年月日

氏 名 印

右之通候也

郡長 氏 名 印

第二號書式

死亡届及埋葬認許證請求書

〔職業ハ各本人ノ現業ヲ記シ例ヘハ農業主(農ニシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕
作スル者トナ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキモノハ戸主何職業ト記スヘシ〕

何那何町何番地身分職業

何 某(父母兄弟姉妹)
氏(妹妻子ノ類)

何月何日何時 病死

生年月

右及御届候ニ付テハ何月何日何時何地ニ埋葬致シ度候間認許證御渡被下度候也

〔火傷壓死絞死溺死自殺死刑等病死ニアラサル者ハ其旨ヲ記シ
妊娠四ヶ月以上ニテ死産ノ者ハ生母ノ名ヲ記シ戸主ノ氏名ヲ
肩書ニシテ上ニ何月何日何時(公私)生(男女)死産ト記スヘシ
變死ハ御檢視済ト記スヘシ〕

年月日

戸長宛

第三號書式

改葬許可願

何年何月何日死去

全上

右ハ私父母祖父母其
他何々ニ有之是迄某墓地ニ埋葬致シ置候處何々改葬スル事由
ヲ記スヘシニ付今般某墓地へ改葬仕度
候間許可ノ證御下付被成下度此段奉願候也

何郡何町村身分

氏

名印

何警察署(何分署)御中

第三款 墓地及埋葬取締取扱手續

○本諸署第二八〇號

十八年五月十二日

本年甲第十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締細則布達相成候ニ付右ニ關スル取扱手續左之通相定候條此
段及達候也明治十九年十二月十四日諸署第五〇〇號ヲ
以テ取扱手續第一項ヲ削除シ以下順次繰上

墓地及埋葬取締取扱手續

第一項 管理者ノ名簿ヲ製シ其届出アリタル時々住所身分氏名及管理ノ个所等ヲ登記スヘシ

右戸主

氏

名印

〔戸主死亡ノ時ハ其家人男女子問ハス主タル者ノ
獨身者ナレハ親屬又ハ隣伍ノ者ヨリナスヘシ〕

年月日

何郡何町村身分

何警察署(何分署)印

第四項 管理者ヨリ戸長ノ認許證ヲ差出シタル片ハ之ヲ調査シ別紙臺帳様式ニヨリ登記シ而シテ
認許證ニハ官氏名閣ト朱書シ檢印ヲ捺シ下付ス可シ

第五項 細則第十八條ノ願出アリタル片ハ其事實相違ナキヤ否ヲ審按シ差支ナキモノト認ムル片
ハ許可シ若シ事實相異ナル等ニテ疑ハシキモノナル片ハ意見書ヲ添エ當署へ稟議ス可シ但官有
地内ニ建設センコトヲ願出タルトキハ其書類ニ理由ヲ付シ伺出可シ(明治十九年九月十八日諸
署第一九九號ヲ以テ追加)

第六項 管理者ニ於テ調製スル墓籍ハ別紙様式ニ依リ調製ナサシムヘシ

第七項 甲第十六號布達ニ依リ火葬場ノ届出アリタル時ハ實地ニ臨ミ細則第六條ニ適合スルヤ否
ヲ檢査シ其書面ヲ付シ當署ニ送致ス可シ但意見アルトキハ意見書ヲ添ヘシ

〔別紙〕

墓籍様式

何郡何町村番地

法號

全全

何年何月何日亡
俗名何町村何ノ某

全全

葬主又
ハ祭主

全全

何郡何町身分

全全

何ノ某

全全

(〇五二)

右ノ内不明ニシテ取調行届カサル廉ハ不詳ト記ス可シ

(別紙様式)

某村埋火葬認許證檢閲臺帳

(△印ハ朱書)

檢閲年月日	死亡年月日時	埋火葬年月日	埋火葬場	死因	死者氏名	年齢
何年何月何日	何年何月何日 △何年何月何日 午(前後)何時	何年何月何日	何町村字某	死 病死 死 死産	何ノ某	何年何月

第四款 墓地及埋葬ニ關スル雜件

警視廳 府 縣

〇達第八十二號 十七年十月四日
今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

〇本局第壹〇二號

十八年五月廿三日

内務書記官ヨリ知事宛

昨十七年太政官第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達相成候處神佛敎院敎會所說敎所等ハ規則第六條家屋構内ニ含蓄シタル儀ト御心得可有之此段申進候也

〇茨城縣伺

十七年十二月十一日

墓地及埋葬取締規則第三條ニ死体ハ死后二十四時間ヲ經過スルニ非ラサレハ云々トアリ右ハ傳染病死屍ト雖モ該時間内ニ火埋葬ス可カラサルハ勿論之義ト被存候得共虎列刺發疹瘡扶私痘瘡等之病勢激烈ニシテ其毒蔓延之場合ニ際シ瞬時モ猶豫ス可カラサルニ於テハ本條ノ限リニ無之儀ト心得可然哉此段相伺候也
指令

〇朽木縣伺

十八年七月二十日

書面伺之趣傳染病者死体ハ二十四時間内ト雖モ埋火葬ヲ爲シ不苦候事

墓地及埋葬取締規則第三條ニ死体ハ死后二十四時間ヲ經過スルニ非ラサレハ埋火葬ヲナスコトヲ得スト有之候處死体分婉ノ如キハ他ノ死体トモ異ナリ自然衛生上ニ妨害ヲ及ホスノ虞モ有之候右死体ハ二十四時間内ト雖モ埋葬シ得ヘキハ勿論ノ義ト相心得可然哉此段相伺候也
指令

書面伺之通

第五款 刑死者ノ墓標寫眞等ニ係ル取締

〇内務省令第十一號

廿四年七月廿七日

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

其他總テノ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、勾留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、勾留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視廳監)ハ安

(一五二)

寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

第六款 某地外國人傳染病死屍埋葬地ニ關スル取極

○内務兩省訓令第一一三號 廿二年二月廿五日
別紙外國人惡疫死屍埋葬地取極及規則按下列條右ニ基キ設置方各國領事ト協議ヲ遂ケラルヘシ若シ地方ノ情況ニ據リ埋葬地規則案第九條ニ掲タル金額ノ増減ヲ要スル見込アルトキハ豫メ申出ラルヘシ

(別紙)

某地外國人傳染病死屍埋葬地ニ關スル取極

外國人傳染病死屍埋葬ノ爲メ新ニ埋葬地ヲ設クルハ衛生上必要ナリト認メ日本政府ヨリ某地某町村ニ之ヲ設クヘキノ意旨ヲ通達セラレタルヲ以テ本官等其取極ヲ決定スヘキ相當ノ權限ヲ以テ茲ニ左ノ條々ヲ協議決定セリ

第一條 來ル何月何日ヨリ以後ハ虎列刺、抱瘡、發疹室扶斯、腸室扶斯、實布埜利亞、赤痢病等ノ傳染病又ハ流行病ニ罹リ某地ニ於テ死去シ未タ火葬ヲ施サ、ル外國人ノ死体ハ總テ某町村別紙圖

面何印ノ地ニ新設シタル傳染病死屍埋葬地ニ埋葬スヘシ

第二條 右埋葬地及ヒ其地ニ往還スヘキ道路并ニ溝渠塀垣關ハ此取極ニ添付シタル規則第九條ニ掲クル貸地料ノ外日本政府ヨリ租稅ヲ徵セシテ使用セシムヘシ

右埋葬地ノ保存ハ日本政府ニ於テ之ヲ負擔シ其費用ノ賠償ヲ求メサルヘシ

右埋葬地既ニ填塞シテ餘地ナキニ至リタル時ハ此取極ニ準據シ日本政府ヨリ其地域ヲ取廣クルヲアルヘシ

第三條 船舶ヨリ傳染病死屍ヲ埋葬地ニ運搬スルノ際通常波止場ヲ經過セサラシムルガ爲メ日本

政府ヨリ特ニ上陸場ヲ設クルヲアルヘシ

第四條 此取極ニ依テ設置シタル外國人傳染病死屍埋葬地ハ日本政府獨リ北海道(某府縣)廳ヲ經テ其監督ヲ行フヘシ

外國人ノ死屍ヲ埋葬スル一切ノ事件ハ此取極ニ準據若クハ此取極ニ添付シタル規則ヲ以テ整理スヘシ

日本明治何年何月何日

西曆何年何月日

北海道廳長官(某府縣知事)
各國領事

某地某町村外國人傳染病死屍埋葬地規則

第一條 日本明治何年何月何日西曆何年何月何日北海道廳長官(某府縣知事)氏名及條約各國領事ノ間ニ相定メタル取極ニ添ヘタル圖面中何印ノ場所ハ傳染病又ハ流行病ニ罹リタル外國人死屍埋葬ノ用ニ充ツヘシ

第二條 右圖面中何印ノ場所ハ外國人ハ傳染病死屍埋葬地ト稱スヘシ

第三條 北海道(某府縣)廳ハ今後此外國人傳染病死屍埋葬地ノ道路塀垣及各人墓所ノ位置ヲ明瞭ニ示スニ足ルヘキ埋葬地ノ圖面ヲ製シテ之ヲ保存シ且墓所ノ簡數ヲ算シテ簿冊ニ記入シ置クヘシ

第四條 屍體ヲ埋葬スルハ先ツ其關係人ヨリ死亡者ノ氏名國籍男女姓及死亡ノ月日時並ニ原因ヲ具シテ警察署ニ届出テ警察署ハ之ヲ北海道(某府縣)廳ニ申出スヘシ右届書ニハ要スル所ノ墓地ノ等級ヲ記載シタル其國領事若クハ副領事又ハ領事ノ職權アル者ノ證明書ヲ添付スヘシ北海道(某府縣)廳ハ直ニ埋葬ノ準備ヲナシ且此規則第三條ニ從ヒ届書及ヒ證明書ニ記載シタル各條

目ヲ登記スヘシ

第五條 埋葬ノ位置ハ北海道(某府縣)廳之ヲ指示スヘシ

(四五二)

第六條 墓所一個所ノ坪數ハ幅五英尺長サ八英尺則四十方英尺ト定ムヘシ若シ餘分ノ地坪ヲ要シ其旨申立ルニ於テハ北海道(某府縣)廳ハ第九條ニ掲クル上等地區ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七條 死屍ハ總テ八英尺ヨリ淺カラサル地下ニ埋葬スヘシ

第八條 死屍ハ埋葬ノ前日本警察官若クハ相當ノ職權ヲ帶タル役員臨視ノ上其充分ト認ムル消毒法ヲ施サシムヘシ

第九條 賃地料ハ左ノ規定ニ依リ埋葬ノ前北海道(某府縣)廳ニ之ヲ納ムル者トス但上等地區ニ於テ餘分ノ地所ヲ要スル者ハ一方英尺ヲ加フル毎ニ金壹圓ヲ増加スヘシ

上等四十方英尺ニ付 貳拾圓
中等右全上 拾貳圓
下等右全上 六圓

第十條 傳染病又ハ流行病ニ罹リタル死屍ハ第十一條ノ場合ノ外ハ發掘若クハ改葬スルコトヲ許サス

第十一條 日本政府ニ於テ公益ノ爲メ發掘若クハ改葬ヲ要スルトキハ死亡者所屬國ノ領事若クハ副領事ノ職權アル者ニ通知シタル後日本政府ノ費用ヲ以テ發掘改葬スヘシ

親戚故舊ニ於テ發掘若クハ改葬ヲ要スルハ其旨北海道(某府縣)廳ニ出願シ許可ヲ得タル後自費ヲ以テ發掘改葬スヘシ

發掘若クハ改葬ノ場合ニ於テハ日本警察官若クハ相當ノ職權ヲ帶タル役員臨視ノ上其十分ト認ムル消毒法ヲ施サシムヘシ

第六章 飲食物并着色

北海道廳長官(某府縣知事) 各國領事

算一欸 飲食物雜件

○内乙第三十五號 十一年四月十八日 府 縣

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食務ニ着色スルモノ不尠赴ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽地ニ非命ノ橫夭ヲ致スモノ有之危險ノ至ニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事

追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當省衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

○本庶布第二十一號 十一年六月廿八日

近來アニリン紅粉糖粉坊間俗ニ洋紅ト稱其他鐵屬製綠青又ハ樽金砂等ノ顔料ヲ以テ菓子餅團子其外食物ニ染色スルモノ有之赴ニ候處右ハ往々毒分ヲ有シ危險ノ品ニ付向後食物ノ染色ニ相用候儀堅ク禁止セシメ候條萬一違背之者有之ニ於テハ相當ノ處分ニ可及此旨布達候事

但本文顔料之外從來慣用之品タリモ有毒無毒ノ別不分明ナルモノハ其品一應當廳ニ差出指揮ヲ受クヘキ事

○本庶布第三十二號 十一年九月廿五日

本年六月庶布第二十一號アニリン製其他鐵屬製等ノ顔料ヲ以テ菓子餅團子其外食物ニ染色ノ義禁止候處左之品々同様禁止候條此旨布達候事

一 ペレンス 一 光明丹 一 濃唐藍蠟 一 薄唐藍蠟

右四品

○本庶布第五號 十一年三月十一日

近來河豚ヲ食スル者殊ニ多ク往々非命ニ斃ル、モノ不些趣相聞ヘ即今衛生御更張之主旨ニ戻リ以之外ノ事ニ付以來賣買一切令禁止候條自然違背之者有之ニ於テハ相當可及處分別紙諭文相添此旨布達候事

(五五二)

〔別紙〕

論文

明治十一年三月十四日

河豚は其肉美なりと雖も有毒の鱗類なり之を食して其毒に中てらるゝ時は立所に生命を喪ひ又は危険の疾病を醸す事あり貴重の生命を賭けて之を嗜み之を食する者多きは何ぞや其味の甘美にして其價の廉なるか爲めか之を嗜む者或は説を爲して曰く藥石の人身に毒あるもの其處方宜に適すれば萬病を治し却て健康ならしむ河豚の如きも割烹の精を得れば敢て害を爲すにあらす又曰彼の美味を喫し偶其毒に中てられて斃るゝ者は所謂百年目なり此の稀有の變を畏れて之を喫せざるは至愚の怯懦なり予嗜むの漸く減し其價の益低落し飽迄之を喫せん事を希ふと吁嗟甚哉心醉者の説をなすや管に口腹の欲に耽り飽饗の餘言に出ると雖も中人以下或は之に惑はざるなきを保ち難し夫藥石の毒ある者は良醫も慎んで容易に此を用ひず止を得ずして之を用ひるは其病根驅養する而已にして人身をして健康ならしむるに非ず固より河豚の毒と同一に論すべからず況や百年目等の説を爲すものは暴自棄たる辯を費すを埃たす殊に河豚の毒あるふど之を古今經驗に徴し之を舍密分析に質すに照々として著し其之を食して死せざる者は蓋僥倖のみ譬へは爰に人あり途に狂犬に逢て幸に毒牙の害を免る其幸に毒牙の害を免るを見て以て狂犬は人を噛む者にあらずとし毎に好て之に狎れ近づく者あらず誰れか其の愚を笑はざらんや方今衛生の道正に開け攝養の術漸く行はれ渠溝淤泥の疏通道路塵芥の掃除等の處置あり是則人身をして健康を害し疾病を醸生すへき源素たる臭氣汚穢に觸さらしめんか爲なり人身に害あるものは渠溝道路の臭穢すら斯の如し況や河豚の大毒大害を爲すものに於てをや依之本縣庶布第五號を以て河豚を賣買する事を禁す冀は管下衆庶彼禁令の主旨を了解し後來一切之を食する事を斷然停止し壽算を保たん事を此旨特に布諭候事

第一款 獸乳營業取締規則

○縣令甲第四十五號

廿四年十一月三十日

獸乳營業取締規則左ノ通相定來ル明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

但明治二十年^{十一月}縣令甲第七十七號牛乳搾取販賣取締規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

獸乳營業取締規則

第一條 此規則ニ稱スル獸乳トハ牛及ヒ山羊ノ生乳ヲ云フ

第二條 獸乳ヲ搾取販賣セントスル者ハ別紙書式ニ倣ヒ本廳へ願出許可ヲ受クヘシ

但畜養場構造ノ圖面ヲ添ヘシ

第三條 畜養場ハ人家及ヒ飲料水ニ接近シ衛生上障害アリト認ル場所ニ設置スルコトヲ許サス

第四條 獸乳搾取販賣ノ許可ヲ得タル者ハ獸醫ヲシテ獸乳ノ體質ヲ検査セシメ其健康證明書ヲ以テ開業前ニ所管警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第五條 畜養場ヲ移轉セントスル者ハ第二條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 乳獸ヲ増減又ハ交換シタル者ハ其種別頭數ヲ記シ七日以内ニ其旨所管警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但新ニ畜養ノ分ハ獸醫ノ健康證明書ヲ添ヘシ

第七條 乳獸ハ毎月一回以上獸醫ノ診察ヲ受ケ其健否トモ診斷書ヲ以テ所管警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第八條 獸乳營業人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 乳獸ノ飼料ヲ精選シ及ヒ其身牀ヲ清潔ニスヘシ
- 一 毎日一回畜養場ヲ掃除シ敷草ヲ交換スヘシ
- 一 病獸ハ健獸ト同場内ニ置クヘカラス
- 一 搾取シタル獸乳ハ綿布ノ類ヲ以テ濾過スヘシ
- 一 乳汁ノ容器ハ銅製亞鉛製ヲ用ユヘカラス

(八五二)

一 乳汁ノ容器ハ清潔ニシテ蓋若クハ覆ヲナスヘシ
第九條 左ノ五項ニ掲クル獸乳ハ飲用トシテ販賣スルコトヲ得ス

一 病獸ノ乳汁
一 乳脂ヲ脱取シ又ハ腐敗ニ傾キ變色變味シタルモノ
一 他物ヲ混和シ又ハ塵埃ノ混入シタルモノ
一 分娩後一週間ヲ經サル乳獸ヨリ搾取シタルモノ
一 狂犬ノ咬傷ヲ受ケ全治後三十日ヲ經サル乳獸ヨリ搾取シタルモノ
第十條 乳獸及獸乳ハ臨時検査ヲナスコトアルヘシ此場合ニ於テ試験ニ供シタル乳汁ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條 獸乳ヲ請賣セントスル者ハ搾取販賣人連署ヲ以テ所管警察署又ハ分署ニ届出ヘシ
第十二條 獸乳ヲ傳染病者アル家ニ配達スルキハ容器ヲ該家ニ留置クヘカラス
第十三條 獸乳搾取販賣人及ヒ請賣人廢業死亡若クハ改氏名轉居ヲナシタルキハ十日以内ニ其旨所管警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

但搾取販賣人ハ本廳ニモ届出ヘシ
第十四條 此規則第二條第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十二條ニ違背シタル者及ヒ第八條第十三條ニ違背シ官署ノ督促又ハ注意ヲ受クルモノニ應セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

獸乳搾取販賣願
何郡何町何番地字何
一 乳獸畜養場
但幾棟別紙繪圖面之通
一ヶ所

一 乳獸何頭

内
牝牛 何頭 犢牛 何頭
山羊牝 何頭 山羊兒 何頭
右ハ御規則ヲ遵守シ獸乳搾取販賣仕度候間御許可被成下度尤モ近隣ニ於テ故障無之依テ連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

何郡何町何番地身分
願人 氏 名 印
右隣家 氏 名 印

縣知事宛

(郡長町村長與印ノ事)

備考

繪圖面ニハ畜養場構造ノ模様ヲ概記シ及ヒ最近人家並飲料水位置ノ狀ヲ略寫シ各其距離ヲ記載スヘシ

第三款 冰雪販賣取締規則

○内甲第廿五號 十一年九月二十日
近年製氷營業人不潔ノ氷ヲ製シ候者有之不都合ノ儀ニ付自今右營業ノ者ハ毎年製造ノ節並ニ翌年發賣ノ節共前以管轄廳(東京府下ハ東京警察視本署)伺出検査ヲ受候様可致此旨布達候事
○縣令甲第七十六號 二十年十一月七日

(九五二)

氷雪販賣取締規則左ノ通り相定ム
但シ明治十三年^{十二月}甲第百三十二號布達ハ廢止ス

氷雪販賣取締規則

第一條 氷ヲ製造販賣セントスル者ハ左記ノ項目ヲ詳記シ製氷場所ノ地形ヲ記シタル繪圖面及ヒ製氷用水^{凡ニ}添エ毎^年十一月卅日限リ當廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ
但シ器械ヲ用テ氷ヲ製造セントスル者ハ着手三十日前ニ願出スヘシ
一製氷ノ方法
一製氷場並貯藏場ノ位置構造
一水源ノ地名及河泉ノ名稱
一水源及製造場ニ通スル水道ヲ距ル二丁以内ニ人家埋火葬場屠獸場アルハ其位置距離
第二條 天然ノ結氷又ハ積雪ヲ採収販賣セントスル者ハ現品^{凡ニ}添ヘ第一條ニ倣ヒ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 貯藏ノ氷雪ヲ發賣セントスルハ現品^{凡ニ}添ヘ検査願出許可ヲ受クヘシ

第四條 他府縣ニ於テ製造貯藏ノ許可ヲ得タル氷雪ヲ販賣セントスル者ハ其願書及ヒ許可ノ指令寫ヲ添エ當廳ニ願出スヘシ

第五條 氷雪販賣ノ許可ヲ得タルハ直ニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第六條 發賣許可ノ氷雪ト雖モ臨時検査ヲ遂ケ有害ト認ムルハ販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

但シ検査ニ供シタル氷雪ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス(廿四年十一月縣令第四十四號ニテ第六條ニ但書ヲ加フ)

第七條 氷雪ヲ卸賣又ハ小賣セントスルモノハ所管警察署又ハ分署ニ届出製造又ハ採收ノ場所ヲ記載シ認可ヲ受クヘシ

第八條 卸賣並ニ小賣商ハ其店頭ニ免許何地ノ(氷)雪ト大書シタル看板又ハ標旗ヲ掲ケ行商者ハ其容器等ノ見易キ様掲標スヘシ

第九條 製氷場並貯藏場ハ専ラ清潔ヲ主トシ有害物ノ混入セサル様注意スヘシ

第十條 本則第六條第九條ヲ除クノ外第一條第二條第三條第四條ニ違フ者及ヒ第五條第七條第八條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者刑法第四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 屠場及斃牛馬

第一款 獸類屠場并獸肉販賣取締規則

〇布告第百六十三號 六年五月

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ糞糞ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退糞糞可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地下雖モ糞糞不相成候尤乳汁搾取ノタメ糞糞候ハ被差許候ヘ共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

〇縣令第五號 二十年一月十七日

獸類屠場並獸肉販賣取締規則別冊ノ通相定明治二十年二月一日ヨリ施行ス

但從前ノ屠牛及肉類商取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止候ニ付該營業者ハ本則ニ據リ更ニ願出ヘシ全年縣令第十號ヲ以テ施行期限ヲ五月一日迄延期ス

獸類屠場並獸肉販賣取締規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類獸肉トハ人ノ食料ニ供スヘキ飼養獸類ノ屠肉ヲ云フ

第二條 獸類ハ屠場外ニ於テ屠殺スルヲ許サス

第三條 屠場ハ飲料水ニ供スル河泉又ハ國縣道及人家ヲ距ル六十間以外ニシテ衛生上等ニ妨害ナ

キト認ル地ニ於テ検査ノ上許可スベシ(廿六年一月縣令第八號ニテ第三條中削除ス)

第四條 屠場ヲ設置セントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ屠場構造ノ摸樣等ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ所管警察署ニ出シ當廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第五條 屠場設置ノ許可ヲ受ケタル者ハ其構造落成ノ上所管警察署又ハ分署ヘ届出検査ヲ受クヘシ但構造ノ危惡ニシテ危險ノ虞アルカ又ハ衛生上ニ妨害アリト認ルル者ハ改造セシムルコトアルヘシ

第六條 屠場ニハ第四號雛形ニ準ヒ見易キ所ニ標札ヲ掲クヘシ

第七條 屠獸ノ糞尿血液等ヲ洗滌スル場所ハ敷石或ハ漆喰造トナシ又汚水溜ヲ設クヘシ但汚水溜ハ地中ニ滲透セサル構造ヲナシ且覆蓋ヲ爲スヘシ

第八條 骨腸等ノ蓄藏所ハ別ニ一定ノ場所ヲ設ケ屠殺ノ後直ニ搬送シ不取締無之様注意スヘシ

第九條 屠場ハ清潔ニ掃除シ汚水溜等ニハ時々防臭劑ヲ散布スヘシ

第十條 屠獸營業ヲ爲サントスル者ハ自ら屠ルト人ヲシテ屠ラシムルトヲ明記シ第二號書式ニ準ヒ所管警察署又ハ分署ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第十一條 屠殺ハ日出前日没後ナスコトヲ許サス

第十二條 屠獸營業者屠殺スル者ハ所管警察署又ハ分署ニ届出検査官吏ノ監臨ヲ受クヘシ其願書ニハ屠殺スル日時場所及ヒ其獸ノ毛色年齢牝牡ノ區別并賣主ノ國郡村氏名及買求メタル代價ヲ一頭毎ニ明記スヘシ

第十三條 屠獸營業者ハ検査帳簿ヲ備ヘ屠獸ノ時々其數及毛色年齢牝牡ノ區別一頭ツハ分月日等ヲ記載シ第十四條第十五條ニ從ヒ檢印ヲ受ケ翌月五日以内其町村役所ニ差出ヘシ

第十四條 屠獸營業者ハ屠獸ヲ屠入レ監臨官吏立會ノ上屠殺スヘキ獸類ニ其病毒ノ有無ヲ檢斷セシメ前條帳簿ニ監臨官吏ト獸醫ノ檢印ヲ受ルニアラサレハ屠殺スルコトヲ許サス

第十五條 獸醫ハ屠殺スヘキ獸類ノ無病ト檢斷スルニアラサレハ第十三條ノ帳簿ニ檢印ヲナスヘシ

カラス

第十六條 屠獸營業者ハ屠殺終リタル後其肉ノ全部ヲ獸醫ニ検査セシメ食用ニ供スルヲ得ルト證明シ尙監臨官吏カ其切斷シタル肉ニ刻印シ而シテ第十三條ノ帳簿ニ販賣免許ノ印ヲ捺シタル後ニアラサレハ之ヲ販賣スルコトヲ許サス

第十七條 獸醫前條ノ肉ヲ検査シ食用ニ供スル能ハサルモノト檢斷シタル者ハ直ニ其肉ヲ細斷シ肥料トナスカ又ハ速ニ埋没スヘシ

第十八條 屠獸營業者ハ前條檢斷ノ場合ニハ其事由ヲ第十三條ノ帳簿ニ付記シ監臨官吏ノ檢印ヲ受クヘシ但傳染病ノ兆候アルトキハ其成規ニ從フ

第十九條 獸肉ヲ販賣セントスル者ハ居商行商トモ第三號書式ニ準ヒ所管警察署又ハ分署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ但居商ハ店頭ニ第五號雛形ニ準ヒ看板ヲ掲ケ行商ハ鑑札ヲ現帶スヘシ

第二十條 獸肉商ハ仕入帳ヲ製シ所管警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ仕入ノ都度屠獸營業人又ハ同業者ヨリ賣渡シタル旨ヲ第六號書式ニ準ヒ記載セシメ其檢印ヲ受クル後ニアラサレハ販賣スルコトヲ許サス

第二十一條 獸肉商ハ何人ニ限ラス仕入帳ヲ視ント請フトキハ速ニ之ニ應スヘシ但警察官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ

第二十二條 病死肉ハ勿論出所不分明ノ肉又ハ腐敗ニ傾キタルモノヲ販賣スルコトヲ許サス

第二十三條 鑑札並第二十條ノ仕入帳ハ賣買貸借讓與スルコトヲ許サス

第二十四條 營業鑑札ヲ毀損遺失シ又ハ轉居轉業其他ノ事故ニヨリ鑑札面ニ異動ヲ生シタル者ハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札下付若クハ書換ヲ願出ヘシ

第二十五條 廢業ノ節ハ鑑札相添所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第二十六條 此規則第一條第三條第五條第六條第七條第八條第九條第十七條ヲ除キ其他各條ニ違背シタルモノハ刑法第四百貳拾六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五

(四六二)

拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ(廿三年三月縣令第三十號ニテ廿六條更正)
第一號書式
屠場設置願

(他ヨリ寄留ノ者ハ本籍ヲモ記スヘシ)

一屠獸場

一ヶ所

但何郡何町村字何々番號田(畑山林原野)所有地(又ハ持主住所氏名)

何畝歩(何反歩ノ内)

一飲料水ニ供スル河(泉)ヲ距ル

一國(縣)道ヲ距ル

一人家ヲ距ル

何間

何間

私儀御規則ニ基キ(地主并)隣接地主及(町村)内ニモ協議相整屠獸營業ノ爲メ前書ノヶ所ニ屠獸場設置仕度候間御免許被成下度即チ屠場構造并地圖面等相添(地主其他)連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

右願主

氏 名 印

右地主

氏 名 印

右隣接地主

氏 名 印

右町惣代

氏 名 印

縣知事宛
前書之通願出ニ付奥書候也

年月日

前書之通候也

年月日

第二號書式

屠獸鑑札願

大分縣何郡何(町村)何番地身分
氏 名

(他ヨリ寄留ノモノハ本籍ヲモ記スヘシ)
私儀御規則ニ基キ何郡何(町村)字何々屠場ニ於テ自己下手シ(雇人ヲシテ屠ラシメ)屠獸營業仕度候ニ付鑑札御下渡被下度屠場主ニ協議之上連署此段奉願候也

年月日

右願主

氏 名

右屠場主

氏 名

住所

氏 名

右戸長

氏 名 印

第三號書式

獸肉販賣鑑札願

大分縣何郡何(町村)何番地身分

(五六二)

何々警察署長又ハ分署長宛
前書之通願出ニ付奥書候也

年月日

(六六二)

(他ヨリ寄留ノモノハ本籍ヲモ記ス可シ)

私儀御規則ニ基キ獸肉販賣仕度候ニ付居商(行商)鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年月日

何々警察署長又ハ分署長宛

前書之通願出候ニ付奥書候也

年月日

氏 年 齡 名

右願主 氏 名 印

右戸長 氏 名 印

第四號雛形

明治何年何月何日免許

○ 屠獸場

何郡何町何番地身分
氏 名

横七寸
長二尺

第五號雛形

明治何年何月何日免許

○ 獸肉商

何郡何町何番地身分
氏 名

右 右
同 同

第六號雛形

明治何年何月ヨリ用之

獸肉仕入帳

何郡何町何番地身分
氏 名

一何年月日	右賣
何肉何貫何百目	何郡何町何番地身分
但何々ノ部	屠獸營業人
候也	何 某 印

(七六二)

(八六二)

第二款 獸類並屠場取締ニ關スル雜件

○本縣警第一二三號 二十年一月廿一日
獸肉検査心得左ノ通規定ス

獸肉屠殺検査心得

- 第一條 屠獸届アリタルハ該届書ヲ携帶屠場ニ出張シ屠殺營業人ヲ指揮シ場中取締及掃除等ニ至ル迄一切ノ事ヲ監督スヘシ
- 第二條 屠殺スル獸類ノ病毒有無ヲ検査帳ニ記サシメ獸醫ト共ニ檢印スヘシ
- 第三條 屠殺終リタルハ其肉ノ全部ヲ検査シ異條ナキハ之ヲ數個ニ切斷セシメ其每肉四肢ハ爪其ノ皮付ニ刻印ヲ捺シ而シテ検査帳ニ販賣免許ノ印ヲ捺スヘシ但屠方疎忽ニシテ不潔ナルモノハ更ニ洗拭セシメタル后本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 第三條ニ定メタル刻印及ヒ販賣免許ノ印ハ左ノ錐形ニ準シ各署ニ於テ調製保存スヘシ

牛馬檢 直經曲尺 一寸二分

第五條 獸類ヲ屠殺スルハ警察官吏並ニ獸醫ハ始終場内ニ在テ其規則ニヨリ職務ヲ執行スヘシ
二十年二月三日
二三五號ヲ以テ追加
○本縣警第二三六號 二十年二月三日
獸類屠場並獸肉販賣取締規則取扱手續

警察署分署

獸類屠場並獸肉販賣取締規則取扱手續

第一條 屠場設置ノ願書ヲ受ケタルトキハ本則第三條ニヨリ實地ヲ検査シ其適否認定書ヲ添ヘ本部ヘ進達スヘシ

(九六二)

印割ト札鑑		番 號	原 籍
名 札 鑑	第 何 號	住 所	大分縣豐何國何郡何町村何番地
何々鑑札		姓 名	氏 名

- 第二條 屠場構造ノ落成ヲ届出タルトキハ署長之ヲ検査シ差支ナキモノハ速ニ認可シ若シ粗造ナルトキハ改造ヲ命スヘシ但シ認可改造トモ其都度本部ニ届出ルモノトス
- 第三條 屠獸營業及獸肉販賣ノ鑑札下付ヲ願出タルトキハ其種類ヲ區別シ第一號書式ニ準ヒ臺帳ニ記入シ鑑札ニ割印ス可シ但鑑札ハ左ノ式ニ依リ記載スヘシ
- 第四條 獸肉商仕入帳ノ検査ヲ願出タルトキハ帳簿ノ首葉ニ紙數及年月日ヲ記載セシメ署印ヲ押捺スヘシ
- 第五條 鑑札ノ書換又ハ再渡ヲナスハ臺帳ニ其事由ヲ記入スヘシ但廢業ヲ届出タルハ其旨ヲ記シ朱抹スヘシ
- 第六條 臺帳并鑑札用紙ハ本部ニ請求シ行商鑑札ハ第三號ノ式ニ據リ調製スヘシ但烙印ハ本部ヨリ配付ス
- 第七條 所管内獸醫人名簿ヲ製シ置キ検査ノ用ニ供スヘシ
- 第八條 獸肉検査證明ノ手續アラサル地方ヨリ仕入タル獸肉ヲ販賣セントスルトキハ其實渡人ヨリ實渡證書ヲ受取獸肉ト共ニ差出サシメ検査ノ上刻印ヲナシ販賣ヲ許スヘシ

(〇七二)

内書入欄	鑑札ノ年月日	明治何年何月何日	鑑札受取人印	①	鑑札返納年月日	明治何年何月何日	領收主任ノ印	②
	参考ナルヘキ事項							

第二號式

第何號 「臺帳ト同番號ヲ記ス」 屠獸(獸肉販賣)免許鑑札 大分縣何郡何(町村)何番地身分 氏名	年 月 日 大分縣 何々警察署 (又ハ何々分署) 署印
--	---

第三號式

豎三寸

第何號 (第二號ニ全シ) 屠獸(獸肉販賣)免許鑑札 大分縣何郡何(町村)何番地身分 氏名	年 月 日 大分縣 〇何々警察署 (又ハ何々分署) 署印
---	--

(一七二)

〇保第一七二號 廿五年三月十日
 屠獸營業人ヨリ其町村役場へ差出ス帳簿ノ内往々二冊ヲ製シ甲乙交互使用シ又ハ甲帳ニ牛ヲ乙帳ニ馬ヲ登記シ以テ警察官吏ノ檢印ヲ受ケ置キ竊ニ一帳簿ヲ差出シ或ハ通稅ヲ謀ラントスル嫌ヒ有之哉ノ趣ニテ其筋ヨリ照會候次第モ有之候ニ付若シ右等ノ所爲有之候ハ、必ス一帳簿ニ限ラシメ通稅等ノ弊害無之様嚴重取締向ニ注意シ尙部内屠場ニ於テ屠殺シタル獸類ノ種別頭數及營業者ノ氏名等ヲ一ヶ月分毎翌月三日迄營業人所轄ノ郡役所へ速報セラルヘシ

〇保第七八號 廿六年一月三十一日
 今般縣令甲第八號ヲ以テ獸類屠場數ノ制限ヲ解カレ候ニ付テハ今後屠場新設願ヲ差出スモノアル時ハ屠殺檢査出張又獸醫出張等ニ差支ナキ場合ナリヤ否調査シ意見ヲ付シ進達セラルヘシ

〇保起第二三四號 廿七年七月廿四日

(二七二)

近來馬肉ヲ竊ニ牛肉ニ混和シテ販賣スルモノアル哉ノ聞アリ右ハ成規ニ依リ牛馬肉ヲ鑑別スル爲メ片々迄燒印シ平素取締方注意中ノ義ニハ可有之候得共自然右等ノ所業ヲ爲ス者又ハ竊ニ病死肉等ヲ混入スル者アル時ハ目下暑氣ニ際シ特ニ人身ノ健康上ニ障害アル義ニ付自今巡回巡查ニ於テ時々該店舖ニ付又ハ行商者ニ行逢ヒタル時ハ措カス検査ヲナシ一層取締向特ニ注意セラルヘシ但牛馬ノ肉ヲ入ル、器物ハ各別ニセシムル様注意セラルヘシ

第二款 死畜取締規則

○本縣令甲第五十八號 廿五年十一月五日

死畜取締規則左ノ通相定ム

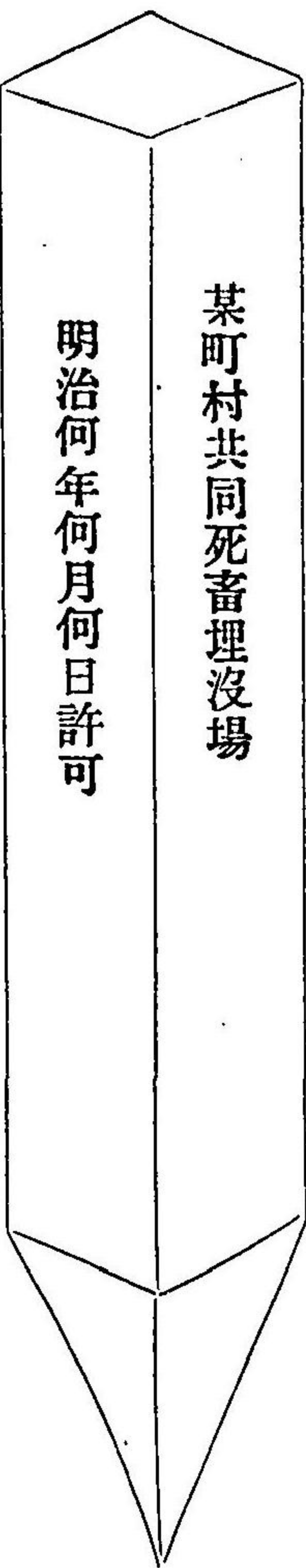
死畜取締規則

- 第一條 死畜牛、馬、羊、豚、山羊ハ此規則ニ據リ取扱フヘシ
- 但獸類傳染病豫防規則及獸類屠場并獸肉販賣取締規則ニ據ルモノハ此限リニアラス
- 第二條 死畜アリタルトキハ畜主ニ於テ届書口頭ヲ以テスニ其種類牛、馬、羊、豚、内外國種、雜種、毛色、年齡、牝牡ノ別等ヲ記シ別紙書式ノ獸醫検査書ヲ添へ所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ差出スヘシ
- 第三條 畜主ニ於テ前條ノ届出ヲ爲シタルトキハ警察官吏警察官吏差支ア立會ヲ求メ速ニ共同死畜埋没場ニ埋没深サ六尺以上タルヘシスヘシ尤皮、角、骨、蹄ヲ取ルハ妨ケナシ
- 第四條 死畜ハ埋没スヘキモノト肥料ニ供スヘキモノトヲ問ハス其皮ヲ剝クハ埋没場ニ於テシ肉ハ可成細斷シテ牛馬一頭ニ付テール油又ハ石油一升以上ヲ撒布スルカ又ハ其他適宜ノ法ヲ以テ食用ノ道ヲ絶ツヘシ
- 但原野谿谷等實際運搬不便ノ地ニ於テ死畜アリタルハ差支ナキ限ハ其地ニ於テ皮剝等ヲナシ埋没場ニ運搬スルコトヲ得

(三七二)

- 第五條 町村ハ必ス共同死畜埋没場一ヶ所ヲ設クヘシ
- 面積廣大ナル町村ニ在ツテ止ムヲ得サル場合ハ二ヶ所以上ヲ設置スルコトヲ得
- 但土地ノ便宜ニヨリ二町村以上聯合シテ設置スルモ妨ケナシ
- 第六條 共同死畜埋没場設置願書ニハ地種、地目、段別、字、地所番號、町村名、持主等ヲ記載シ其地ノ略圖ヲ添へ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 既ニ許可ヲ與ヘタル場所ト雖モ公益上障害アルコトヲ認ムルニ至ラハ廢場ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 共同死畜埋没場ヲ設クルハ人家、公道、及人畜飲料水ヲ距ル六十間以上ノ地タルヘシ
- 第八條 共同死畜埋没場ニハ生牆其他適宜ノ圍ヲ設ケ且ツ左ノ雛形ニ倣ヒ標木ヲ建設スヘシ

某町村共同死畜埋没場



明治何年何月何日許可

- 第九條 皮、肉、骨類等ヲ運搬スルニハ藁包或ハ叭等ニ入レ其露出セサル様取扱フヘシ
- 第十條 死後検査前又ハ埋没後或ハ肥料用ニ充テタル肉ヲ食用ニ供シ又ハ食用ノ目的ヲ以テ他人ニ給與若クハ販賣スルコトヲ得ス
- 第十一條 第二條第三條第四條第九條第十條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ
- 附則
- 第十二條 此規則ハ明治二十五年十一月二十日ヨリ施行ス

(四七二)

第十三條 共同死畜埋沒場ノ設置願ハ明治二十五年十一月三十日迄ニ許可ヲ受クヘシ
第十四條 共同死畜埋沒場許以前死畜アリタルトキハ習慣アル場所ニ埋沒スルコトヲ得
(別紙書式)

檢案書

畜主 住所 氏 名

- 一 死畜種類 (牛、馬、羊、豚、内外國種、雜種、毛色、年齡、牝牡ノ別等)
- 一 病 名 (變死ナラハ病名ヲ省キ岸落又ハ壓死等ノ別ヲ明記スヘシ)
- 一 死亡年月日
- 一 食用又ハ肥料用、害ノ有無
- 一 檢案ノ實況

明治 年 月 日

獸醫 何 某 印

第八章 醫師及治療

第一欸 醫師免許規則

○布告第三十五號

十六年十月廿三日

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年(二月)第四號布達同年(八月)第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

(五七二)

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツル
トキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ントコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審查シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

第二款 入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

○務内甲第七號 十八年三月二十三日

府 縣

入齒々抜口中療治接骨等營業ノ者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試験ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當ノ取締法相立可申此旨布達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

○本縣甲第十七號 十九年三月廿七日

入齒々抜療治接骨等ノ儀ハ明治十六年太政官第三十四號布達ニ據リ醫術開業試験ヲ經ルニ非レハ新規開業相成ラス

○本縣甲第十八號 十九年三月廿七日

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則別紙ノ相定メ候條從來該營業ノ者ハ來ル五月三十一日迄ニ修學履歷書並師家又ハ醫師ノ保證書ヲ添ヘ鑑札下渡方願出ヘシ

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

- 第一條 入齒々抜口中療治接骨ハ從來營業ノ者ニシテ免許鑑札ヲ所持スル者ニ限ルヘシ
- 第二條 内服藥ヲ投與若クハ藥方ヲ指示スヘカラス但外用藥ト雖モ毒劇藥ハ使用スヘカラス
- 第三條 營業ノ爲メ外出スルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第四條 鑑札ハ賣買貸借讓與スルヲ許サス
- 第五條 鑑札ヲ遺失毀損シ其他事故ニ據リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ鑑札下付又ハ書換ヲ願出シ

- 第六條 廢業又ハ死亡ノ節十日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第七條 管内甲ノ郡ヨリ乙ノ郡ニ轉籍寄留シテ營業セントスルトキハ甲ノ郡役所ヘ其旨届置乙ノ郡役所ヲ經テ鑑札書換ヲ願出ヘシ
- 第八條 他府縣ヘ轉籍寄留營業セントスルキハ其國郡町村名ヲ詳記シ鑑札返納添書願出ヘシ
- 第九條 他府縣ニ於テ營業免許ノ者本縣内ヲ通行營業スル者ハ免許鑑札寫相添ヘ其地所轄ノ警察署又ハ分署ヘ届出認許ヲ得タル後ニアラサレハ施術スヘカラス
- 第十條 他府縣ニ於テ從來營業ノモノニシテ本縣内ヘ轉籍寄留營業セントスルキハ其府縣ノ添書ヲ附シ鑑札ヲ願受クヘシ
- 第十一條 此規則第一條第二條第四條第十條ニ違背シタル者及ヒ第三條第九條ニ違背シ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第二款 鍼術灸治取締規則

○務内甲第十號 十八年三月廿五日

府 縣

鍼灸術營業者ノ義ハ從來開業ノ者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方ノ儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

○本縣甲第十九號 十九年三月廿七日

鍼術灸治取締規則別紙ノ通改正ス
但明治十三年(十二月)甲第百廿五號明治十七年三月甲第十二號布達ハ廢止ス
右布達候事

鍼術灸治取締規則 (廿三年四月縣令甲第三十七號ニテ第二條中削除第十八條改正)

(八七二)

- 第一條 鍼術灸治營業者ハ丁年以上ノ者ニシテ免許鑑札ヲ所持スル者ニ限ルヘシ
- 第二條 新ニ營業セント欲スル者ハ修業履歷書ニ師家並最寄醫師二名以上ノ保證書ヲ添ヘ鑑札ヲ願受ヘシ
- 第三條 醫師治療中ノ病者ニ對シテハ該醫ノ承諾ヲ受ルニアラサレハ施術スヘカラス
- 第四條 藥劑ヲ投與シ若クハ藥方ヲ指示スヘカラス
- 第五條 營業ノ爲外出スルトキハ必ス鑑札ヲ携帶スヘシ
- 第六條 鑑札ハ賈買貸借讓與スルヲ許サス
- 第七條 鑑札ヲ遺失毀損シ其他事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルキハ其事由ヲ詳記シ鑑札下附又ハ書換ヲ願出可シ
- 第八條 廢業又ハ死亡ノ節ハ十日以内ニ鑑札ヲ返納ス可シ
- 第九條 管内甲ノ郡ヨリ乙ノ郡ニ轉籍寄留シテ營業セントスルキハ甲ノ郡役所ヘ此旨届置乙ノ郡役所ヲ經テ鑑札書換ヲ願出可シ
- 第十條 他府縣ニ轉籍寄留營業セントスルキハ其國郡町村名ヲ詳記シ鑑札返納添書願出可シ
- 第十一條 他府縣ニ於テ營業免許ノ者本縣内ヲ通行營業スルモノハ免許鑑札寫相添エ其地所轄ノ警察署又ハ分署ニ届出認許ヲ得タル後ニアラサレハ施術ス可カラス
- 第十二條 他府縣ニ於テ從來營業ノモノニシテ管内ヘ轉籍寄留營業セントスルトキハ其府縣ノ添書ヲ附シ鑑札ヲ願受ク可シ
- 第十三條 此規則第二條第三條第四條第六條第十二條ニ違背シタル者及第五條第十一條ニ違背シ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ刑法第四百二十六條四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處セララルヘシ(廿三年縣令三十八號ニテ第十三條改正)

第四款 醫師及治療ニ關スル雜件

○警調發第一〇六號 十八年六月廿六日警保局長通知
 醫業ニ關スル犯罪者處分之儀ニ付別紙ノ通司法省ヨリ大審院及裁判所ヘ内達相成候條此段爲御心得及御通知候也

大審院、裁判所

從來官許ヲ得タル開業醫中ニハ内外科ヲ區別シテ專門ノ免狀ヲ付與セシ盟モ有之候處右ハ必スシモ其免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ許サザルノ旨趣ニ無之依テ齒科整骨科ヲ除クノ外内外科眼産科等ノ專門免狀ヲ有スル開業醫ニシテ普通ノ治療ヲ施スモ刑法第二百五拾六條ニ照シテ處罰ス可キモノニアラス爲心得此旨相達候事

檢事局

○司法省刑甲第七〇號 廿七年四月廿三日
 開業醫ニシテ專門ノ免狀ヲ有スル者(齒科整骨科ヲ除ク)免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ施スモ刑法第二百五十六條ニ照シテ處斷スヘキモノニアラサル儀ニ付テハ明治十八年當省第二七三四號ヲ以テ相達置候次第モ有之候處近來免狀ニ記載シタル科目外ノ治療ヲ施シタル者ヲ有罪ト認メ處分スル者有之趣ニ付右達ノ旨趣ニ背カサル様一層注意スヘシ
 右訓令ス

第五款 獸醫免許規則

○法律第七十六號 廿三年八月廿七日

獸醫免許規則

- 第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 獸醫免許試驗ニ合格シ其證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

(九七二)

- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ハ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ヲ書換フ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第十條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解除クコトアルヘシ
- 禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ
- 第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十九

五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

第六款 蹄鐵工免許規則

○法律第三十一號 廿三年四月三日

蹄鐵工免許規則

- 第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 蹄鐵工免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 蹄鐵工免許試驗ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者

- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク
 - 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
 - 第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
 - 第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ二十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
 - 第六條 蹄鐵工免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
 - 第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
 - 第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス
 - 第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 第十一條 蹄鐵工免狀試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 附則
- 第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
 - 第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼ネント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第五編 風俗

第一章 富籤及乞丐浮浪

第一款 富籤禁制

○布告 元年十二月廿三日

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々是カ爲メニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

第二款 富籤賣買ノ牙保幫助者及富籤購買處分法

○布告第二十五號 十五年五月廿四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購賣シタル者處分法左ノ通制定ス

- 第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下

(四八二)

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス
自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

第二款 乞丐浮浪

○縣甲第八十六號 八年九月七日

脱籍無産之輩復籍之儀ニ付テハ御維新以來退々厚キ被仰出之趣モ有之壬申五月十九日當廳ヨリ及布達候旨モ有之候處猶ホ前ニ於テハ米錢等投與目前之小惠ヲ施シ候者有之ヨリ于今乞食體之者所々徘徊致シ候趣相聞ヘ不相濟事ニ候尤現今ニ至リ假令乞食體之者ト雖モ無籍之者ハ無之筈ニ付自今右體之者見當リ候ハ、區戸長ニ於テ懇ニ説諭ヲ加ヘ速ニ原籍ヘ復歸爲致取締向屹度注意可致此旨更ニ布達候事

附若シ無籍ニ候ヘハ當管内之者ハ其區ニ戸長ヘ附狀ヲ以復歸セシメ原籍區戸長ヨリ復籍之儀可願出他管下之者ハ其所ニ留置生國郡村父母兄弟親屬之名前ハ勿論當人年齢且情願之次第等詳細取調可伺出事

○縣本第三百八十九號

十三年九月十四日

警察本署 警察分署

近來乞食體ノモノ各所徘徊致候趣相聞候條若シ右等ノ者見當リ候ハ、篤ト取糺原籍アルモノハ説諭ノ上歸國セシメ無籍ノモノハ其他ノ戸長ニ引渡スヘシ此旨相達候事

第二章 祭典葬儀

第一款 神佛祭禮開扉等ノ節敬禮ノ件

○教部第二十六號達 六年七月

神佛祭禮開扉等ノ節兼テ信仰ノ者ハ夫々敬禮ヲ盡シ參拜可致筈ノ處從來ノ弊風ニ泥ミ打扮或ハ男女姿粧ヲ易ヘ候等ノ義有之趣醜體ヲ極メ候ノミナラス却テ神佛ヲ褻瀆シ以ノ外ノ儀ニ付以來右様ノ儀無之尊崇本意ヲ體シ候様可致事

第二款 諸神社祭禮ノ節取締方ノ件

○教部第廿九號 六年九月

諸神社祭禮神輿渡御之節往々祭儀ニ托シ粗暴ノ所業有之或ハ途中ノ人家ニ觸レ或ハ往來ノ妨害ヲ爲ス等許多ノ弊害不少趣相聞不都合ノ至ニ候條向後取締方精々注意シ粗暴ノ所業無之様可致此旨布達候事

第三款 教導職廢止ノ爲メ自葬ノ禁解スルヤニ關スル件

○內務第二百五二號 十七年十月廿五日

今般教導職被廢候ニ付テハ明治五年六月第九拾貳號布告中葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ依頼スヘキ旨記載アルモ該布告タル違式違令ノ廢止セラレタル以上ハ全ク制限ヲ備ヘサルノ法律ナルヲ以テ自葬之禁ハ自然解除ニ屬シタルモノト内定相成タル趣ニ付爲念及内報置候也
教導職ノ廢止ニヨリ自葬之禁自ラ解除候ヤ否ヤノ儀ニ付內務卿伺 十七年九月廿七日

(五八二)

今般第十九號布達ヲ以テ教導職被廢候ニ付テハ明治五年六月第九十二號布告中葬儀ハ神官僧侶ノ内ニ依頼スヘキ旨記載有之候得共該布告タル違式違令ノ廢止セラレタル以上ハ全ク制裁ヲ備ヘサルノ法律ニ有之旁以テ自葬之禁ハ自然解除ニ屬シ候義ト相心得可然哉此段相伺候也
指令 十七年月日 太政官

第三章 演劇并諸遊藝

第一款 諸興行取締規則

○部第十五號達

五年八月

能狂言ヲ始メ音曲歌舞ノ類ハ人心風俗ニ關係スル處不少候ニ付左ノ通各管内營業ノ者ヘ可相違事
一能狂言以下演劇ノ類御歷代ノ皇上ヲ摸擬シ上ヲ褻瀆シ奉リ候體ノ儀無之様厚注意可致事
一演劇ノ類專ラ勸善懲惡ヲ主トスヘシ淫風醜體ノ甚シキニ流レ風俗ヲ敗リ候様ニテハ不相濟候間弊習ヲ洗除シ漸々風化ノ一助ニ相成候様可心掛事
一演劇其他右ニ類スル遊藝ヲ以テ渡世致シ候ヲ制外者杯ト相唱ヘ候從來ノ弊風有之不可然儀ニ候條自今ハ身分相應ノ行儀相慎ミ營業可致事

○縣甲第二號

二十年一月十四日

諸興行取締規則別冊ノ通改定明治二十年二月一日ヨリ施行ス但劇場寄席等從前ノ建築ニシテ此規則ニ牴觸スルモノハ明治二十年三月三十一日限改造スヘシ

諸興行取締規則

第一章 劇場

第一條 劇場ヲ新築シ又ハ改造セントスルハ第一號書式ニ據リ圖面及ヒ四隣ノ承認書(借地ナレハ地主連署)ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ヘ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 前條新築又ハ改造ノ免許ヲ受ケタルハ其願書寫ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ其建築落成シタルハ同署ノ検査ヲ受ケ認可ヲ得ルノ後ニアラサレハ興行ヲ爲スヲ得ス

第三條 劇場ヲ廢シ若クハ賣買讓與シタル者ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ヘ届出ツヘシ

第四條 劇場ノ建築構造ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 一 柱礎棟梁鞏固ニシ壞倒ノ憂ナカラシムル
- 二 棧敷ハ一坪毎ニ區畫ヲ設ケ且高棧敷ハ床柱ヲ堅牢ニシ四尺ヨリ狭マカラサル階梯ヲ二ヶ所ニ設クル
- 三 非常急變ノ際衆人ノ退去ニ便ナル爲メ通常出入口ノ外ニヶ所以上ノ非常口ヲ設クル
- 四 各所ニ窓牖ヲ穿テ空氣ノ流通ヲ便ニスル
- 五 樂屋ハ他ヨリ見透シナラサル様構造スル
- 六 便所ハ清潔ニシテ場席ト離隔シ臭氣ノ流通セサル様設クル

第五條 演劇(添ヘ)其他興行ヲ爲サントスル者ハ第二號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ但一時小屋掛又ハ借家等ニ於テ興行スルハ四隣家主ノ承認書ヲ添フヘシ
劇場ニ於テ演劇又ハ普通ノ興行ヲ爲スニ非スシテ多衆集會セントスルトキハ何等ノ名義ナルニ拘ハラス豫メ其目的方法等ヲ詳記シ發起人家主連署ノ上所轄警察官署ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六條 演劇中改題セントスルハ其藝題書ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ差出シ認可ヲ受クヘシ
寄席ニ於ケルモ亦同シ(廿五年縣令第五十號ヲ以テ第十五條第七條第十四條中ニ一項ヲ追加ス)

第七條 興行ニ關スル一切ノ事ハ願主其責ニ任スヘシ
興行ノ事項ニ關シ警察官吏ヨリ尋問スルトキハ何事タリトモ答辯シ又ハ筋書ヲ差出スヘシ

第八條 定リタル劇場ノ設ケアル土地ニ於テハ小屋掛又ハ借家ヲ以テ演劇興行スルヲ得ス但神佛祭典等其日數間興行スルモノハ此限ニアラス(廿三年縣令甲第二十五號ヲ以テ改正)

第九條 凡テ興行ハ午後十二時ヲ過クヘカラス

第十條 木戸錢席料總テ出入口見易キ所ニ揭示ス可シ
第十一條 便所ハ勿論場内ハ清潔ニ掃除ス可シ(明治二十三年縣令甲)
第十二條 劇場内便宜ノ處ニ警察官吏ノ出張席ヲ設ク可シ
第十三條 興行ノ所作猥褻ニ涉リ又ハ治安ニ妨害アリト認ムルハ監臨警察官吏ニ於テ其興行ヲ停止スルコトアル可シ

第二章 寄席

第十四條 寄席ヲ新築又ハ改造セントスルハ第一號書式ニ據リ圖面及ヒ四隣家主ノ承認書借地
地主ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ニ願出免許ヲ受クヘシ
但寄席興行ハ左ノ項目ニ限ル

淨瑠璃 三味線 操人形 軍談 祭文 落語 話物真似 影繪 手品遣等ノ類

第十五條 前條新築又ハ改造ノ免許ヲ受ケタルハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出其落成シタルハ

同署ノ検査ヲ受ケ認可ヲ得ルノ後ニアラサレハ興行スルヲ得ス(廿三年縣令甲第廿)

第十六條 寄席ヲ廢シ若クハ賣買讓與シタル者ハ所轄警察署又ハ分署及ヒ町村役所ヘ届出ツ可シ

第十七條 寄席構造ハ第一章第四條ノ各項第二項第三項ヲ除クヲ標準ナリトス可シ

第十八條 寄席興行ヲ爲サントスル者ハ第二號書式ニ據リ興行前日所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツ

可シ(廿四年五月縣令第廿)
(五號ヲ以テ但書別除)

第十九條 本則第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ハ寄席營業者ニモ之ヲ適用

ス

第二十條 本則第一條第二條第三條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第

十五條第十六條第十八條第十九條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十八條第五項ニ依リ一日ノ拘

留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ(明治廿三年縣令甲第)
(二十五號ヲ以テ改正)

第一號書式

劇場(寄席)新設(改造)願

大分縣何郡何町何番地身分

(他ヨリ寄留ノ者ハ本籍ヲモ記ス可シ)氏名(數名ナルトハ外)
(何人ト記スヘシ)

一劇場(寄席)

但何郡何町何番地(借地ナレハ何某所)反別何畝歩

右ハ今般新設(改造)仕度候條御許可被成下度即チ別紙圖面並構造仕法書及四隣家主ノ承認書相

添此毀奉願候也

年月日

願主 氏 名 印(數名ナルトハ)

地主 氏 名 印(連署スヘシ)

氏 名 印(借地ニアラサレ)

氏 名 印(ハ記名ヲ要セス)

戸長 氏 名 印

前書通相違無之候也

年月日

氏 名 印

第二號書式

演劇(講談)淨瑠璃(興行願)届

何縣何郡何町何番地身分

(他ヨリ寄留ノ者ナレハ本籍ヲモ記スヘシ)氏名(數名ナルトハ外)
(何人ト記スヘシ)

一演劇(講談)淨瑠璃

一場所何郡何町何番地(借地ナレハ何某所)反別何畝歩

一木戸錢 一人何程(無錢)

(〇九二)

一棧敷料

一人又ハ一坪何程(無錢)

右ハ何月何日ヨリ晴天〔晴雨ニ拘ハラス〕何日間興行仕度候條御許可被成下度即チ劇場〔寄席〕持主〔假小屋設地主借宅アレハ連署〔假小屋設置又ハ借宅ノキハ〕此段奉願〔御届申上〕候也家主連署スヘシ〕願主

年月日

願主

氏名印〔數名ナルキハ〕

劇場(寄席)持主〔又ハ假小屋ノ地主〕氏名印

警察署長(分署)長宛
前書之通相違無之候也

戸長

氏名印

第二欸 劇場出張巡査心得

〇本諸署第七〇五號

十九年五月二十日

直入郡竹田町小野庄平外一名ヨリ定舞臺ヲ以テ定席ニ兼用致度旨出願之處聽届ケラレタリ右爲心得及達候也

〇本本第百八十一號

十三年七月六日

警察分署署

劇場出張巡査心得別紙之通相定候條此旨相達候事

〔別紙〕

劇場出張巡査心得

第一條 劇場出張之巡査ハ場中之噪闘及ヒ偷盜火災其他總テ看客之安全ヲ保護スルニ注意ス可シ

第二條 演劇中左ノケ條ニ觸ル、所作ト認ムルキハ其次第ヲ警部署長心得以下同シニ具申指揮ヲ請

フモノトス然レモ其所作最モ甚ク差置キ難キハ請元又ハ重立タルモノニ命シ臨時其所作ヲ止メシムルコアルヘシ但シ此場合ニ於テハ輕忽ノ處置之レナキ様精々注意スヘシ

第一 御歴代之御事蹟ヲ摸擬シ皇徳ヲ褒演シ奉ル事

第二 淫猥之甚シキ風俗ヲ敗壞スル事

第三 忠孝貞節等之倫理ヲ顛倒シ正ヲ邪トシ惡ヲ良トスル等勸善懲惡之旨意ヲ失スル事

第四條 劇場内ハ温熱凝結セサル様窓戸之開閉ニ注意シ且時々巡視シ不潔之所アルキハ請元ニ指

揮シ清潔ニ掃除セシム可シ

第五條 藝人ノ休息所ヲ巡視シ看客猥リニ該休息所ニ出入スルヲ制スヘシ

第六條 看客ノ散スルキハ雜沓ヲ制シ怪我等無ラシムル様注意スヘシ

第七條 詰所ニ於テ猥リニ談話スヘカラス

第八條 看客ノ散セシ後遺失物アラハ本法ヲ盡請元ニ命シ翌日看客ノ見易キ所ニ揭示セシムヘシ

第九條 劇場内賭博ニ注意シ及人相書ヲ以テ達アル犯罪人ト思量スルモノアルキハ注目シテ其舉

動ヲ察スヘシ

第十條 夜分ハ午後十二時限リ閉場セシムヘシ

第二欸 諸遊藝人取締規則

〇本縣甲第二十八號

十六年七月十六日

諸遊藝人取締規則左之通相定候條此旨布達候事

第一條 諸遊藝人取締規則〔廿三年縣令第三十一號ニテ七條ヲ削除シ八條ヲ更正ス〕

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 行司 俳優

(一九二)

第二條 前條ノ業ヲ營マント欲スルモノハ身元引受人相立別紙願書式ニ準シ所管警察署又ハ分署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ但本縣在籍ノ戶主ニ非サレハ身元引受人トナスコトヲ得ス

第三條 鑑札ハ常ニ携帯ス可シ但何人ニ限ラズ鑑札ヲ見ンコトヲ需ムルハ速ニ之ヲ示スヘシ

第四條 鑑札ハ轉籍寄留改名等ニテ異動ヲ生スルカ或ハ水火盜難其他ノ事故ニ依リ毀失スルハ其事由ヲ詳記シ第二條ノ手續ニ準シ更ニ願受可シ

第五條 鑑札ハ買賣讓與貸借ヲ許サズ

第六條 廢業或ハ府縣へ轉籍寄留スル時ハ町村役所ヲ經テ所管警察署又ハ分署へ鑑札ヲ返納ス可シ

第八條 本則第二條第三條第四條第五條第六條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(書式)

何々營業鑑札御下渡願

大分縣何郡何町何番地士族 平民

(他府縣ヨリ寄留スルモノハ左ノ如ク認ム)

何縣何郡何村何番地士族 平民

當時大分縣何郡何村何番地寄留

何 誰

藝名 某 年 齡

右ハ何々營業仕度候ニ付鑑札御下渡被下度身元引受人相立此段奉願候尤他出其他差支筋有之節ハ營業上ニ係ル事故一切引受人ニ於テ御用辨可仕候也

右

年 月 日

何 誰 印

大分縣何郡何村何番地士族 平民

身元引受人 何 誰 印

何警察署又ハ分署

御 中

前書之通願出候間與印候也

右戶長

何 誰 印

年 月 日

○本縣本課第三十六號 十六年七月十七日 警察本署 署 分署

今般甲第二十八號ヲ以諸遊藝人取締規則布達候ニ付テハ右規則取扱方心得左ノ通相定候條此旨相達候事

一規則第一條項目ニ對スル臺帳ヲ調製シ第一號雛形ニ準ヒ鑑札ノ出入其他ノ事故ヲ記載スヘシ

一規則第二條ノ出願アリタルハ臺帳ニ登記シ第二號雛形ニ準ヒ鑑札ヲ製シ臺帳ト同一ノ番號ヲ記シ割印ノ上付與スヘシ

一願書ハ二通ヲ出サセ左ノ例ニ依リ指令取計ヘシ

書面閉届鑑札付與候事但所管郡役所エ届出ノ上營業スヘシ

一鑑札用紙ハ警察本署ヨリ受取ルヘシ

一營業ヲ停止シタル時ハ受書ヲ徵シ其限内鑑札ヲ預リ置クヘシ

一規則第一條項目中遊藝稼人トハ左ノ如シ

淨瑠璃 三味線 操人形 歌舞 輕業 足藝 音曲 囃子方 曲馬 軍談 祭文 落語 話物

眞似 影繪 手品遣 力持 獨樂廻 鳥獸遣 萬歲 獅子舞 視眼鏡

第壹號臺帳

雜形

第何號

何郡何町何番地身分

一何々業 何ノ誰

右何年何月日鑑札下付何年何月日鑑札何々書換何年何月日何々ヲ科料金若干何年何月日廢業鑑札返納等ノ類

師稼相撲行俳

第二號 鑑札雜形(八品商鑑札用紙ニ同シ)

表

第何號

何々營業鑑札

大分縣何郡何町何番地身分

何ノ誰

藝名アルモノハ

藝名某

裏

年 月 日

何 警 察 署

又 分 署

署 印

第四款 諸興行取締ニ關スル雜件

○保第七七號

廿二年十二月十四日

明治二十一年一月縣令第二號諸興行取締規則第六條演劇改題屆認可之件ハ便宜駐在巡查ニ委任スルコトヲ得ル

○速第三四〇八號

速見郡警察署長質議

能狂言師ハ雜種稅科目中遊藝稼人ノ部類ニ明文無之ヲ以テ從來遊藝人ノ鑑札ヲ受ケズシテ能又ハ狂言ヲ致シ來リシモノナラン又興行ニテ木戸錢ヲ請求シタルコトヲモ聞及ハサル處此度木戸錢ヲ取リ興行致度トノ事ニ有之然ルモハ定席若クハ小屋掛等ヲナシ木戸錢ヲ取リ能狂言ヲ興行ナスルハ雜種稅科目中ノ興行稅ヲ收ムル迄ニテ能狂言師ノ目ハ該稅科目ニ無之ニ付別ニ遊藝稼等ノ鑑札ハ願受クルニ及ハストハ思考致候得共爲念及質議候差掛タル義モ有之候條至急何分ノ御指示有之度候也

警第一三五三號

廿一年十月一日

書面質議ノ趣見解之通

○保第九一號

廿二年十一月二十一日

近來神佛祭典等ノ際觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ噬嚙シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スル者有之右等ノ所業ハ風俗上最モ可厭モノニ付同様ノ技ヲ演セントスル者有之節ハ嚴ニ制禁セララルヘシ

○保第七一九號

廿三年十一月廿日

諸興行場臨監ニ派遣スル警察官吏ヲシテ時宜ニヨリ興行稅完納濟ナルヤ否ヲ注意セシメラルヘシ

諸營業検査ヲ爲ストキ亦々全シ
○保發第一三二號 廿七年五月三十日
劇場又ハ寄席等新設ノ願書ヲ受ケタル時ハ所轄郡長ノ意見ヲ問ヒ具申書ニ其ノ要領ヲ記シ進達セラルヘシ
右訓示ス

第四章 藝娼妓貸座敷

第一款 藝妓取締規則(廿四年六月縣令第三十號ニテ第一條 第四條ノ當廳ヲ所轄警察官署ト改ム)

○本縣甲第二十九號 二十三年三月三十一日

藝妓取締規則

- 第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ願書面ニ父又ハ母(父母ナケレハ丁年以上最近ノ親族親族ナキ者ハ保證人二名)連署藝名ヲ記シ町村長ノ保證シタル戶籍寫ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 鑑札ヲ毀損遺失シ又ハ轉居其他ノ事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札下付若クハ書換ヲ願出スヘシ
- 第三條 鑑札ハ貸借讓與賣買スルコトヲ許サス
- 第四條 廢業セントスルモノハ屆書ヘ鑑札相添ヘ所轄警察官署ヘ差出スヘシ
- 第五條 (削除)
- 第六條 客席ニ出ツルトキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第七條 料理屋飲食店宿屋船間屋等ニ全居又ハ寄留スルヲ許サス但シ家族ハ此限ニアラス
- 第八條 藝妓ハ警察官署ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設ケ業体ニ關スル一切ノ事項ヲ規約シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ(廿五年縣令第四十九號ヲ以テ本條追加)
- 第九條 此規則ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

料ニ處ス

第二款 貸座敷娼妓取締規則

○本縣令甲第貳拾九號

廿五年四月廿七日

明治十八年四月甲第十四號布達貸座敷及娼妓取締規則左ノ通改正シ明治廿五年五月一日ヨリ施行ス

貸座敷娼妓取締規則

第一章 貸座敷

- 第一條 貸座敷營業ハ左ノ町村市街地ニシテ別ニ指定スル區域ニ限ル
 - 豐後國速見郡別府村 別府港
 - 全國全郡濱脇村 市街
 - 全國大分郡西大分町大字生石 大分港
 - 全國北海部郡佐賀關町大字關 關港
 - 全國全郡下ノ江村大字下ノ江 下江港
- 第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢營業ヲ爲サントスル事由並家號又ハ樓名等ヲ詳記シタル願書ニ町村長ノ證明シタル戶籍寫並本則第三條ニ牴觸セサル證書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 但宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ許サス
- 第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ貸座敷營業ノ免許ヲ與ヘス但後見人ニシテ本條ニ觸ル、モノ亦全シ
 - 一 未丁年若クハ白痴瘋癲者ニシテ後見人ナキ者
 - 二 強窃盜監禁略取誘拐詐欺取財猥褻姦淫ノ罪ヲ犯シタル者
 - 三 公權剝奪又ハ停止中ノ者

(八九二)

第四條 貸坐敷營業者ニシテ第三條ノ條件ニ觸レタルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス
 第五條 免許鑑札盜難ニ罹リ又ハ毀損遺失シ或ハ事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札下付若クハ書換ヲ願出ヘシ
 營業ヲ廢シ又ハ第三條ノ條件ニ觸レタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
 免許鑑札ハ賣買貸借讓與ヲ許サス

第六條 (削除)

第七條 貸坐敷ノ免許ヲ受ケタル者ハ稼用ニ供スル建物ノ坪數間取等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ

第八條 客室ハ道路ヨリ見透サル様構造ヲ爲シ又空氣ヲ流通セシメ二階以上ノ客室十五坪以上ナルトキハ階子二個(一個ハ幅四尺以上タルヲ要ス)ヲ設ケ且便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石敲キ陶器等ヲ以テ構造シ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第九條 貸座敷營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ遊客名簿ヲ調製シ遊客發着毎ニ名簿ニ記載シ其夜限リ所管警察署分署又ハ巡查駐在所ヘ差出シ檢印ヲ受クヘシ警察官吏臨檢シタルトキハ之ヲ差出スニ及ハス但該名簿ハ三年間保存スヘシ

氏名	年 齡	職 業	族 籍	住 所	相貌ノ特徴 其他事故	遊興費金額	娼妓ノ氏名	到着月日 時刻	出發月日 時刻

第十條 貸坐敷營業者ハ店頭又ハ門戸ニ左ノ看板ヲ掲ケ夜間ハ樓名又ハ屋號ヲ記シタル點燈ヲ掲ケ點火スヘシ

二尺七寸

貸 坐 敷 營 業
 屋號又ハ樓名 氏 名

第十一條 娼妓ノ待遇ハ温和ヲ旨トスヘシ決シテ苛酷ノ取扱ヲ爲シ又ハ無用ノ失費ヲ爲サシムヘカラス

第十二條 娼妓ニシテ住所ヲ移轉シ若クハ廢業セントスルニ當リ正當ノ理由ナクシテ故障ヲ爲スヘカラス

第十三條 娼妓ニハ平素其稼ニ關スル規則ヲ示シ置キ若シ違背者アルトキハ警察官吏ニ申出ヘシ

第十四條 道路ヨリ見透スヘキ場所ニ於テ娼妓ニ見世ヲ張ラシムヘカラス

第十五條 如何ナル方法ヲ問ハス遊興ヲ勸メ又ハ客ノ需メサル酒食ヲ供スヘカラス

第十六條 遊興費ノ抵償トシテ客ノ衣類其他ノ物品ヲ私擅ニ差押エヘカラス止ヲ得サル場合ニ於テハ警察官吏ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

第十七條 娼妓ト契約セントスル條件ハ連署ノ上所轄警察署ニ届出ヘシ其契約ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十八條 遊客ノ舉動又ハ携帶品ニ不審ノ虞アルトキハ直ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第十九條 遊客中傳染病若クハ變死傷ニ罹リ又ハ其所有品盜難紛失シタルトキハ直ニ警察官吏ニ届出ヘシ

第二十條 雇人ヲ使用スルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ三日以内ニ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ其解雇シタルトキハ亦同シ

(九九二)

第二章 娼妓

第十九條 娼妓タラントスル者ハ驅微院ニ就キ微毒有無ノ検査ヲ受ケ其證書ヲ求メ族籍任所氏名年齡娼妓名並稼ヲ爲サントスルノ事田ヲ詳記シ父又ハ母(父母ナケレハ最近ノ親族ヤ)ト連署シタル願書ニ町村長ノ證明シタル戸籍寫並第二十條二項ニ抵觸セサル證書及ヒ貸座敷主ト契約アルモノハ其寫ヲ添ヘ本人自ラ所轄警察署ニ出頭免許鑑札ヲ受クヘシ但貸座敷主ト契約アルモノニシテ之ヲ變更シタルトキハ其都度届出スヘシ

第二十條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ娼妓稼ノ免許ヲ與ヘス

一 年齡十六年未滿ノ者

二 盜罪ヲ犯シタル者

三 微毒感染ノ兆候アル者

第二十一條 娼妓ニシテ第二十條第二項ニ觸レタル者ハ免許ノ効ヲ失フヘシ

第二十二條 娼妓ノ稼ハ貸座敷内ニ限ルモノトス

第二十三條 娼妓ハ貸座敷内ニ住居スヘシ但免許區域内ニ在籍シ又ハ全戸寄留スル者ハ此限ニアラズ

第二十四條 削除

第二十五條 娼妓ニシテ他ニ移轉セントスルキハ第十九條ノ手續ニ依リ願出テ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第二十六條 免許鑑札盜難ニ罹リ又ハ毀損遺失シ或ハ事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札下付若クハ書換ヲ願出ヘシ

第二十七條 娼妓ノ身体検査及微毒治療ニ關スル事項ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十八條 娼妓ニシテ藝妓營業ヲ爲サント欲スル者ハ其規則ニ依リ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十九條 娼妓稼中ハ免許鑑札及微毒検査證ヲ携帯スヘシ免許鑑札ハ賣買貸借讓與ヲ許サス

第三十條 娼妓傳染病ニ罹リ治療中又ハ妊娠滿六ヶ月以上分娩後滿二月以内ハ稼ヲ爲スヘカラス

第三十一條 娼妓ハ言語又ハ舉動ヲ以テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ遊客ニ對シ貪リケ間敷所爲アルヘカラス

第三十二條 遊客ノ舉動及携帶品等ニ不審ノ廉アルトキハ速ニ其貸座敷主ニ密告スヘシ

第三十三條 娼妓貸座敷免許地外ニ出ルトキハ其事由ヲ詳記シ所管警察署分署又ハ巡查駐在所ヘ届出ヘシ

第三十四條 娼妓ハ貸座敷免許地外ニ宿泊スルコトヲ許サス若シ已ムヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ詳記シ貸座敷主連署所管警察署又ハ分署ヘ願出テ允可ヲ請フヘシ

第三十五條 貸座敷主ニ於テ不信實苛酷等ノ取扱ヲナシ且無用ノ失費ヲ爲サシメ又ハ他ニ移轉若クハ廢業セントスルヲ正當ノ理由ナクシテ故障ヲ爲シタルトキハ警察官吏ニ申出ルコトヲ得

第三章 營業組合及雜則

第三十六條 貸座敷營業者ハ其許地毎ニ組合ヲ設クヘシ其組合ニ加入セサルモノハ營業ヲ爲スヲ許サス

第三十七條 組合ニハ頭取正副二名ヲ置クヘシ其頭取ハ組合ニ於テ之ヲ撰舉シ所管警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第三十八條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ貸座敷營業者ニ於テ負擔スヘシ

第三十九條 頭取ハ左ノ資格ニ適合スル者ニ限ル

一 滿二十五年以上ノ男子

二 營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ差支ナキ者

第四十條 頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 貸座敷並娼妓稼上ニ關スル願届等ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スルコト

二 貸座敷及娼妓ノ名簿ヲ調製シ増減變更アル毎ニ加除スルコト

- 三 組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スルコト
- 四 娼妓徵毒検査ニ關スル雜務
- 第四十一條 貸座敷ハ一區域毎ニ協議ノ上規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署へ届出テ認可ヲ受ケルコト
- 第四十二條 組合規約ニ掲クヘキ事項左ノ如シ
 - 一 組合ノ名稱及事務取扱所ノ位置
 - 二 頭取ノ撰舉及任期
 - 三 組合會議組織及費用ノ賦課收支ニ關スルコト
 - 四 娼妓揚代金及酒肴料等定額ニ關スルコト
 - 五 娼妓取扱手数料等ニ關スルコト
- 右ノ外稼上必要ノ事項
- 第四十三條 頭取ハ任期中ト雖モ不都合ノ所爲アリト認メタルトキハ警察官ニ於テ改換セシムルコトアルヘシ
- 第四十四條 雇人ノ所爲ト雖モ業体上ニ關スルコトハ雇主其責ヲ免ルコトヲ得ス
- 第四十五條 貸座敷及娼妓ニ在テ取締上ニ關シ所管警察署又ハ分署ヨリ命令スルコトハ遵守スヘシ
- 貸座敷並娼妓ノ賦金ハ別ニ定ムル規程ニ依リ納ムヘシ
- 第四十六條 貸座敷娼妓ノ願届書等ハ第三十五條ノ外頭取ノ加印ヲ要ス
- 第四章 罰則
- 第四十七條 本則第二條第九條第十一條第十三條第十四條第十九條第二十二條第二十五條第四十五條ニ違背シタル者ハ五日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四十八條 本則第五條第七條第八條第十條第十二條第十六條第十七條第十八條第二十六條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十六條第三十七條第四十一條

- ニ違背シタルモノハ一日以上四日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 第四十九條 本則第四十七條ニ依リ處刑ヲ受ケタル者ハ其情狀ニ依リ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 附則
- 一本則第七條第三十六條第四十一條ノ手續ハ明治廿五年六月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ
- 一本則第八條ニ抵觸スルモノハ明治二十五年十二月三十一日迄新造又ハ改造ヲ猶豫ス

第二款 娼妓徵毒検査規則並驅徵院規則

○内乙第百十五號達 九年四月五日

傳染病毒ノ最酷厲ナルモノハ徵毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ専ラ娼妓賣淫ニ起因スレハ豫防法ハ娼妓徵毒検査ノ外無之娼妓貸座敷差許候場所ハ必検査方法施設可致處其方法モ無之取締不十分ノ向モ不尠哉之趣右ハ衛生上最緊要ノ事ニ付篤ク注意致シ速ニ方法施設取締行届候様可致此旨相違候事

但從來施行致居未タ不行届分並ニ自今施設致候分共方法取調當省へ可申出事

○本縣衛梅第九號達 十八年五月十五日

娼妓徵毒検査規則並驅徵院規則別冊ノ通改正候條爲心得此旨相違候事

娼妓徵毒検査規則

- 第一條 貸座敷稼業免許地ニハ徵毒検査所ヲ設ケ毎月三回娼妓ノ徵毒有無ヲ検査スヘシ
- 第二條 検査定日左ノ如シ

大分郡大分港	毎月廿四日	十四日	但十二月廿二日	十二日
速見郡別府港	毎月廿五日	十五日	但十二月廿三日	十三日
速見郡別府港	毎月廿七日	十七日	但十二月廿五日	十五日
北海郡關港	毎月廿七日	十七日	但十二月廿五日	十五日

全郡下ノ江港 毎月八日 十八日 但十二月ハ廿六日 十六日

第三條 検査ハ醫師二人ヲ以テ之ニ充ツ但介者トシテ婦人一人備入ル可シ且小使一人便宜使役スルヲ得

第四條 検査ハ必ス醫師二人共ニ施行シ雜務ハ戸長之ヲ處辨スヘシ

第五條 娼妓ニハ豫メ族籍姓名年齢住所等ヲ記シタル検査札ヲ付與シ検査時ニ之ヲ持參セシムルモノトス但検査札ニハ本人及ヒ身元引受人必ス捺印スヘシ

第六條 娼妓ハ検査當日午前第九時三十分濱臨ハ午後一時迄ニ検査場ニ出頭スヘシ戸長ハ出頭順序ニ隨ヒ番號札ヲ付與シ検査ヲ受ケシム可シ

第七條 検査ノ後微毒ナキ者ハ検査札ニ其當日ヲ記シ無毒印及ヒ検査醫師ノ檢印ヲ捺シ之ヲ本人ニ下付シ有毒者ハ検査札ニ其當日ヲ記シ有毒入院ノ印ト検査醫師ノ檢印ヲ捺シ之ヲ本人ニ下付シ驅微病院ニ入レ治療セシムルモノトス

第八條 驅微病院ニ入ルヘキ者ハ検査札ヲ携帶シ検査ノ翌日迄ニ入院スヘシ

第九條 検査室ニハ検査醫師及ヒ介者ノ外一切出入スヘカラス但衛生官吏ハ臨監スルヲアルヘシ

第十條 娼妓疾病事故等ニテ検査時ニ出頭ナシ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ寄留主若クハ身元引受人連署シ疾病ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ノ證印ヲ受ケ検査場ヘ届出ヘシ但疾病等ニテ出頭ナシ難キモノハ該家ニ就キ検査スルヲアルヘシ

第十一條 娼妓検査期日內微毒ニ感スルヲ覺知スル時ハ醫師ノ診斷書ヲ受ケ入院ヲ請フヘシ

第十二條 検査醫師ハ検査ノ都度其員數并有毒者ノ姓名病名ヲ記シタル届書ニ微毒患者表ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ

第十三條 貸座敷頭取ハ検査場ニ出頭シ衛生委員検査醫師ノ指揮ヲ受ケ娼妓ノ取締ヲナスヘシ

驅微院規則

第一條 本院ハ娼妓ノ癩毒ヲ治療スル所トス

第二條 患者ハ此規則ヲ遵守シ掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第三條 患者ノ藥價及ヒ治療ニ屬スル費用ハ本院ヨリ支辨スヘシ食費ハ自辨トス

但本人ニ於テ若シ食費ヲ辨スル能ハサル時ハ寄留主身元引受人ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第四條 患者ハ外出スヘカラス尤容体ニヨリ散歩セシムルヲアルヘシ但事實不得止要用アルハ其旨掛員ニ申出許可ヲ受クヘシ

第五條 掛員及ヒ看病人ノ外一切出入スヘカラス但親戚朋友等事實不得止要用アリ面接セントスル者アルハ掛員ニ申出許可ヲ受クヘシ

第六條 患者ハ醫師ノ許可ヲ得ス嗜好ニ隨ヒ飲食シ及ヒ他ノ藥品ヲ服用スヘカラス但親戚朋友等ヨリ飲食物ヲ饋ル者アルハ醫師ニ申出許可ヲ受クヘシ

第七條 室内ニ於テ飲酒會食放歌跳舞等總テ亂雜ノ所行ヲナスヘカラス

第八條 食費ハ毎月末日之ヲ納ムヘシ

但納期內退院スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第四款 貸座敷及娼妓賦金賦課徵收規則

○縣令甲第三十號 廿五年四月廿七日

貸座敷及娼妓賦金賦課徵收規則別紙ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ施行ス

賦金賦課徵收規則

第一條 貸座敷及娼妓ハ賦金トシテ左ノ金額ヲ納ムヘシ

貸座敷 一ヶ月 金二圓五十錢 娼妓 一ヶ月 金一圓五十錢

第二條 娼妓ニシラ左ノ各項ニ該當シ全月休業シタルモノハ其月分ノ賦金ヲ免除ス

一 免許地外ニ於テ父母病氣看護中者ノ 二 自身微毒ニ罹リ治療中ノ者

(六〇三)

三 貸座敷娼妓取締規則ニ依リ停業中ノ者
 前項ニ該當スルモノハ醫師及ヒ町村長ノ證明ヲ受ケ郡長ニ届出ツヘシ
 第三條 賦金ハ毎月五日限り其月分ヲ前收ス但徴收後新規開業又ハ第二條ノ休業者ニシテ復業シタルトキハ其時々之ヲ徴收ス
 前項徴收後廢業又ハ休業スルモ既納ノ賦金ハ下戻サ、ルモノトス
 第四條 賦金徴收ノ手續ハ本縣會計規則ニ規定シタル收入ノ手續ニ準據スヘシ
 第五條 徴收期日ヲ過キ賦金ヲ納付セサルモノアルトキハ町村長ハ第一號書式ニ依リ督促令狀ヲ發スベシ但督促令狀ヲ發シタルキハ手数料トシテ金三錢ヲ徴收シ其手数料ハ町村費ニ收入スヘシ
 第六條 滞納者督促令狀ヲ受ケ五日内ニ賦金ヲ納付セサルトキハ町村長ハ第二號書式ニ依リ其住所業名氏名滞納金額ヲ郡長ニ報告シ郡長ハ之ヲ所轄警察署又ハ分署へ通報スヘシ

賦金滞納人名報告表

滞納金額	住所	業名	姓名
------	----	----	----

(號一第)
 督促令狀
 何町(村) 某
 何月分 何
 一金
 一金三錢
 右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ納付スヘシ若此期限ヲ過クルトキハ成規ニ依リ處分セラレヘシ
 年月日 何町村長氏名印

(號二第)

何程	字番地	貸座敷敷	何ノ誰
、	何某方寄留地	娼妓	何ノ誰

右及報告候也
年月日

郡長宛

何町村長氏名印

第五款 貸座敷娼妓取締規則取扱手續

○保登第二九九號

廿七年八月廿一日

貸座敷娼妓取締規則取扱手續左ノ通相定ム

貸座敷娼妓取締規則取扱手續

第一條 貸座敷ハ從來ノ振合ニ依リ事情止ムヲ得サル者ニシテ本則第三條ニ牴觸セス豫テ内定スル免許區域内ニ居住シ不都合ナキ者ニ限り免許シ若シ免許スヘカラサル者ト認ムルモノハ其事由ヲ具シ稟儀スヘシ但願書ニ非戸主ハ戸主有夫ノ婦ハ夫ノ連署ヲ要スヘシ
 第二條 規則第七條及第八條ハ宿屋取締規則執行ノ例ニヨリ取扱フヘシ
 道路ニ接シタル客間ハ格子付等ニシテ外面ヨリ内部ノ見透カサル様築造ナサシムヘシ
 第三條 規則第九條ノ遊客名簿ハ旅舎檢ト同時ニ檢査スヘシ
 第四條 規則第十四條ニヨリ承認ヲ申出タルモノアルトキハ先ッ本人ニ意見ヲ尋承諾シタル者ニ限リ承認ヲ與フヘシ
 第五條 規則第十五條ノ契約書ハ娼妓稼願出ト同時ニ連署シテ差出スルハ別ニ届出ヲ要セサル旨

(七〇三)

豫テ示シ置クヘシ

第六條 娼妓稼ヲ願出タル時ハ左ノ條件ヲ調査シ認許スヘシ

但養女ナル時ハ實父母ノ連署ヲ要ス

一規則第廿條ニ牴觸セサルヤ否

二戸籍間父母連署ノ正否

三契約書アル者ハ其條項

四父母ノ貧困ニシテ奉養ノ真意ニ出タルモノナリヤ否

五父母ノ壓制又ハ他人ノ誘導ニ係ラサルヤ否 六略取誘拐セラレタルニアラサルヤ否

第七條 左ノ府縣ニ係ル娼妓稼願ハ該府縣警察署又ハ郡役所ノ添簡ナキトキハ認許スルヲ得ス

大坂、静岡、愛知、高知、神奈川、愛媛、宮城、秋田、島根、佐賀、朽木、長野、千葉、巖手、鳥取、

第八條 規則第廿三條但書ハ總テ全戸在籍寄留(單獨者ヲ除ク)者ニ限ルモノトス

第九條 頭取ヲ改撰セシメントスル時ハ豫メ其事由ヲ詳記シ稟議スヘシ

第十條 規則第四十一條ニヨリ認可ヲ願出タル時ハ其意見ヲ付シ豫メ稟議スヘシ

第十一條 貸座敷營業者ニシテ同居ノモノ一方ニ貸座敷ヲ爲シ一方ニ宿屋營業ヲナサントスル者ノ如キハ認許スヘカラス

第六款 貸座敷藝娼妓ニ關スル雜件

○保第五九八號

廿四年六月廿日

今回藝妓取締規則中改正相成候ニ付テハ自今該營業者ニ關スル鑑札附與其ノ他ノ事項ハ總テ他ノ營業者ノ事務取扱手續ニ準シ取扱開廢業及他郡移轉等ノハ例ニ依リ必ス本人所管ノ郡役所へ通知候様取計ヲハルヘシ

第六編 營業

第一章 古物商質屋

第一款 古物商取締法

○法律第十三號

二十八年三月二日

古物商取締法

第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルハ其旨行政廳ニ届出ツヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ

其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ

ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地

ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 古物ノ市場、行商、露店及糶賣

二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ

權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ

詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタルニ後ニ非サレハ之ヲ買受又ハ

讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ

命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出スヘシ

第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第十二條 其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十三條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病汚染ノ物品アリト認ムルハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルヲ得

第十五條 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十七條 禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及ブ

第十八條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

第十九條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第二十條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第二十一條 他ノ營業者ニシテ臨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ買賣交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第十五條ニ違犯シタル者

第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條、及第十二條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ

第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第二款 質屋取締法

○法律第十四號 二十八年三月十日

質屋取締法

第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコト得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナラ

者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ
帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條 質屋ハ左ニ掲クル制限内ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス
貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限り無効トス

第十條 質署主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スルコトヲ得

第十一條 質屋ハ流失期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限り警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ

發スルコトヲ得

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫等ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限り其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出シムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得
若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シテ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖モ其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者
 第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條
 第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
 第二十五條 質屋營業上ニ於テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其ノ責ニ任ス
 第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 附 則
 第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セス
 第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル質屋契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス
 第二十九條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第二章 宿屋料理屋飲食店待合茶屋及陸運

第一款 宿屋取締規則

○縣令甲第五拾八號 二十年七月十五日
 宿屋取締規則別冊ノ通相定來ル十月一日ヨリ施行ス

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ左ノ三種トス
 一 旅人宿 二 下宿屋 三 木賃宿
 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスルモノハ其種類並ニ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許證ヲ受クヘシ其間取坪數等ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ(廿一年八月縣令甲第三十七號ヲ以テ又ハ分署ノ四字ヲ加フ)

宿屋營業者ハ警察官署ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設ケ營業上ニ關スル一切ノ事項ヲ規約シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ(廿七年八月縣令第五十號ヲ以テ本項追加)

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス
 一 未丁年ニシテ後見人ナキ者 二 強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者
 三 監視中ノ者 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者

第四條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ届出免許證返納又ハ書換若クハ再渡ヲ請フヘシ
 一 廢業又ハ第三條ノ各項ニ觸レタル片 二 轉居又ハ改氏名其他免許證ニ異動ヲ生シタル片
 三 遺失又ハ紛失シタル片

第五條 宿屋營業者ハ店頭又ハ門戸ニ看板ヲ掲ケ旅人宿及木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

第六條 宿引ヲ出シ又ハ車夫等ト牒合シテ客ヲ引入ル等ノ處爲アル可カラス

第七條 宿泊人ノ所持品ハ特ニ寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪其他ノ者ヲ濫リニ室内ニ入ラシムヘカラス
 第九條 左ノ場合ニ於テハ即時ニ所管警察署分署巡查派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ
 一 宿泊人傳染病ニ罹リ若クハ變死シ又ハ其所持品紛失シタル片但此場合ニ於テハ其關係人又ハ關係人ト認メタル者ハ外出ヲ止ムヘシ

二 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ所持品ヲ押収又ヲ受領セサルヲ得サル片
 三 宿泊人ノ内不正ノ處爲アルカ或ハ不審ノ者ト見認タル片

第十條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十一條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場又ハ客ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第十二條 宿泊人ノ遺留品アリタル片ハ速ニ還付ノ手續ヲナシ其主分明ナラサル片ハ所管警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出ヘシ
 第二章 旅人宿

第三十三條 第四條第五條第八條第十一條第二十條第二十三條第二十七條第二十八條ニ違フ者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第三十四條 第十四條第十八條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 第十二條ニ違フ者ハ刑法ニ依リ罰セラル可シ

第二款 宿屋取締規則取扱手續

○縣警第一五五一號 二十年八月廿九日
宿屋取締規則取扱手續左之通相定ム

第一條 規則第二條ノ願出アリタルハ同第三條ノ各項ニ牴觸スルヤ否ヲ取調差支ナキモノハ直ニ家屋構造ノ模様ヲ臨檢シ規則ニ適合シタルモノト認ムルハ免許證ヲ下付ス可シ其間取坪數ヲ變更増減シタルハ亦同シ

第二條 構造ノ檢査ハ左ノ例ニ據ル可シ

- 一 客室ノ坪數ハ床押入縁側等ヲ除テ計算ス可シ
- 二 階子ノ構造ハ危險ノ虞ナカラシメン爲メ堅牢ヲ主トシ其勾配ハ少クモ鉛垂七ニ對スル水平五ノ比例ヲ下ラサルヲ要ス在來ノ階子ト雖モ其勾配甚タ急ニシテ危險ノ虞アルモノハ可成改造セシムヘシ
- 三 便所ノ構造ハ第十七條ニ據リ尙ホ清潔掃淨ノ法ニ便ナラシムルヲ要ス
- 四 光線ヲ妨遮シテ室內薄闇ク空氣壅塞シテ健康ニ害アリト認ムル場所ハ改造セシム可シ
- 五 木賃宿ハ專ラ前項ニ注意シ尙便所其他不潔ナラサル様檢査ス可シ

第三條 營業者ノ身元ヲ確實ナラシムルハ最モ必用ナルニ付受持巡査ヲシテ左ノ例ニ據リ取調ヲ爲サシムヘシ

- 一 性質及品行舉動之如何
- 二 猥褻賭博其他風俗ニ關スル罪ヲ犯シ處刑ヲ受ケ若クハ其疑ニ因リ拘致セラレ爾后改悛ノ模様ナキ哉否
- 三 後見人ノ身元ハ營業者ノ例ニ依リ探査シ規則第三條ノ各項ニ觸ル、モノ後見人トナルヲ得ス

第四條 願届書ノ調査ハ左之例ニ據ルヘシ

- 一 調査之上不都合ナキモノハ免許證又ハ認可ノ指令ヲ與フヘシ
- 二 免許又ハ認可ヲ與エ難シト認ムルモノハ其事由ヲ具シ本部ニ稟議ス可シ

第五條 免許證ヲ下付スルハ其種別毎ニ第壹號書式ニ倣ヒ番號ヲ起シ順次記入シ其免許證ハ第貳號書式ニ據ル可シ

宿屋營業者名簿

年鑑 月札 日ノ	何年 何月 何日	返免 許納 證	何年 何月 何日	領取 主ノ 印
免許證 何々々 證		住所 大分縣何國何郡何村町番地身分	氏名 何ノ 誰	
番號	第何號	原簿		

参考トナル
ヘキ事項書
入欄内

用紙
第二號
縦 五寸二分
横 三寸二分

第何號 (名簿ト全番號)

表
何々免許證

大分縣何郡何町番地身分
氏名

裏

年月日
大分縣

警察署

第六條 規則第三條第二項及ヒ第四項ニ據リ允許ヲ與ヘサル者再ヒ願出ルキハ其改悛ノ實蹟著シ
キモノニ限リ其事項ヲ具シ本部ノ認可ヲ得免許ヲ與フ可シ但シ監視中ノモノハ此限リニアラス

第七條 規則第九條ノ處分ハ左ノ例ニ據ル可シ

第一項ノ届出ヲ受ケタル片ハ直ニ其場ニ出張シ其傳染病、變死ニ係ルハ一般ノ手續ニ據リ所有
品ノ紛失ニ係ル片ハ本人ハ勿論家族雇人及同宿人ヲモ穩ニ取調ヘ疑ナキモノハ外出ヲ許シ疑
シキモノハ警察署ニ同行シテ相當ノ取調ヲ爲スヘシ

第二項ノ申出アル片ハ營業者ノ片言ニ依ラス双方ノ事情ヲ審糺シ止ムヲ得サルモノト認メタル
片ハ公認ヲ與フヘシ

第八條 旅舎検査ハ左ノ例ニ依ル可シ

- 一 警察署分署派出所々在地ノ旅人宿、木賃宿ハ可成毎日々宿屋ハ毎月三回以上巡查ヲシテ其
狀況ヲ視察シ及宿泊人名簿ヲ検査スヘシ
- 一 事機ニヨリ必用ト認ムル事件ハ直ニ宿泊人ニ就キ穩カニ訊問スヘシ
- 一 警察署分署派出所アラサル町村ニ於テハ豫メ視察スヘキ度數ヲ定メ置クベシ
- 一 臨時客席其他ヲ臨檢シ規則ヲ遵守スルヤ否ヲ取調フルコトアルベシ
- 一 官吏ハ宿泊人名簿ニハ官氏名ヲ記載セシメ又軍隊若クハ學校生徒隊伍ヲ組ミ行進中宿泊シ
タル場合ハ其隊長又ハ指導者ノ官氏名及適宜ノ欄内ニ引卒スル人員ヲ記シ其他ノ事項ヲ記
載セシムルニ及ハス

第九條 木賃宿ハ貧氓ノ集合所トナリ從テ無賴惡漢ノ徒其間ニ潛匿スルノ虞アリ故ニ一層其取締
ヲ嚴ニシテ土地ノ實況若クハ舊慣ヲ考ヘ區畫ヲ定メ之ヲ許可スヘシ但溫泉アル町村ハ區畫ヲ定
ムルニ及ハス

第二欸 陸運營業取締規則

(一二三)

○本縣令甲第六十六號 二十年八月廿九日
陸運營業取締規則左ノ通相定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

陸運營業取締規則

- 第一條 陸運營業トハ物貨ノ陸運ヲ受負又ハ人馬繼立及荷牛車荷馬車荷車ヲ以テ諸荷物ノ運送ヲナシ營業スルモノヲ云フ
- 第二條 陸運營業ヲ別テ左ノ三種トス
 - 一 陸運諸荷物受負
 - 一 人馬繼立
 - 一 荷牛車荷馬車 大八六七 大六ノ類
- 第三條 前條ノ營業ヲナサントスルモノハ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ
- 第四條 諸荷物受負營業者ハ左ノ事項ニヨリ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 諸荷物受負賃錢及手数料
 - 一 諸荷物取扱方及責任
- 前項ノ外營業上必要ノ事項
- 第五條 人馬繼立及荷牛車荷馬車荷車營業者ハ左ノ事項ニヨリ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ
 - 一 人馬繼立取扱方並賃錢及手数料但賃錢ハ平路中難路極難路ノ三等ニ區別シ定額ヲ設クヘシ
 - 一 人足一人持荷物ノ量目
 - 一 馬一匹荷物ノ量目
 - 一 荷牛車荷馬車荷車ノ積量及賃錢
- 前項ノ外營業上必要ノ事項
- 第六條 陸運營業者左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ縣廳ヘ届出ヘシ
 - 一 休業及廢業シタルル
 - 一 改氏名及轉居シタルル
- 第七條 陸運諸荷物受負及人馬繼立營業所ニハ看板及左ノ事項ヲ店頭ニ揭示スヘシ
 - 一 諸荷物受負所ニハ貨物取扱上ノ要領及受負賃錢保險料ノ定額
 - 一 人馬繼立所ニハ隣地繼立所ヘノ距離及賃錢ノ定額
- 前項ノ外托者ノ心得トナルヘキ事項
- 第八條 陸運諸荷物受負及人馬繼立營業者ハ如何ナル場合ト雖モ正當ノ事由ナクシテ運送又ハ繼立ヲ拒ムヲ許サス
- 第九條 陸運諸荷物受負營業者ハ托者ノ望ニヨリ損害辨償ヲ負擔スルト否トヲ別チ之ヲ取扱フヘシ

- 第十條 送狀ナキ物貨ヲ受負又ハ遞送スヘカラス但托者ノ望ニヨリ營業者之ニ代リ送狀ヲ發スルハ妨ケナシ
- 第十一條 運送物ノ荷造粗畧ニシテ運送中濡沾脫漏等ノ難ヲ防ク能ハスト認ムルルルハ托者ニ其改造ヲ求ムヘシ
- 第十二條 運送中ノ物貨若シ荷造異狀又ハ物品ニ損傷アリト認ムルルルハ繼越地運送人立會ヲ得テ改造又ハ之ヲ解キ検査スルヲ得此場合ニハ其顛末ヲ詳記シ送狀ニ添付スヘシ
- 第十三條 前條ノ場合ニ於テ運送物損傷等アルルルハ其旨繼越地ノ營業者ニ急報シ繼越地ノ營業者ハ速ニ取調相當ノ手續ヲナスヘシ
- 第十四條 運送物ノ種類ニヨリ破損脫漏ノ虞アルモノ又ハ他ノ物品ヲ汚損破傷シ易キモノハ殊更取扱方ニ注意スヘシ
- 第十五條 運送物ノ受取渡ハ營業者互ニ帳簿ヲ用ヒ賃錢及發着ノ時刻並損害ノ有無等ヲ記載シ後日ノ證據ニ供スヘシ
- 第十六條 人馬繼立營業者ハ人馬繼立帳簿ヲ製シ繼立ノ都度賃錢及繼立驛名等ヲ記シ置クヘシ
- 第十七條 人馬荷牛車荷馬車荷車ハ強壯ニシテ惡僻ナク及堅牢ナルモノヲ撰ヒ置キ運搬ニ差支ナル様注意スヘシ
- 第十八條 規約ニ定メタル定額外ノ賃錢ヲ要求スルヲ許サス
- 第十九條 營業上ノ件ニ付テハ家族雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ
- 第二十條 第三條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以内ノ科料ニ處ス
- 第二十一條 第四條第五條第八條第十三條第十八條ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第四款 料理屋飲食店待合茶屋取締規則

○本縣令甲第四十七號 廿五年八月三日

料理屋飲食店取締規則左ノ通相定ム

第一條 料理屋待合茶屋飲食店取締規則(廿六年一月縣令七號ニテ第一條第十二條ヲ追加ス)

第一條 料理屋待合茶屋及飲食店ノ營業ヲ爲サントスルモノハ其種類並ニ建物坪數間取ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ所管警察官署ニ出願許可ヲ受クヘシ

飲食店ニシテ別ニ客席ヲ設ケサルモノハ圖面ヲ要セス

第二條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所管警察官署ニ届出ヘシ

一 客用ニ供スル建物ノ間取坪數ヲ増減變更シタル時(圖面ヲ添ヘシ)

二 營業者ノ死亡改氏名又ハ轉居若クハ兼業廢業シタル時

第三條 飲食物ハ惣テ新鮮ヲ主トシ腐敗又ハ不潔ナルモノヲ用フヘカラス 飲食器具料理場及廁圍等ハ日々清潔ニ洗滌掃除スヘシ

第四條 飲食物ヲ店頭ニ出シ置クトキハ塵埃等ノ附着セサル様相當ノ防圍ヲ設クヘシ

第五條 通行人ニ強テ飲食ヲ勸メ又ハ來客ヲ宿泊セシムヘカラス

醉倒シテ起ツ能ハサル客アリタルトキハ直ニ所管警察官署又ハ巡行ノ巡查又ハ巡查駐在所ヘ届出ヘシ(書面ヲ要セス)

第六條 來客ノ爲メ藝妓ニ非ル者其他遊藝鑑札ヲ所持セサル者ヲシテ歌舞音曲ヲ弄セシムルコトヲ得ス

第七條 來客ノ注文外ニ酒肴ヲ勸メ又ハ強テ藝妓等ヲ招カシムル等ノ所業ヲ爲スヘカラス

第八條 酌婦、水仕、下女等ト稱シ雇入ル、婦女ニシテ十年以上四十年以下ノ者ハ其名義ノ如何ニ

關セス族籍氏名年齢ヲ詳記シ所管警察官署ニ願出認可ヲ受クヘシ

解雇シタルトキハ五日以内ニ所管警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ

第九條 雇人ヲシテ藝妓ニ紛敷所業ヲ爲サシムヘカラス

第十條 夜間十二時ヲ過キ歌舞音曲ヲ弄シ又ハ喧騒ナラシムヘカラス

第十一條 酒肴料ノ抵償トシテ來客ノ所持品ヲ押ヘ又ハ受領スヘカラス來客ニシテ若シ之ヲ置カントスルモノアルトキハ警察官吏ニ届出ヘシ

第十二條 料理屋待合茶屋ノ業ヲ營ムモノハ所管警察官署ノ命スル所ニ從ヒ營業組合ヲ設クヘシ

第十三條 組合ハ營業上各自遵守スヘキ規約ヲ協議決定シ所管警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 組合ニ關スル費用ハ同業者ノ負擔タルヘシ

第十五條 組合ハ正副頭取各一名ヲ選舉シ所管警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十六條 本則第一條ヨリ第十一條ニ至ル各條ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿七條第八項ニ據

リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

現今ノ營業者ハ明治二十五年九月三十日マテニ本則規定ノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 馬車及人力車

第一款 乘合馬車取締規則

○本縣令甲第五十九號 二十年七月十五日

乘合馬車取締規則別冊ノ通相定來ル十月一日ヨリ施行ス

乘合馬車取締規則(廿一年八月縣令三十九號ニテ第一條、廿三年五月縣令第四十五號ニテ第十二條、第四十六條、第五十三條、第五十四條中追加全第四十八條、第四十九條、第五十條、第五十一條ヲ削除ス)廿四年十二月縣令四十一號ニテ第六條并營業人力車取締規則第七條中改正

第一章 通則

第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ其營業線路及駐車場ヲ詳記シ所管警察署又ハ分署ヘ願

出免許證ヲ受クヘシ

- 第二條 凡ソ營業者ニ關スル願伺届等ハ總テ頭取ニ於テ加印シ所管警察署又ハ分署ニ差出スヘシ
- 第三條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第四條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ記シ尙本則第十九條第一項第二項ニ牴觸セサル旨原籍戸長ノ證明シタル願書ヲ差出シ各鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第五條 營業者ハ車馬ノ使用前馬匹ノ年齢車體ノ構造及乗客ノ定員ヲ届出車馬ノ検査證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタルキハ定期ニ拘ハラヌ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 馭者馬丁ノ鑑札及車體馬匹ハ左ノ項目ニ依リ警察署分署ノ指定シタル日該署ニ於テ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサル者ハ無効タルヘシ
 - 一 鑑札ハ毎年五月検印ヲ受ルモノトス
 - 二 車體及馬匹ハ毎年五月検査證ヲ受クルモノトス
- 第七條 前條定期外ト雖モ必要ト認ムルトキハ臨時検査スルコトアルヘシ
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ記シ免許證馬車検査證又ハ鑑札ノ書換若クハ再渡ヲ願出ツヘシ
 - 一 轉居改氏名其他免許證馬車検査證及鑑札面ニ異動ヲ生シタル片
 - 二 免許證馬車検査證鑑札ヲ遺失誤損シ若クハ其文字不分明ニ至リタル片
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ届出免許證馬車検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 一 廢業又ハ免許ノ効ヲ失シ若クハ其組合外ニ轉居シタル片
 - 二 車馬ヲ賣渡シ讓渡シ又ハ其使用ヲ廢止タル片
 - 三 馭者馬丁ノ解僱死亡失踪逃亡又ハ第十九條ニ觸レタル片
- 第十條 免許證馬車検査證及鑑札ハ賣買讓與貸借ヲ許サス
- 第十一條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ欠クヘカラス但一頭挽馬車ニシテ馬丁ヲ付スルノ必要ヲ認メサル場合ハ其事由ヲ記シ願出許可ヲ受クヘシ

- 第十二條 乗客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 乗客ノ定員ハ木札横八寸ニ明記シ車體検査證ト共ニ車内見易キ所ニ釘付シ馬匹検査證ハ其頸輪ニ結着スヘシ
- 第十四條 検査證アル馬車ト雖モ第十五條第十六條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルキハ其使用ヲ差止ムルコトアルシ
- 第二章 車體馬匹及屬具
- 第十五條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及屬具ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス
 - 二 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス
 - 三 車體ハ無地漆塗ニシテ屋根ハ木製トシ其前面ノ兩側ニ點燈スベキ裝置ヲ爲スヘキモノトス
 - 四 運轉器心棒發條力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用ユヘキモノトス
 - 五 客坐ハ清潔適當ノ裝置ヲナシ一人ノ坐席ハ幅壹尺二寸以上トス
- 第十六條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
- 第十七條 馬匹ニハ検査證ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ
- 第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝
- 第十八條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達スルモノニ限ルヘシ
- 第十九條 前條ノ資格ニ適當スト雖モ左ノ各項ニ觸ル、者ハ馭者馬丁トナルコトヲ得ス
 - 一 強竊盜強姦又ハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタルモノ
 - 二 監視中ノ者
 - 三 酒狂又ハ暴行ノ癖アル者
- 第二十條 馭者馬丁ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 馭者 帽子、筒袖、ツボン、靴、又ハ法皮、股引、草履

二 馬丁 帽子又ハ笠、法皮、股引或ハ半股引但雨雪泥濘ノ時ハゴム引又ハ桐油若クハ羅紗制ノ雨具ヲ用ユルモ妨ケナシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 馭者馬丁ハ鑑札及乗合馬車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ンコトヲ求メタルハ速ニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 制止ヲ肯セス類冠リ鉢巻其他不体裁ノ形装ヲ爲スヘカラス

第二十三條 馭車ハ馬車ヲ離レ又ハ他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス但馭者止ヲ得サル事故アリテ馬車ヲ離ルハ馬丁ヲシテ其管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス老幼及婦女等昇降ノ際ハ最モ懇篤ニ保護スヘシ

第二十五條 乗客中粗暴ノ所爲アルハ之ヲ制止シ若シ肯セサルハ降車セシムヘシ

第二十六條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナス可カラス

第二十七條 馭者臺ニ客ヲ乗セ又ハ適當ノ構造ヲ爲サシテ屋根ニ物品ヲ載ス可カラス

第二十八條 行車中ハ飲食又ハ喫烟若クハ酩酊シテ業ヲ執ル可カラス

第二十九條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ル可カラス

第三十條 馬車ヲ並ヘ馳セ狼リニ疾驅シ若クハ競走ス可カラス

第三十一條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 馬車ハ道ノ中央ヲ通行スヘシ

二 馬車及歩行者ニ逢フキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便又ハ消防用ニ供スル車馬及葬送等ニ逢フキハ避讓スヘシ

第三十二條 二車以上引續キ行進スルキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十三條 往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上等ヲ通過スルキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ馬丁ヲシテ前行セシムベシ街角ニ於テハ右ハ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲナス可シ但馬丁ヲ附セサルモノハ馭者下テ轡ヲ執ルベシ

第三十四條 街角橋上其他往來雜踏ノ場所ニ於テハ駐車シ又ハ客ヲ昇降セシム可カラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ行車ス可ラス

第三十六條 馬匹ハ殘虐ニ使用ヲ爲サス常ニ車体ト共ニ清潔ニス可シ

第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アルトキハ直ニ返付ス可シ其主分明ナラサルキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出ツ可シ

第五章 乗載制限

第三十八條 定員外ノ客ヲ載ス可カラス但十年未滿ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ハ定員外トス

第三十九條 左ニ記載シタル者ハ乗載ス可カラス

一 六種傳染病疥癬癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アルモノ

二 瘋癲者暴行者亂醉者及乞食体ノ者

三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ慮リアルモノ

四 獸類

第四十條 定員三分ノ一以上ノ乗客アリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第六章 賃錢及駐車場

第四十一條 賃錢表ヲ駐車場及車内見易キ所ニ揭示ス可シ

第四十二條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十三條 駐車場ハ組合ニ於テ設置前圖面ヲ添ヘ地主連署ヲ以テ届出テ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ左ノ標札又ハ標柱ヲ設ク可シ
 (何組合乗合馬車駐車場)標札^三標柱^五
 第四十四條 制止ヲ肯セス駐車場外ニ車馬ヲ置ク可カラズ
 第四十五條 駐車場ノ地盤ハ石漆喰又ハ板敷トナシ馬尿溜ヲ設ケ場外ニ濫出セサル様構造シ且ツ日々掃除シテ清潔ナラシム可シ

第七章 營業組合

第四十六條 馬車營業者ハ警察署又ハ分署ノ管轄區域ニ從ヒ組合ヲ設ク可シ但時宜ニ依リ他ノ同業者組合又ハ營業人力車組合ト聯合スルコト得此場合ニ於テハ其事由ヲ届出認可ヲ受クヘシ
 第四十七條 組合ニ入ラサルモノハ馬車營業ヲ爲スコト得ス
 第四十八條 第四十九條第五十條第五十一條 「削除」

第五十二條 營業者ノ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ
 第五十三條 組合ニ於テハ左ノ各項ニ準據シ規約ヲ定メ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ク可シ

- 一 組合ノ名稱及事務扱所ノ位置
- 二 賃錢ノ定額
- 三 頭取ノ撰擧方並任期ニ關スル規定
- 四 組合會議ニ關スル規定
- 五 組合ニ關スル費用及其收支方法
- 六 馭者馬丁ノ備入解備及車馬賣買ノ取扱方
- 七 違約者ノ取扱方

右ノ外營業上必要ノ事項
 第五十四條 組合ニハ各頭取一人ヲ置ク其頭取ハ組合營業者ニ於テ其組合中ノ者ヲ公撰シ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 頭取ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ
 一 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スルコト

二 駐車場ヲ整理スルコト

- 三 營業ノ願伺届等ニ加印シ意見アルハ其旨ヲ添申スルコト
- 四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スルコト
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ支拂フコト
- 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スルコト
- 七 頭取ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フコト

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項
 第五十六條 左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

一 年齢ニ拾五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ財産ヲ所有スル者

二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者
 第五十七條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ該ル者ハ組合頭取タルコトヲ得ス

一 強盜盜詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

二 監視中ノ者
 第五十八條 頭取不都合ノ所爲アリト認めルハ臨時改撰セシムルコトアル可シ

第八章 罰例

第五十九條 第一條ニ違フ者ハ二日以上五以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 第三條第四條第五條第六條第十條第十一條第十二條第十三條第二十三條第二十四條第二十六條第三十條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條ニ違フ者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾五錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 第八條第九條第二十一條第二十七條第二十八條第三十五條第四十三條ニ違フ者及ヒ第三拾一條第三拾二條第三拾三條第三拾四條ニ違ヒテ他人ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第六十二條 第二十二條第四十四條ニ違フ者及ヒ第二拾條第四拾五條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クル
モ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
第六十三條 第二十九條第三十七條ニ違フ者ハ刑法ニ依リ罰セラル可シ其他第卅條ニ掲ケタル條
項中ノ所爲ニシテ刑法ニ明文アルモノ亦同シ

第二欸 營業人力車取締規則

○本縣令甲第六十號 二十年七月十五日
營業人力車取締規則別冊ノ通リ相定來ル十月一日ヨリ施行ス

營業人力車取締規則 (廿一年八月縣令三十八號ニテ第二條第二十條追加削除廿三年五月縣令四十四號ニテ第四十
四條、第五十條、第五十二條、第五十三條中ニ追加シ第十三條、第十四條、第十五條、第十六條
削除)

第一章 通則

- 第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ挽カシメ又ハ自ラ挽クモノヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所管警察署又ハ分署ヘ願出免許證ヲ受クヘシ
- 第三條 凡ソ營業ニ關スル願伺届ハ總テ頭取ニ於テ加印シ所管警察署又ハ分署ニ差出スヘシ
- 第四條 凡ソ輓子ヲシテ車ヲ挽カシムル者自ラ車ヲ挽クモハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ
- 第五條 營業者ハ輓子ノ族籍住所氏名年齢ヲ記シ尙本則第十九條ノ各項ニ牴觸セサル旨原籍戶長
ノ證明シタル願書ヲ差出シ各鑑札一個ヲ受クヘシ
- 第六條 凡テ人力車ハ使用前其種類員數ヲ記シ願出人力車ノ検査證ヲ受クヘシ其新造改造又ハ買
受讓受ヲ爲シタルモハ定期ニ拘ハラス届出検査ヲ受クヘシ
- 第七條 輓子鑑札及車體ハ左項ニ從ヒ警察署分署ノ指定シタル日該署ニ於テ検査ヲ受クヘシ其檢
查ヲ受ケサル者ハ無効タルヘシ
- 一 輓子鑑札ハ毎年五月檢印ヲ受ルモノトス
- 二 車體ハ毎年十一月検査證ニ檢印ヲ受ルモノトス
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ノ書換若クハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許證車體検査證及鑑札面ニ異動ヲ生シタルモ
- 二 免許證車體検査證鑑札ヲ遺失誤損シ若クハ其文字不分明ニ至リタルモ
- 第九條 左ノ場合ニ於テハ其事由ヲ届出免許證車體検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 一 廢業又ハ免許ノ効ヲ失シ若クハ其組合外ニ轉居シタルモ
- 二 車ヲ賣渡シ讓渡シ又ハ廢毀シタルモ
- 三 輓子ノ解備死去失踪逃亡又ハ第拾九條各項ニ觸レタルモ
- 第十條 免許證車體検査證及鑑札ハ賣買讓與貸借ヲ許サス
- 第十一條 車體検査證ハ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ
- 第十二條 検査證アル車ト雖モ第拾七條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルモハ其使
用ヲ差止ムルコトアルヘシ
- 第十三條 第十四條第十五條第十六條 「削除」

第二章 車體ノ構造及屬具

- 第十三條 車體堅牢ニシテ其構造及屬具ハ左ノ制限ニ從フヘシ
- 一 一人乗ハ橫幅内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス
- 二 車體ハ無地漆塗トシ中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用ユヘキモノトス
- 三 車體ニ同シキ漆塗ノ泥除ヲ備フヘキモノトス
- 四 車體ノ背面ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組合名及鑑札ノ番號ヲ朱字ニテ明記スヘキモノトス
- 五 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス
- 六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フ可キモノトス
- 七 組合名及鑑札ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ蠟燭及摺付木ヲ用意スヘキモノトス
- 第三章 輓子ノ資格及服裝
- 第十四條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル可シ
- 一 年齢滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者
- 二 土地ノ路程ヲ略知スル者

第十五條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ觸ル者ハ轆子タルヲ得ス

一 強竊盜ノ罪ヲ犯シタル者

二 強姦又ハ幼者ヲ略取誘拐シ若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

三 監視中ノ者

第十六條 轆子ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 冠リ物ハ帽子又ハ笠

二 着服ハ法皮股引或ハ半股引但雨雪泥濘ノキハゴム引又ハ桐油若クハ羅紗製ノ雨具ヲ用ユル

モ妨ケナシ

第四章 轆子就業制限

第十七條 轆子ハ鑑札及營業人力車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見シテ求メタル

トキハ速ニ之ヲ示スヘシ

第十八條 制止ヲ肯セスシテ頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラサス

第十九條 制止ヲ肯セスシテ路上ヲ彷徨シ又ハ停止シテ行人ノ妨ケヲナスヘカラス

第二十條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他ノ車ニ乗セ替エ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

第二十一條 制止ヲ肯セスシテ駐車場外ニ車ヲ置クヘカラス但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ

第二十二條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ轆入ルヘカラス

第二十三條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集ノ場所ニ轆入ルヘカラス

第二十四條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十五條 濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十六條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 人力車ハ道ノ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ逢フキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルキハ後車ヨリ懸聲ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便又ハ消防用ニ供スル車馬及葬送等ニ逢フキハ避讓ス可シ

第二十七條 二車以上引續キ行進スルキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ル可シ

第二十八條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上等ヲ通過スルキハ徐行シ街角ヲ廻ルキハ右ハ大廻リ左ハ小廻リヲ爲ス可シ

第二十九條 車ヲ並ヘ挽キ又ハ二輛以上連繫シテ轆ク可カラス

第三十條 夜間燈火ナクシテ車ヲ疾驅ス可カラス

第三十一條 街角橋上其他往來雜沓ノ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十二條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シアリタルキハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサルキハ最寄警察署分署又ハ巡查派出所ニ届出可シ

第五章 乘載制限

第三十三條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載ス可カラス但十年未滿ハ二人ヲ以テ一人ト看

做シ三年未滿ハ定員外トス

第三十四條 左ニ記載シタルモノハ乘載ス可カラス

一 六種傳染病疥癬癩病者及乞食体ノ者

二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ム可キ物品

三 車体外ニ張出ス可キ長大ノ物品

第六章 賃錢及駐車場

第三十五條 賃錢表ヲ車ノ蹴込正面ニ釘付シ且駐車場ノ見易キ處ニ揭示ス可シ

第三十六條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十七條 汽船發着地其他群集ノ場所ニ至ラントスルルキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第三十八條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メタルルキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第三十九條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス
一 公設駐車場(街路又ハ其他官有地ニ設置シ一般營業人ノ供用ニ充ツルモノヲ云フ)

二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十條 公設駐車場ハ所管警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ標柱ヲ建設ス可シ

第四十一條 私設駐車場ハ設置前其場所ヲ見立圖面ヲ添ヘ地主連署ヲ以テ届出テ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ左ノ標札ヲ掲クヘシ

(私設人力車駐車場 何郡町番地 何某又ハ何人 横七尺五寸)

第四十二條 公設駐車場ニ於テハ到着ノ順序ニ從ヒ車ノ側面ヲ街路ニ向ケ整列シ其發車ハ整列ノ順次若クハ闕取ヲ以テナスヘシ但客ノ指定シタルルキハ此限ニアラス

第四十三條 駐車場ニハ客ノ乗用ニ供シ難キ車ヲ置クヘカラス

第四十四條 駐車場ハ日々掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ但公設駐車場ハ其地組合私設ニ係ルモノハ其專用者ノ負擔トス

第四十五條 客ノ求メアリタルルキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第七章 營業組合
第四十六條 人力車營業者ハ警察署又ハ分署ノ管轄區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ但時宜ニ依リ他ノ同業組合者又ハ乗合馬車組合ト聯合スルヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ届出認可ヲ受クヘシ

第四十七條 組合ニ入ラサルモノハ人力車營業ヲ爲スヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テハ左ノ各項ニ準據シ規約ヲ定メ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 組合名稱及事務取扱所ノ位置
- 二 賃錢ノ定額

- 三 頭取撰擧方並任期ニ關スル規定
- 四 組合會議ニ關スル規定
- 五 組合ニ關スル費用及其收支方法
- 六 轆子ノ備入及解備ノ取扱方
- 七 違約者ノ取扱方

右ノ外營業上必要ノ事項

第四十九條 組合ニハ各頭取一人ヲ置ク其頭取ハ組合營業者ニ於テ其組合中ノ者ヲ公撰シ所管警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 頭取ニ於テ取扱フ可キ事項左ノ如シ

一 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スルヲ

二 駐車場ノ取締ヲ爲スヲ

三 組合營業ノ願届ニ加印シ意見アルルキハ其旨ヲ添申スルヲ

四 營業者及轆者名簿ヲ製シ増減異動アルルキハ其旨ヲ添申スルヲ

五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ支拂フヲ

六 組合ニ關スル費用ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スルヲ

七 頭取ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フヲ

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十一條 左ノ資格ニ適合スルモノニアラサレハ組合頭取タルコトヲ得ス

一 年齢ニ拾五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ財産ヲ所有スル者

二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十二條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ當ルモノハ組合頭取タルヲ得ス

一 強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者

二 監視中ノ者

第五十三條 頭取不都合ノ處爲アリト認ルルキハ臨時改撰セシムルヲ得

第八章 罰則

第五十四條 第二條ニ違フ者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第廿四條第廿六條第廿八條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十二條第四十九條ニ違フ者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十六條 第八條第九條第廿一條第三十三條第四十五條ニ違フ者及ヒ第三十條第三十一條第三十二條第三十五條ニ違ヒテ他人ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第五十七條 第廿二條第廿三條第廿五條ニ違フ者及ヒ第二十條第四十八條ニ違ヒ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第五十八條 第廿七條第廿九條第三十四條第三十六條ニ違フ者ハ刑法ニ依リ罰セラルヘシ

第三款 營業人力車乘合馬車取扱手續

○本警第一五五〇號

二十年八月廿九日

警察署分署

營業人力車乘合馬車取扱手續左之通相定ム

營業人力車乘合馬車取扱手續

第一章 通則

第一條 規則執行ノ要領ハ車體堅牢馬匹健全尙清潔ヲ主トシ馱者馬丁輓子ノ如キ專ラ營業上直實ニシテ怠慢不正ノ行爲ナカラシムルハ勿論服裝ノ不體裁馬匹ノ虐使其他他人ノ妨害ヲ加ユル等ノ所爲ナカラシムルヲ以テ目的ト爲ス故ニ執行官ハ宜シク玆ニ注意ヲ要スヘシ

第二條 營業ニ使用スル馬車人力車ハ假令借用ノ物ト雖モ車體ニ對スル責ハ其營業者之ヲ負擔ス

ルモノトス

第二章 營業免許

第三條 營業ヲ願出タル者ハ其身元馬車ハ線路駐車場ヲ取調ヘ不都合ナキモノハ免許證ヲ下スヘシ但乘合馬車ハ線路駐車場ヲ詳記シ其都度警察本部ニ報告スヘシ

第三章 検査證及鑑札ノ付與

第四條 營業者ヨリ馱者馬丁又ハ輓子ノ鑑札下付ヲ願出タル者ハ本人ヲ呼出シ族籍住所氏名年齢ヲ尋問シ疾病ノ有無及体格ノ強弱ヲ概檢シ輓子ハ土地ノ路程ヲ試問シ馱者ハ馱術ノ履歴ヲ糺シテ其熟否ヲ考察シ而シテ規則ニ掲クル前科ナキヤ否ヲ調査シ其抵觸セサル者ハ鑑札ヲ付與スヘシ

第五條 人力車規則第十九條一二項及ヒ馬車規則第十九條一二項ニ依リ免許ヲ與エサルモノ再ヒ願出スルハ其改悛ノ實跡著ルシキモノニ限リ其事由ヲ具シ警部長ノ認可ヲ得免許ヲ與フヘシ

第六條 人力車規則第六條ノ届出アル者ハ全第十七條ニ馬車規則第五條ノ届出アル者ハ全第十五條第十六條第十七條ニ照シテ精密ニ検査シ其抵觸セサルモノハ検査證ヲ附與スヘシ

第七條 免許證、鑑札、検査證ハ各其様式ニ倣ヒ調製スヘシ

第八條 遺失毀損改氏名又ハ移轉等ニ依リ更ニ免許證、鑑札、検査證下付ヲ願出シタル者ハ精細ニ之ヲ取調無相違モノハ舊番號ニ依リ書換下付ノ上其趣ヲ原帳事故欄内ニ記入シ置クヘシ廢業等ニ因リ返納シタル免許證、鑑札、検査證等ハ總テ毀却シ其番號ハ欠號トナスヘシ

第四章 定期検査

第九章 馱者馬丁輓子及人力車馬車馬匹ノ定期検査ハ各其員數ニ應シ適宜ノ日時ニ割合ヒ検査日割表ヲ作り遅クモ十日以内ニ組合取締人ニ交付シ各營業者ニ通達セシメ一面之ヲ警察本部ニ報告スヘシ

第十條 検査場ハ警察署又ハ分署構内又ハ社寺境内等適宜ノ地ヲ借入使用スルヲ得

第十一條 検査員ハ警部警部補若クハ代理巡查ヲ以テ之ニ充テ巡查雇若干員ヲ付屬スルヲ得

時機ニ據リ警察本部員派出シテ立會検査セシムルコトアルヘシ

第十二條 轆子及馱者馬丁ノ鑑札検査ハ必ス本人ヲ呼出シ族籍住所氏名年齢等ヲ尋問シ名簿ニ照合シテ相違ナキモノハ鑑札面ニ檢ノ字ヲ極印シテ返付シ名簿ニ検査済ノ印ヲ捺スヘシ

第十三條 車体及馬匹ノ検査ハ規則ニ照シテ精密ニ點檢シ不都合ナキ者ハ検査證ニ檢ノ字ヲ極印シ原簿ニ検査済ノ印ヲ捺スヘシ

車体検査ノ上一部分ノ汚損ハ修理ヲ命シ全体破損若クハ不潔ニシテ修繕ノ効ナシト認ムルモノハ其使用ヲ差止ムヘシ

馬匹検査ノ上疾病若クハ衰弱ニ依リ其用ニ堪ヘ難シト認ムルモノハ使用ヲ差止ムヘシ

第五章 乘客定員

第十四條 乘客人員ノ定限ヲ設クルハ乘客ノ安全ヲ保ツニ最モ緊要ナレハ検査ノ際其土地道路ノ險夷又ハ車体馬力ニ應シ堅固ナル量定ヲ爲ス可シ

第六章 賃錢

第十五條 賃金ハ左ノ標準ニ據リ警察本部ノ認可ヲ受ケ許可スヘシ

一馬車賃

乘客一人ニ付平道一里金三錢五厘以内

全 難道一里金四錢以内

三里以内一臺一日雇金六拾錢以内

全 全半日雇切金三拾錢以内

一人力車賃

一人乘平道一里ニ付金五錢以内

全 難道一里ニ付金六錢以内

二人乘ハ二倍

二人轆以上ハ轆夫一人ヲ増毎ニ前項ノ例ニ依リ賃錢ヲ増額スルコトヲ得

三年以上十年未滿ノ者二人ヲ乗セタルトキハ一人分ノ賃錢ヲ受ケ單ニ一人ヲ乗セタルトキハ

一人乘ノ金額ヲ受クルコトヲ得馬車賃錢亦全シ

一ヶ月以上雇切一ヶ月ニ付七圓以内

三里以内一日雇切三拾五錢以内

全半日雇切七錢五厘以内

一日トハ十二時間半日トハ六時間トス

一車ノ速力ハ凡ソ通常一里ニ付平道ハ四十分難道ハ五十分ヨリ遅カラサルモノトス

一夜行ハ賃金二割増以内

一雨雪泥濘ノ際ハ二割増以内

一以上ノ事故ヲ重ネタルキハ四割増以内 一暴風雨ノ際晝間ハ三割夜間ハ五割増以内

一人力車一人乘市街往復ハ金四錢以内 一客待ハ一時間毎ニ金二錢以内

一乘客手荷物量目五貫目以上ナルキハ一里毎ニ金一錢以内ノ賃錢ヲ請求シ尙加量一貫目毎ニ一

錢以内ノ増錢ヲ要ムルコトヲ得

一渡船賃橋渡賃ハ別ニ乘客ニ請求スルコトヲ得

第十六條 車賃表ヲ製シ通行頻繁ノ道路ニ於ケル駐車場又ハ汽船ノ發着地若クハ驛路ノ入口等ニ於テ行人ノ見易キ様掲示セシムヘシ

第七章 駐車場

第一款 人力車駐車場

第十七條 公設駐車場ノ増減又ハ移轉ヲ必用ト認ムルキハ事由ヲ具シ警察本部ノ認可ヲ受ケ執行スヘシ

第十八條 公設駐車場ノ掃除ハ組合格約中ニ規定セシムヘシ

標柱ノ傾仆及汚漬等無之様掃除之際注意サスヘシ

第十九條 私設駐車場ノ設置ヲ届出タルキハ實地ヲ検査シ他ノ妨害及街路ノ体裁ヲ損セサル限リ

ハ認可ヲ與フヘシ但公道街路ニハ許可セサルモノトス

第二十條 駐車場ニ關シテハ規則第二十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條ノ違犯

ナキ様注意スベシ但第四十七條ハ私設駐車場ニ適用スル限りニアラス

第二款 馬車駐車場

- 第廿一條 駐車場ハ可成人家ニ近接セサル場所ヲ撰ヒ認可スヘシ
- 第廿二條 規則第四十三條ニ據リ駐車場ノ届出アルルハ圖面及實地ニ就キ他ノ妨害及街路ノ体裁ヲ損セサル限リハ許可ヲ與フベシ但公道街路ニハ許可セサルモノトス
- 第廿三條 駐車場ハ規則第四十五條ニ據リ堅固且ツ掃除ニ便ナル様構造セシメ若シ不適當ト認めル箇所ハ速ニ改造セシムヘシ
- 第廿四條 巡行ノ巡查ハ時々駐車場ニ臨檢シ其模様ヲ署長ニ報告スベシ

第八章 就業取締

- 第廿五條 出火場縁日其他群集ノ場所ニ輓入レントスルモノハ制止シテ他道ニ避ケシメ其妨害ヲナシ又叱咤馳驅シテ老幼婦女等ノ困難ヲ顧ミサル者ノ如キハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第廿六條 乗車ヲ勸ムルモ行人ヲシテ嫌厭ノ心ヲ起サシムルニ至ラサレハ後來ヲ嚴戒スルニ止ムヘシ
- 第廿七條 通行法ニ違ヒ他人ノ妨害ヲ爲サルルルト雖直ニ戒諭ヲ加ヘ本條ノ趣意ヲ以テ營業者ノ習慣ト爲サシムルヲ要スヘシ
- 第廿八條 馬車規則第卅九條ニ獸類ノ積載ヲ禁スト雖モ乗客ノ牽ル飼犬ニシテ繩鎖等ヲ施シ他人ノ迷惑トナラサルモノハ默許ニ付スヘシ
- 第廿九條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スルヲ認ムルルルハ直ニ嚴戒スヘシ現ニ之ヲ認メスト雖モ平生其疑ヒアルモノハ時宜ニヨリ馭者及營業者ヲ警察署又ハ分署ニ喚徴シテ説諭スヘシ
- 第九章 組合及取締
- 第三十條 組合規約ヲ定メ又ハ改正シ及ヒ頭取ヨリ認可ヲ受ケンコトヲ申出タルルルハ警察本部ノ認可ヲ受ケ執行スヘシ

第三十一條 頭取ノ資格規則ニ牴觸シタルルル及改撰ヲ必用ト認ムルルルハ其事由ヲ具シ警察本部ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十二條 毎月一回臨時ニ警部若クハ代理巡查ヲ組合事務扱所ニ派遣シ營業者及輓子ノ名簿並組合費用ノ收支ニ關スル帳簿等ヲ點檢シ尚頭取營業者輓子等ノ協和及動靜等ノ如何ヲ視察シ其模様ヲ具申セシムヘシ其具申中必要ト認ムル事項ハ警察本部ニ報告スヘシ

第十章 違犯者處分

- 第三十三條 規則違犯ノ處分ハ他ニ妨害損失ヲ與ヘ又ハ制止ヲ肯セス若クハ再三説諭スルモ之レニ服從セサル者ヲ處分シ其他ハ可成嚴戒説諭ニ止メ行政警察ノ周到ヲ期スヘキナリ
- 第三十四條 人力車ハ規則第十二條第十七條馬車ハ第十四條第十五條第十六條ノ制限ニ適セサルルルハ營業者ヲ喚徴シテ修理ヲ命シ假ニ檢査證ヲ領置シ落成檢査ノ上還付スベシ其甚ダ汚損シテ修理ノ効ナシト認ムル者ハ使用ヲ差止メ檢査證ヲ取上クル可シ馬匹ノ不適當ナルモノ之レニ做フ可シ
- 第三十五條 輓子及馭者馬丁ノ服裝規則ニ違ヒ不体裁ナルルルハ營業者ヲ喚徴シテ之ヲ諭スヘシ再三ノ説諭ヲ用ヒ尙改メサルルルハ鑑札ヲ取上ケ又ハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十一章 簿記

第三十六條 營業者名簿輓子及馭者馬丁名簿人力車馬車及馬匹臺帳ハ別紙様式ニ做ヒ調製シ異動アル毎ニ加除整理シ翌月七日迄ニ統計表ヲ製シ警察本部ニ報告ス可シ

免許證式

用紙 縦五寸二分 横三寸一分

警察署名ノ頭字ヲ記ス以下皆做之

(四四三)

番號ハ數字ヲ用ユ

表

何 第何號

○ 營業 免許證 某 警
人力車 察 署

裏

○

住所族籍 何 某
營業主 何 某

式馬車ニ係ルハ營業人力車トアルヲ乗合馬車ト記ス其他類推スヘシ
轆子及取者馬丁鑑札式
用材 檜 厚三分 縱二寸五分 横二寸

表

何 第何號 燒印

○ 營業 轆子 鑑札 某 警
人力車 察 署

年月日

裏

○

住所何某轆子 住所族籍 何 某
年月日生

年月檢 何年何月檢 年月檢

検査極印

式馬車ニ係ルハ營業人力車トアルヲ乗合馬車ト記ス其他類推スヘシ
車體検査證式
用材 檜 縱四寸 横三寸 厚三分

(五四三)

何第何號何人乘

營業 人力車 又ハ乗合馬車 検査證

何年何月何日

何年何月檢

住所族籍 何 某
營業主 何 某

燒印 某 警 察 署

定期検査ノ印其時々押スモノトス

況ヲ案シ相當ノ期限ヲ定メテ認可シ其路線開期限自何月何日及増額高ヲ記シ車体ニ付スル貸錢表中ニ貼付セシメ認可シタル都度其旨報告セラルヘシ
但往來繁頻ニシテ割石密着固結シタルトキハ期限内ト雖モ直ニ増額請求停止スヘシ
○警第七六六號 廿二年五月廿一日保安課長ヨリ第一方面外各署長ニ通報
本年四月別府分署ニ於テ第一方面會全會議ニテ議決事項中人力車軌營業者服裝ノ件ニ付甲號伺出ニ付乙號之通訓示相成候條爲御心得此段及御通報候也
甲號 廿二年四月廿八日

方面會議々決ニ付稟議拔萃

一營業人力車取締規則第廿條二項ニ着服ハ法皮股引或ハ半股引云々トアリ其半股引ハ膝ノ上マテヲ制限トナシ取締可然哉

乙號 廿二年四月三十日

半股引ノ裾膝頭ニ至ル者ハ伺之通

○保起第一〇四號 廿七年五月十四日

荷馬車ハ夜中燈火ヲ點スヘキ旨道路取締規則第十五條ニ規定有之候處近來無燈之者其他牛、馬、車ノ牽方繫方ヲ急ニスル者有之交通上危險ノ趣相聞不都合ニ付嚴重取締セラルヘシ

第四章 湯屋及染物竝ニ屑買

第一款 湯屋取締規則

○本縣甲第五十四號 十八年七月六日

湯屋取締規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

但從來營業ノ者ハ來ル八月十五日限リ願出鑑札ヲ受クヘシ

[別冊]

湯屋取締規則(廿三年縣令甲第二十六號)

湯屋營業者ハ此規則ヲ遵守スヘシ

湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ別紙書式ニ倣ヒ所管警察署又ハ分署ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

但浴湯ヲ新築改造シタルルハ所管警察署又ハ分署ヘ届出其検査ヲ受ケ認可ヲ得タル後ニ非ラサ

レハ營業ヲ爲スヲ許ルサス藥湯營業者又全シ

第三條 藥湯營業ヲナサントスル者ハ賣藥規則ニ依リ許可ヲ受ケタル證書ヲ添へ前條ノ手續ニ依

リ願出ヘシ

第四條 鑑札ヲ毀損遺失シ又ハ事故ニ依リ鑑札面ニ異動ヲ生シタルルハ其事由ヲ詳記シ更ニ鑑札

下付若クハ書換ヘテ願出ヘシ

第五條 廢業ノ節ハ鑑札相添へ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第六條 鑑札ハ賣買貸借讓與スルヲ許サス

第七條 火焚所ノ周圍并天井裏及煙筒ハ不燃質ノ物ヲ以テ構造シ所管警察署又ハ分署ノ検査ヲ受

クヘシ但一ヶ月以上定日ヲ設ケ掃除ヲナスナシ

第八條 浴槽并ニ洗場及ヒ衣類脱場ハ男女ノ區域ヲ設クヘシ

第九條 前條ノ場所ハ往來ヨリ見ヘサル様目隠シヲ設クヘシ

第十條 洗湯藥湯ハ汚濁不潔ノ水ヲ用ユヘカラス但洗湯ハ毎日其湯ヲ新ニスヘシ

第十一條 浴槽洗場并器物ハ日々清潔ニ洗滌スヘシ

第十二條 洗場ノ溝ハ石又ハ板漆喰等ヲ用ヒ汚水ノ溜滯セサル様時々掃除スヘシ

第十三條 湯ノ温度ハ華氏ノ檢温器百二十度ヲ超ユヘカラス

第十四條 夜十二時ヲ限リ入浴ヲ止ムヘシ但烈風ノ節ハ時限ニ拘ハラス休業スヘシ

第十五條 藥湯ハ其効能禁忌等ヲ浴湯竝戸外ニ揭示スヘシ

第十六條 湯錢ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十七條 營業中ハ見張ヲナシ浴客ノ衣類所持品等ニ注意スヘシ

第十八條 衣類等ヲ拘リ易ヘ又ハ竊取セントスル者ヲ見認メタルルハ其者留置キ直チニ所管警察

署又ハ分署或ハ巡行ノ巡查ニ訴出ヘシ

第十九條 浴客ノ遺留品ニシテ五日以内物主相分ラサルルハ所管警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第二十條 本則第七條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘

留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

(四五三)

本則第二條第三條第四條第五條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

藥湯營業鑑札願

大分縣何郡何(町村)何番地士族
(他府縣ヨリ寄留ノ者ハ左ノ如ク認ム)
何府縣何郡何(町村)何番地士族
當時大分縣何郡何(町村)何番地平民
又ハ何某方)寄留

私義自宅(又ハ寄留所或ハ何郡何(町村)何番地何ノ某方借受)ニ於テ(藥湯、湯屋)營業仕度候ニ付鑑札御下渡被成下度此段奉願候也

年 月 日

右
何ノ誰印
(借家營業ノ者ハ家主連印スヘシ)

前書之通願出候間與書候也

年 月 日

第二款 湯屋取締取扱心得

○諸署第四四七號

十八年七月十八日

戸長 何ノ誰印

今般甲第五十四號ヲ以テ湯屋取締規則御布達相成候ニ付テハ取扱心得左之通相定候條此旨及達候也

第一項 湯屋取締取扱心得
洗湯藥湯營業人ハ各別ニ臺帳別紙用紙ヲ調製スヘシ但用紙ハ本署ニ請求スヘシ
第二項 規則第二條及ヒ第三條ノ願出アリタル片ハ差支ナキヤ否ヲ審案シ許可スヘキモノト見認ルル片ハ願書ニ左ノ如ク朱書押印シ臺帳ニ夫々登記ノ上式ニ準ヒ鑑札ヲ調製付與スヘシ
(朱書) 番號 (指令ノ番號)

願書ノ副本割
書面聽届鑑札下渡候事

但所管郡役所へ届出ノ上營業スヘシ

年 月 日

何 警察 署

印 署

臺帳割
洗湯藥湯免許鑑札
縣國郡町村
番地身分
氏名

裏
年 月 日
大分縣
何 警察 署
又ハ何分署

(五五三)

第三項 規則第四條ノ願出アリタル片ハ其時々事由ヲ臺帳ニ明記シ前項ニ準シ夫々取扱可シ但規則第五條ノ届アリタル片ハ臺帳ニ記入ス可シ
第四項 規則第七條ノ申出アリタル片ハ實地ニ臨ミ成規ニ抵觸セサルヤ否ヲ検査ス可シ但成規ニ觸ル、所アル片ハ改造セシム可シ
第五項 規則第八條以下ニ抵觸セサルヤ否臨時監査シ尙不潔ナラサル様掃除方ニ注意セシム可シ
第六項 洗湯藥湯營業人數及開廢業トモ毎年末輕易ノ表ヲ調製シ本署ニ報告ス可シ

鑑札ノ年月日	明治 年 月 日	鑑札請取人印	印	鑑札返納年月日	明治 年 月 日	領收主任ノ印	印
参考トナルヘキ事項							
内書入欄							

第貳號式

(行商鑑札ハ此式ニ做フ可シ)

表 臺帳 印	第何號「臺帳ト同番號ヲ記ス」	裏	大分縣 何々警察署
免許鑑札	大分縣何郡何町村何番地身分 氏名	年 月 日	(又ハ何警察分署)

第三條 鑑札ノ書換又ハ再渡ヲナスルハ臺帳ニ其事由ヲ記入ス可シ但廢業ヲ届出タルトキハ其旨ヲ記シ朱抹スヘシ

第四條 臺帳用紙並居商鑑札用紙ハ本部ニ於テ摺立下渡スヲ以テ請求ス可シ

第五章 度量衡

第一款 度量衡法

○法律第三號 二十四年三月二十三日

度量衡法

第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金「イリヂウム」合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度	尺ノ萬分ノ一	厘	尺ノ千分ノ一	分	尺ノ百分ノ一
寸	尺ノ十分ノ一				
尺					
丈	十尺	間	六尺	町	三百六十尺(六十間)
里	一萬二千九百六十尺(三十六町)				
地積					
畝	步ノ百分ノ一	合	步ノ十分ノ一	步	或ハ坪 六尺平方
斗	升ノ百分ノ一	段	三百步	町	三千步
升	斗ノ十分ノ一	合	升ノ十分ノ一	升	六萬四千八百廿七立方分
石	斗ノ十分ノ一	石	百升		

合	〇、一八〇三九 (十三萬三千一百分ノ)	「デシリットル」	〇、〇五五四四 (二十四萬〇一百分ノ)
升	一、八〇三九一 (十三萬三千一百分ノ)	「リットル」	一、五五四三五 (一萬三千三百一十分ノ)
斗	一、八〇三九〇七 (十三萬三千一百分ノ)	「デカリットル」	五、五四三五二 (十三萬二千一百一十分ノ)
石	一、八〇三九〇六八 (十三萬三千一百分ノ)	「ヘクトリットル」	五、五四三五二四 (一萬三千三百一十分ノ)
貫	三、七五〇〇〇〇〇 (三十七萬五千分ノ)	「ミリグラム」	〇、〇〇〇二七 (一萬五千分ノ)
匁	〇、〇三三五〇 (三三五分ノ)	「センチグラム」	〇、〇〇二六七 (一萬五千分ノ)
分	〇、三三五〇〇 (三三五〇分ノ)	「デシグラム」	〇、〇二六六七 (一萬五千分ノ)
厘	三、七五〇〇〇 (三十七萬五千分ノ)	「グラム」	〇、二六六六七 (二萬六千六百七十)
毛	三、七五〇〇〇〇〇 (三十七萬五千分ノ)	「デカグラム」	一、六六六七 (一萬六千六百七十)
斤	六〇〇、〇〇〇〇〇 (六萬分ノ)	「キログラム」	一、六六六七 (一萬六千六百七十)

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ
地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出
免許ヲ受クヘシ
製作ノ免許ヲ得タル者ハ修繕及販賣ヲナスコトヲ得
免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
販賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノニ限り修繕ヲ爲スコトヲ
得

第九條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢
定ヲ受クヘシ
營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修繕シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受ク
ヘシ

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貧院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證
明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス
製作者修繕者及販賣者桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修繕ヲ爲シタルトキハ其
ノ檢定ヲ受ケルコトヲ要セス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小定限ハ勅令

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ
地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出
免許ヲ受クヘシ
製作ノ免許ヲ得タル者ハ修繕及販賣ヲナスコトヲ得
免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
販賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノニ限り修繕ヲ爲スコトヲ
得

第九條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢
定ヲ受クヘシ
營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修繕シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受ク
ヘシ

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貧院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證
明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス
製作者修繕者及販賣者桿秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修繕ヲ爲シタルトキハ其
ノ檢定ヲ受ケルコトヲ要セス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小定限ハ勅令

(四六三)

- ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス
地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得
- 第十二條 度量衡器ノ製作者、修覆者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證票ヲ携帶シテ之ヲ示スヘシ
- 第十三條 度量衡器ノ製作、修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ
- 第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得
- 第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修覆シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ
- 第十八條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第十九條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス
- 第二十一條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得
- 第二十二條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス
- 第二十三條 從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル
- 第二十四條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

第二款 度量衡ノ種類形狀及物質

○勅令第七十七號 廿四年八月十八日 度量衡器ノ種類及物質(畧ス)

第三款 度量衡法施行規則

○農商務省令第十一號 廿四年八月十九日 度量衡法施行規則(抜萃)

愛媛縣	エヒ	沖繩縣	沖
高知縣	高		

第八條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其ノ器ノ檢定ヲ受クヘシ

(五六三)

第三章 免許

第三十三條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記スヘシ
度量衡法第八條第三項ニヨリ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ヲナサントスル者ハ本條ニヨリ豫メ其ノ設計ノ承認ヲ受クヘシ

第三十五條 免許料ノ納入ヲナシタルトキハ免許狀ヲ下付スヘシ
免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀ノ受領ノ日ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第七十七號

第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ
免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ

其ノ下付ヲ請フヘシ

第三十九條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ

第四十條 度量衡器ノ製作若ハ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地製作ノ免許ヲ受タル者ハ其原器ヲ製作スルコトヲ得

桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ヲナス販賣者ハ其修覆ニ要スル分銅及秤架ヲ製作若ハ修覆ニ用井ル原器及前項ノ分銅ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十一條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ表記ニ用井ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出スヘシ

第四十四條 度量衡器法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取緒及錘絲ノ修覆ヲナシタルトキ差狂アリト認ムルニ於テハ其ノ旨ヲ地方廳若クハ市長町村長ニ届出ツヘシ

罰則

第四十五條 第八條第三十三條第二項及第四十四條ニ違背シタル者ハ拾五圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十五條第三項第三十九條若ハ第四十一條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第四十條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四款 度量衡取締規則及西洋形權衡

○縣令甲第五號 廿六年一月十七日

度量衡取締規則 (零ス)

○農商務省訓令 廿五年十一月十二日
西洋形權衡検査手續 (零ス)

第六章 會社及市場

第一款 國立銀行條例

○布告第百六號 九年八月一日

國立銀行條例 (零ス)

第二款 銀行條例

○法律第七十二號 二十三年八月廿三日

銀行條例 (零ス)

第三款 銀行條例施行細則

○大藏省令第七號 二十六年五月一日

明治二十三年法律第七十二號銀行條例施行細則左ノ通相定ム
銀行條例施行細則 (略ス)

第四款 貯蓄銀行條例

○法律第七十三號 廿三年八月廿三日

貯蓄銀行條例 (略ス)

第五款 兌換銀行券條例

○兌換銀行券條例

○第十八號布告 十七年五月二十六日

(別紙)略ス

第六款 取引所法

○法律第五號 二十六年三月三日

取引所法

第一章 取引所法ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其ノ倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 取引所ノ會員株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免許ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員、株主又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及停止中ノ者、復權セサル破産者及家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪、商業及農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若ハ赦免後二箇年ヲ經サル者及前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ

第十四條 免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十六條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人 理事 二人以上 監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其ノ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引、延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行為法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アルト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散 二 取引所ノ停止 三 取引所一部ノ停止若ハ禁止

四 役員ノ解職 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ

(二七三)

停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項及第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手數料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第五百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治二十二年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七款 取引所稅法

○法律第六號

二十六年三月三日

取引所稅法

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券

一 國債及地方債證券

賣買各約定代金高萬分ノ六箇
萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ

第五條 取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第六條 取引所稅金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日迄ニ納ムヘシ

第七條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其ノ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ詐リ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第九條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十九錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

附則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

第八款 取引所法施行規則

○農商務省令第十三號

十六年七月廿二日

取引所法施行規則左ノ通相定ム

取引所法施行規則(略ス)

第九款 株式會社組織

(三七三)

(四七三)

○勅令第七十四號

廿六年七月廿一日

第七章 營業罰則

第一款 酒造稅則

○布告第四十號

十三年九月廿七日

酒造稅則(零ス)

第二款 酒造稅則附則

酒造稅則附則

(十五年第六十一號) (十九年七月勅令第
布告ヲ以テ改正) (六十號ヲ以テ改正)

- 第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳へ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ
- 第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
- 第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス
- 第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス
 - 一 酒類受卸小賣營業者
 - 一 飲食店又ハ旅籠屋營業者
 - 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者
- 第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高一石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得ス
- 第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委托ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス
- 第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス
- 第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

(五七六)

- 第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ
- 第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス
- 第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡シタル者ニ同シ
- 第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

第三款 自家用料酒類製造者心得

○大令第二十七號

十九年八月廿四日

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

- 第一項 酒造稅則附則第一條ノ届書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ
- 第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘシ
- 第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
- 第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
- 第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル
- 第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四款 酒造稅則施行細則

○大藏省令第廿號

廿三年八月廿日

酒造稅則施行細則(零ス)

(六七三)

第五款 酒精營業稅法

○法律第十七號 廿六年四月廿日
酒精營業稅法(零ス)

第六款 酒精營業稅法施行細則

○大藏省令第十號 廿六年六月廿日
酒精營業稅法施行細則(零ス)

第七款 酢造稅

○布告第四十二號 十六年十二月十八日
酢造稅(零ス)

第八款 醬麴營業稅則

○布告第四十一號 十三年九月廿七日
醬麴營業稅則(零ス)

第九款 醬油稅則

○勅令第四十七號 廿一年六月十六日
醬油稅則(零ス)

第十款 醬油稅則施行細則

○勅令第四十七號 廿一年六月十六日
醬油稅則施行細則(零ス)

○大藏省令第九號 廿一年八月三日
醬油稅則施行細則(零ス)

第十一款 烟草稅則

○勅令第廿號 廿一年四月六日
烟草稅則(零ス)

第十二款 烟草稅則施行細則

○大藏省令第三號 廿一年四月廿六日
烟草稅則施行細則(零ス)

第十三款 菓子稅則

○布告第十一號 十八年五月八日
菓子稅則(零ス)

第十四款 茶業組合規則

○農商務省令第四號 廿年十二月廿九日
茶業組合規則

第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及ヒ生葉若シクハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス
第二條 茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムル目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之

(七七三)

ニ加入スヘシ

但自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメザルモ妨ナ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ茶業者少數ナル時ハ近隣郡區ノ

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及ヒ生葉

第五條 組合ノ名稱ハ何郡區茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニヨリ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其ノ業務ニ關シ組合及ヒ會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及ヒ聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アル時ハ其規約ヲ添

農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且其

費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責

任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ撰定シ組長ハ委員中ヨリ

之ヲ互撰スヘシ

但組長ヲ撰任又ハ改撰シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ノ撰任又ハ改撰シタルハ其

都度届出ヘシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アル時ハ規約ニ依リ處分スルコ

トヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタル時ハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 削除

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以

テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ撰定シ地方長官ノ認可ヲ受ク

ヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及ヒ中央會議所ノ規約ヲ以

テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ定員倍數ノ候補者ヲ撰定

シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但時宜ニヨリ組合員外ノ者モ雖モ撰擧スルコトヲ得

第廿三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第廿四條 役員ノ任期ハ二個年トス若シ役員其ノ任ニ適セザルハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改撰ヲ命スヘシ

但補充役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニヨルヘシ

第四章 會議

第廿五條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ハ二週日以内臨時會ノ會期ハ二週間以内トス若シ會期ヲ延長スルハ必要ヲ生シタル時ハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第廿六條 聯合會議ニ於テハ會議所々在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ニ關スル事項ヲ議定スルモノトス

但中央會議定時會ノ開期ハ二週日以内臨時會ノ會期ハ二週日以内トス若シ會期ヲ延長スルハ必要ヲ生シタル時ハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第廿七條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ撰定シ中央會議ニ議員ヲ聯合會議議員之ヲ撰定ス

第廿八條 中央會議ノ議員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限

一 茶園 壹町歩以上ヲ所有シ栽培スルモノ

一 製茶 五千斤以上ヲ製造スルモノ

一 製茶 二萬斤以上ヲ賣買スルモノ

第廿九條 前條ノ資格ニ該當スル者大キ地方ニ於テハ其ノ資格ニ最モ近キ者ヲ撰出スヘシ

第三十條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ產額又ハ開港地へ輸送額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 議員ノ任期ハ二個年トス補充議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニヨルヘシ

第三十二條 會議ハ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互撰スベシ

第三十三條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名并ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出スヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改撰ヲ命スルコトアル

第三十五條 會議ハ議員半數以上出席セザレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルハ半數以内ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十六條 議事ハ出席員過半數ニヨリ決ス可ク同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ據ル

第三十七條 各組合ノ規約其部内組合員中ヨリ委員ヲ撰定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

一 組合員ノ位置

一 組合員ノ證票

一 租懸不正茶取締方法

一 役員撰擧ノ方法

一 組合員入退者取扱ノ方法

一 違約者處分ノ方法

一 經費賦課徵收支出ノ方法

一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件

第三十八條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニヨリ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一 經費賦課徵收支出ノ方法

一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件

第三十九條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニヨリ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一 經費賦課徵收支出ノ方法

一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件

第四十條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニヨリ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一 經費賦課徵收支出ノ方法

一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件

- 一 聯合會議所ノ位置
 - 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
 - 一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
 - 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法
 - 一 聯合會議々員及ヒ事務員撰擧ノ方法
 - 一 聯合會議ニ關スル規程
 - 一 違約者處分ノ方法
 - 一 經費賦課徵收支出ノ方法
 - 一 其ノ他地方ノ情況ニヨリ必要ナル條件
- 第三十九條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 一 中央會議所ノ位置
 - 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
 - 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
 - 一 中央會議々員及ヒ事務員撰擧ノ方法
 - 一 會議ニ關スル規程
 - 一 經費賦課徵收支出ノ方法
 - 一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件
- 第六章 罰則
- 第四十條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上金廿五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五款 船稅規則

○布告第十三號 十六年四月十七日

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス
但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス
右奉勅旨布告候事

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

- 第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス
- 第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ
- 第三條 新製造船舶シタル者其定繫場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出検査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ
- 第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ト引換ヲ乞フヘシ
- 第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ト引換ヲ乞フヘシ
- 第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
- 西洋形蒸汽船 百噸ニ付一年金拾五圓
 - 同 風帆船 同 金拾圓
 - 日本形船積石五十石以上 百石ニ付同 金貳圓
 - 同 積石五拾石未滿 長^{自船梁}三間迄ハ一年金三拾錢
 - 同 積石五拾石未滿 長^{自船梁}三間迄ハ一年金三拾錢
 - 同 積石五拾石未滿 長^{自船梁}三間迄ハ一年金三拾錢
 - 同 積石五拾石未滿 長^{自船梁}三間迄ハ一年金三拾錢
- 但三間以上一間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船

長自船三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上者間ヲ加フル毎金貳拾五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船并舸漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フ

倉庫船 水田ノ耕作ニ用フル船 水災ノ爲メ陸地ニ備ヒ置ク船橋梁ニ換ヘ渡場

テニ用フル船 船橋ノ組成ニ用フル船 航海中本船ニ揚次置ク傳馬船

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收ス其前半年分

ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅

金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出

納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人

ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ納稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第十八條 此規則ヲ犯シ納稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充タル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船

ニ烙印ヲ受ケタル者ハ壹圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ

例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニテス

○刑第四四五號

船車稅則違犯ニシテ納稅ニ係ル者ハ繼續犯ナル乎將タ連續犯ナル乎ノ件今般別紙ノ通り法律諮問

會ニ於テ議決ス

右訓令

船車稅規則及ヒ車稅規則違犯ニ關スル御諮問ニ付具申

議ニ會議ニ付セラレタル船車稅則違犯ニシテ納稅ニ係ル者ハ繼續犯ナル乎將タ連續犯ナル乎ノ件

審議ノ末左ノ通り決定ス

抑船車稅規則上一一年ニ付金額若干ト制定アルヲ以テ年稅ノ性質ヲ有スルカ如シト雖モ其一年

ヲ二期ニ別テ每期其部分ヲ徵收シ且後半期ニ於テ新調スル者ハ其半期分ヲ徵收スルニ止メ全年分

ヲ徵收セサル等ノ點ヨリ之ヲ觀レ不其性質年稅カリト解釋セサル可ラス既ニ之ヲ半年稅トセン

カ其犯則脫稅ト稱スルモノハ即チ半年間ノ稅金連稅ヲ指スモノニシテ假令一年間脫稅スルモノト

ルモ之ヲ一罪ノ繼續スルモノト爲スニ能ハス況ンヤ數年間ニ及ブモノオヤ蓋シ其第一期即チ前